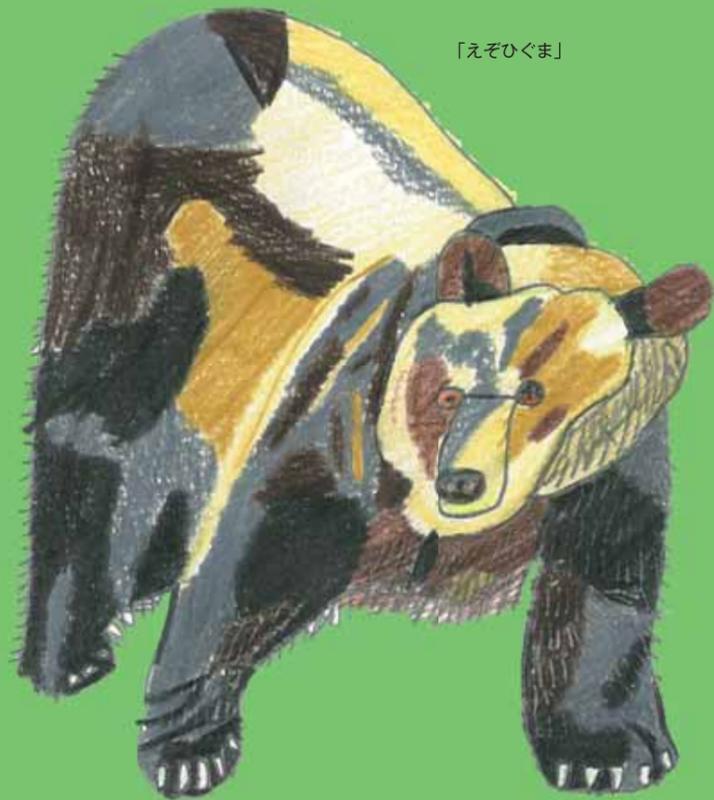


愛知県測量設計業協会は、障がいがありながらも自立を目指す才能のあるアーティストを応援します。

アート・福祉・地域活性・経済活動をつなぐ新しいかたちとして誕生した、アティックアートの活動の輪を社会に広げていきたいと思ひます。

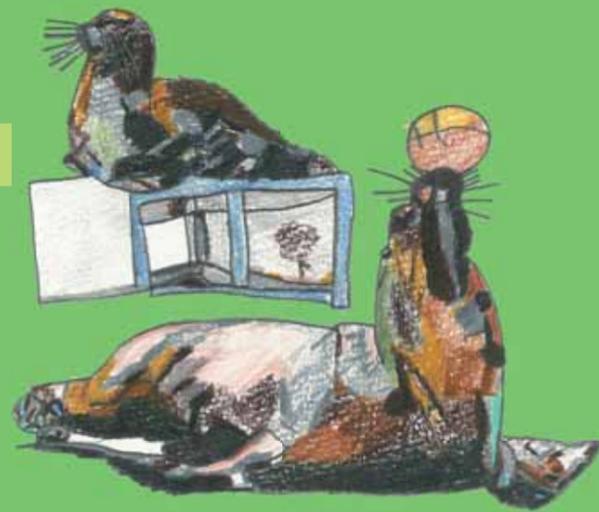
 愛知県測量設計業協会 ×  アティックアート



「えぞひぐま」



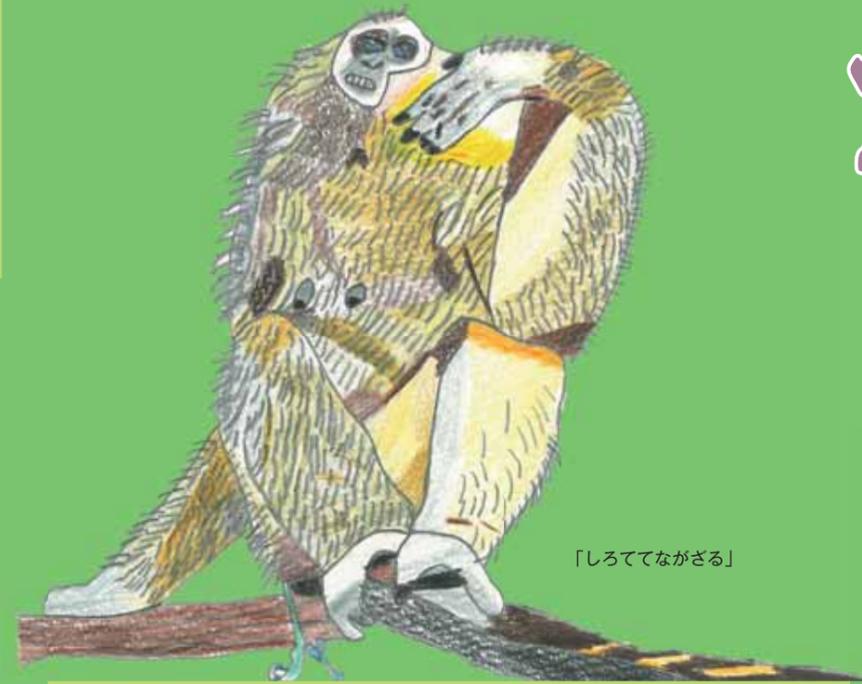
「セネガルカメレオン」



「カリフォルニアあしか」



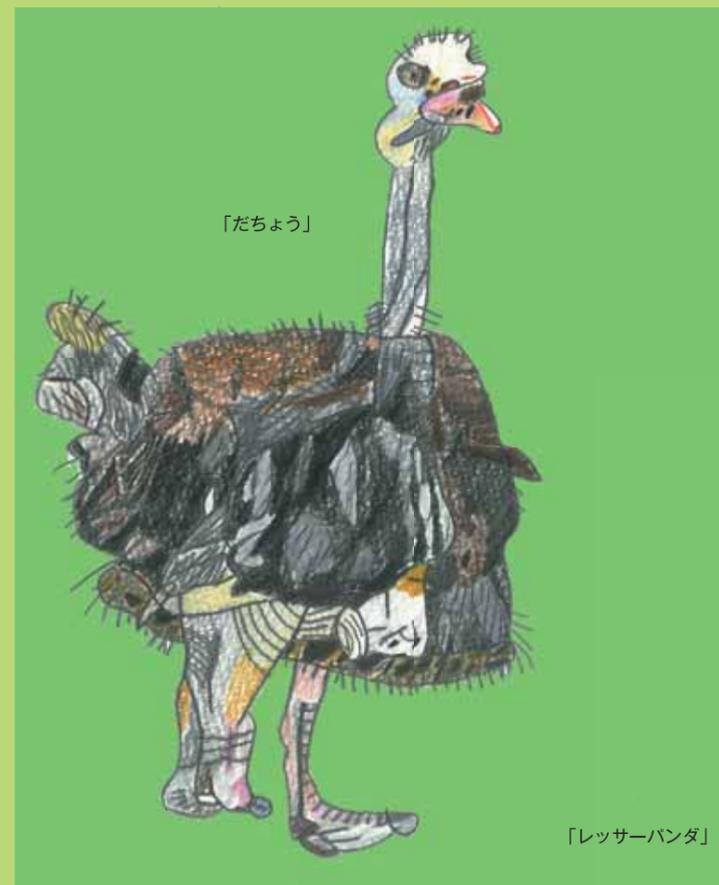
「ブラックバック」



「しろててながさる」



「へらさぎ」



「だちょう」



「レッサーパンダ」

方位

方
位

（第三十八号）

一般社団法人
愛知県測量設計業協会



愛知万博 10周年 Anniversary

第32回 全国都市緑化あいちフェア
32nd National Urban Greenery Fair Aichi

2015 花と緑の夢あいち

2015年9月12日(土)~11月8日(日) 会期中無休

メイン会場

愛・地球博記念公園
(モリコロパーク)
愛知県長久手市

開場時間 / 9:00~17:00

入場無料

同時開催

アヒカ博覧会
~ナウシカからマーニーまで~



第16回

全国障害者芸術・文化祭
あいち大会

平成28年12月9日(金)~11日(日)
[美術・文芸作品展は12月3日(土)~11日(日)]



私たちは、第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会を応援しています。

一般社団法人 愛知県測量設計業協会について

昭和49年11月、社団法人愛知県測量設計業協会は愛知県知事の認可を得て正式に発足しました。

「測量業」の生立ちは、昭和24年6月測量法の公布により、測量技術者の資格と担当範囲が制定され、ここに測量業者の誕生となり、昭和36年6月の測量法一部改正により、測量業の登録制度が法制化されました。

測量業者の組織では、昭和36年8月社団法人全国測量業協会が発足し、全国に8支部を設置。当地区にも中部支部が設置され活発な事業を展開しました。各県に会員が増加し、昭和42年8月支部内に愛知県支会が発足、地域独自の諸問題に対処してまいりました。その後、県内独自の組織の強化が叫ばれ、支会の公益法人化を目指し、昭和49年11月愛知県知事の認可により社団法人の資格を得、社団法人愛知県測量設計業協会が発足致しました。

「公益法人改革3法」が平成20年12月1日から施行されたことに従い、私共は

一般社団法人化を目指すこととしました。愛知県建設部の御指導を賜り、平成25年4月1日付けで移行許可を受けることができました。

今後とも、公益法人の自覚のもと、使命に基づき、測量設計無料相談所の設置運営、災害等緊急時協力体制の整備確立等の地域社会への貢献、会員の親睦と団結、技術の研鑽等の研修活動、各種要望、陳情活動、並びに協会の広報活動等々、協会の目的達成のために、幅広い活動を展開して参ります。

創立以来、関係機関の皆様からの厚いご支援、ご鞭撻のお蔭を持ちまして、当協会も順調に推移してまいりましたが、昨今の業界を取り巻く環境は厳しく、健全な発展を図る為に、更に一層のご支援、ご鞭撻をお願いする次第であります。

会員一同は、一致団結してこの難局に対処致し、地域社会への貢献、技術の向上、経営の安定化、社会的地位の向上等々に、尚一層取り組んで参りたいと存じます。

協会の主要な事業

- (1) 測量、調査、設計、技術等の向上の為研修及び講習会の開催
- (2) 測量及び設計業の技術及び経營業務の改善に関する調査研究
- (3) 災害復旧における技術援助計画の立案及び実施
- (4) 関係機関及び各種団体との連絡及び提携
- (5) 測量及び設計業の社会的使命に関する宣伝及び啓蒙
- (6) 県民無料測量及び設計相談所の開設
- (7) その他本会の目的を達成する為に必要な事業

「方位」第38号の刊行にあたって

(一社) 愛知県測量設計業協会

会長 二村 貴和

1年に1度、皆様にお届けしている『方位』ですが、第38号が完成し刊行することが出来ました。県民の皆様の1人でも多くの方が読まれ、社会資本整備の必要性を認識して頂くとともに、理工系の大学生、高校生の学術資料になればと、今回は2,000部を用意致しました。県内の全ての公立図書館・官公庁・大学・高校などで読んでもらえれば幸いと考えております。

特集では迫り来る東海・東南海・南海地震への備えを万全に行うための産官学の取組みをとりあげました。官からは第三次 あいち地震対策アクションプランについて、学からは災害のメカニズムについて、産からは建設コンサルタントエンジニアの備えと出動可否等の連絡ネットワークの早急な整備が求められていますが、その現状を紹介致します。

また、9月12日から開催されています第32回全国都市緑化あいちフェアについても特集を組みました。併せてフェアを記念し、愛知県内の主だった公園も紹介させて頂きました。フェアは11月8日まで開催されておりますので、県民の皆さんぜひ見学に行ってください。

美しい花々で心がいやされることと思います。

また、今回は愛知県建設部 市川部長様と愛知県議会 久保田議員様から巻頭言を頂戴いたしました。ご多忙な方に恐縮です。それでは皆様、時間の許す限りお読み下さい。

目次

一般社団法人 愛知県測量設計業協会について
刊行にあたって

巻頭言

刊行に寄せて	市川 育夫	3
刊行に寄せて	久保田浩文	4

特集1 第32回全国都市緑化あいちフェア

「第32回全国都市緑化あいちフェア」は魅力いっぱい	野々山宜尚	7
---------------------------	-------	---

特集2 第32回 全国都市緑化あいちフェア記念 ～愛知県内の主な公園紹介～

国営木曾三川公園	中村 孝	47
県営都市公園の概要と利活用の取組みについて	風間 一	55
名古屋市営公園	石黒 昭充	61
豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）	瀧川 直史	66
岡崎市営公園	市川 正史	68
一宮市営公園	今枝 靖和	70
春日井市営公園	岡島 達己	73
豊田市の都市公園	小沢 美博	76

特集3 産官学の取組み ～大災害発生時における対応について～

産官学・産の位置からの私の思い	廣瀬 博	81
「第3次あいち地震対策アクションプラン」について	柚谷 正樹	85
河川堤防はなぜ壊れて、どう守るか ～水害と地震～	前田 健一	94

公益事業への取組み

測量甲子園と題して	測量委員会	115
測量の日関連 地図教室と測量体験	測量委員会	121

会員紹介 【会員のPRコーナー】

株式会社葵エンジニアリング	126
株式会社オオバ	128
格株式会社新日	130
太栄コンサルタンツ株式会社	132
中日本建設コンサルタント株式会社	134

活動報告

総務委員会	139
広報委員会	142
測量委員会	145
建設コンサルタンツ委員会	148
協会活動報告（平成26年度～平成27年度上半期）	152

紹介

協会顧問のご紹介	179
一般社団法人 愛知県測量設計業協会 役員名簿	181
委員会名簿	182
一般社団法人 愛知県測量設計業協会 会員名簿 正会員	183
準会員	189
賛助会員	189
編集後記	巻末

表紙 揮毫「方位」…… 一般社団法人 愛知県測量設計業協会会長
二村 貴和

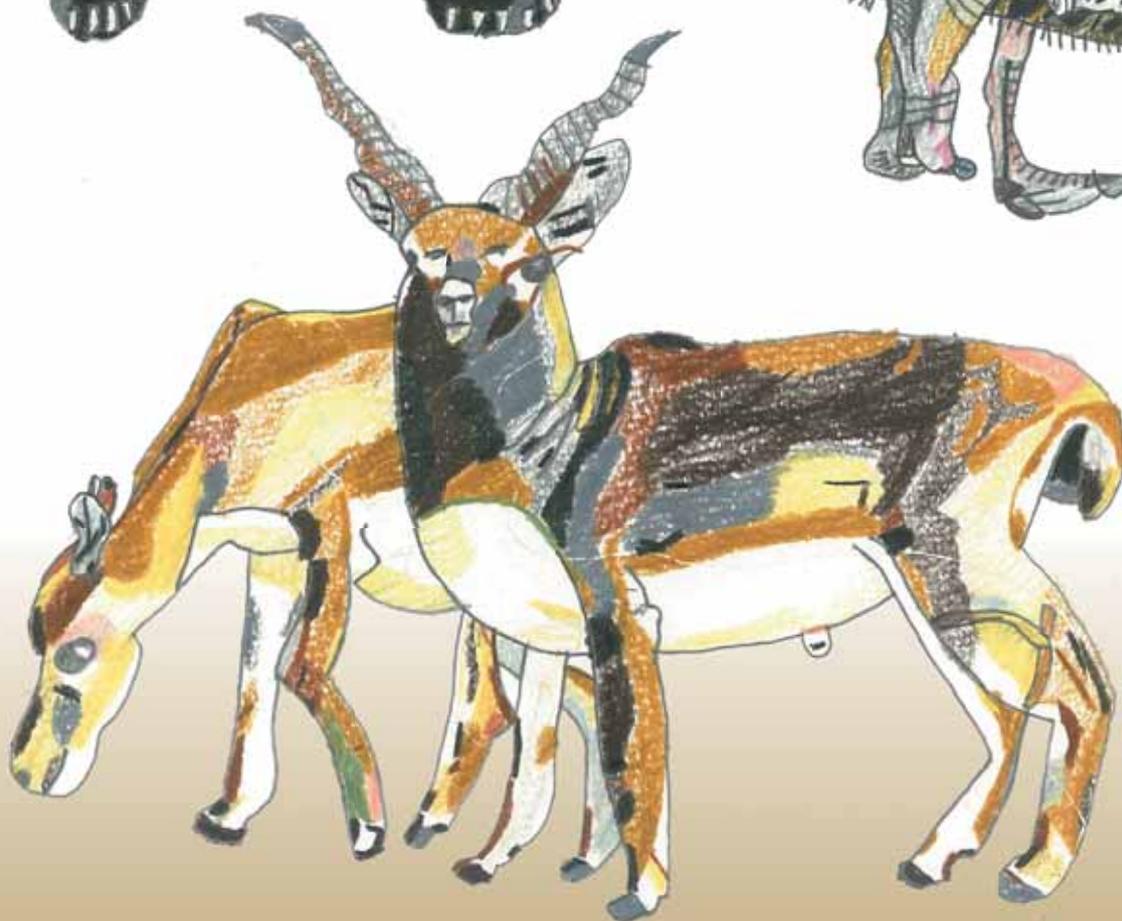
表紙（写真） だんだんボックス活動
我々は、障がい者支援活動を応援します。

表紙（内側） 第32回 全国都市緑化あいちフェア開催案内
開催期間 平成27年9月12日～11月8日

裏表紙（内側） 第16回 全国障害者芸術・文化あいち大会応援表明
開催期間 平成28年12月3日～11日

卷頭言

愛知県立半田特別支援学校 / 野澤将矢



巻頭言

愛知県建設部長

市川 育夫

愛知県議会議員

久保田 浩文



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。



刊行に寄せて

愛知県建設部
部長 市川 育夫

一般社団法人愛知県測量設計業協会の会員の皆様におかれましては、たゆまぬ努力と日頃の研鑽により、測量設計業の健全な発展に多大な貢献をされ、地域社会の繁栄に大きな役割を果たされておりますことに深く敬意を表すとともに、本県建設行政の推進につきまして格別の御支援、御協力を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、本県では、昨年12月、東日本大震災の教訓や南海トラフ沿いで発生する大規模な地震に係る新たな被害想定等を踏まえ、地震から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくりを目指して、平成27年度から平成35年度を計画期間とする「第3次あいち地震対策アクションプラン」を策定し、現在、これに基づき住宅・建築物の耐震化の促進、河川・海岸堤防の耐震化等の推進、緊急輸送道路等の橋梁の地震対策の推進等に取り組んでいるところです。

また、本年8月には、こうした取組も念頭におきつつ、国や県内市町村、民間事業者等の関係者相互の連携により、県民の生命・財産を守るとともに、中部圏の社会経済活動を確実に維持することが重要との認識のもと、地震・津波による災害を対象とする「愛知県地域強靱化計画」を策定しており、更に今年度中には計画を拡充して大規模自然災害全般を対象とする予定としております。

平成39年(2027年)にはリニア中央新幹線の東京－名古屋間の開業が見込まれています。リニア開業後の平成42年(2030年)を展望し、平成32年(2020年)までに取り組むべき重点的な戦略を明らかにした「あいちビジョン2020」(平成26年3月策定)も睨みながら、官民総力を結集して、強くしなやかな地域づくりを推進していかなくてはなりません。

既に、貴協会と本県は、県民の安心・安全に資する防災協定を締結するなどのお力添えを頂いておりますが、今後更にこうした取組を進めるにあたっては、地域を知る皆様方の測量、調査、設計の分野における確かな技術力、豊富な経験が大変重要であると認識しております。

今後とも、本県の建設行政に御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げます。

巻頭言



刊行に寄せて

愛知県議会議員
久保田 浩文

愛測協の皆様には、二村会長を中心とされ県内各地域の新たな時代を目指す地域づくりにご貢献いただいておりますことに心より敬意を表します。

我が国は、既に人口減少社会に移行しています。人口の増加が続いてきた愛知県も2020年（749.5万人）をピークに減少に転じると予測されています。迫りくる人口減少社会にあっては魅力ある都市構造への転換と、既存インフラの老朽化への対応がまず求められます。

一方、2027年開業が予定されるリニア中央新幹線は、我が国の大都市構造を変える大変インパクトの大きなものであり、愛知の飛躍を目指すために最大限、その「効果」を活かしていく必要があります。

パワーアップしていく東京との関係、2020年東京オリンピックの開催効果の取組みなどを戦略的に考えながら、これからの愛知の地域づくりを進めていくことが肝要です。

愛知県は製造品出荷額42兆円を超え、37年連続日本一であり、「モノづくり」を中心とした産業の中核として、日本の成長を支えてきた地域です。

今後も厳しい国際競争に打ち勝つために、物流・交流拠点である、港湾や空港機能を強化するとともに、広域道路ネットワークなどの社会基盤をしっかりと整備・維持する取組みを進め、日本の活力を取り戻す大きな役割が求められています。あわせて経済・産業をさらに強くし、雇用を維持・創出することによって持続可能な地域社会を築き、特性・個性を活かした街づくりを支えていくために、我が自民党安倍内閣の最重要政策である「地方創生」にしっかりと取り組んでまいらなければなりません。

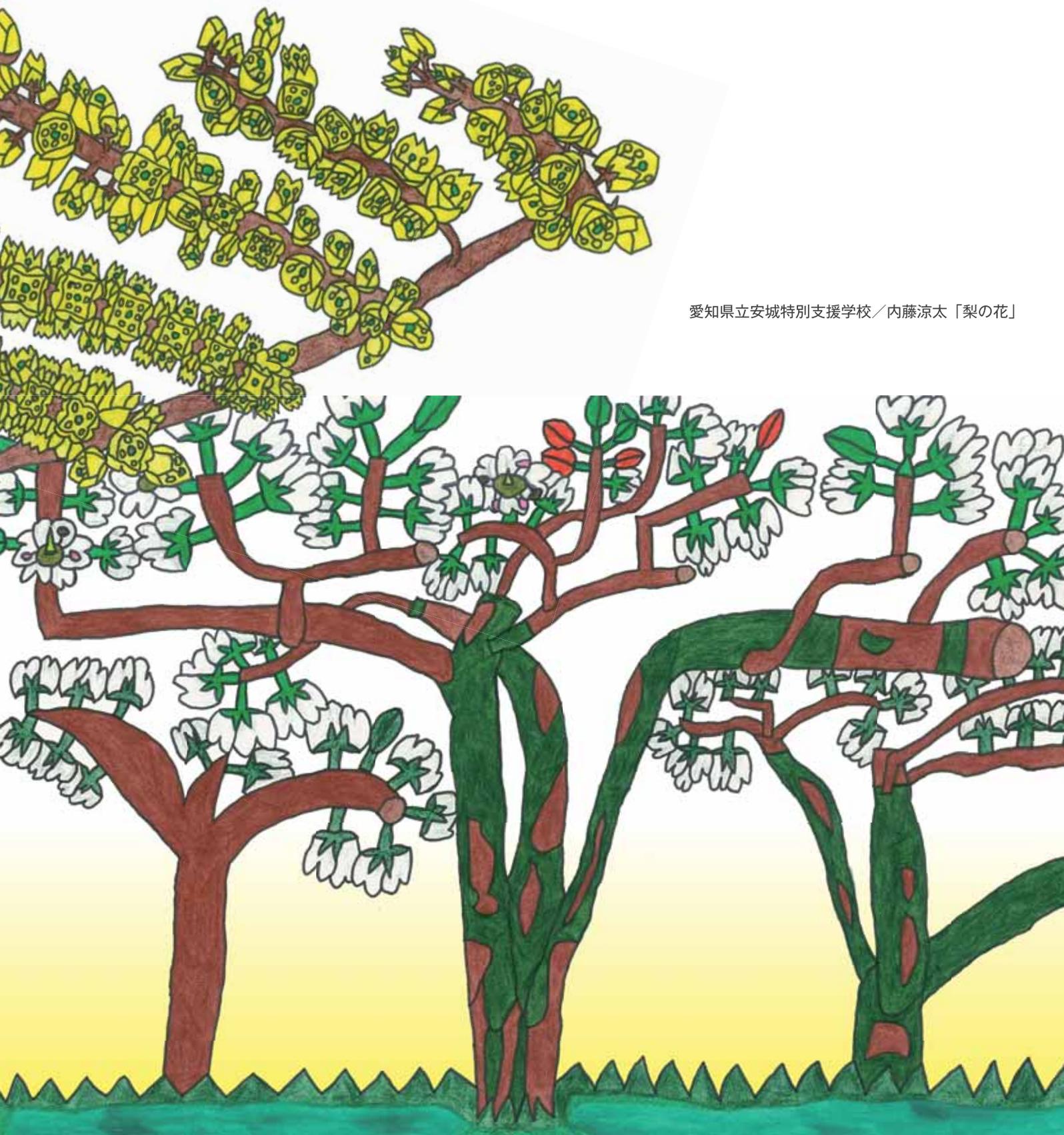
また、東日本大震災の復興とともに、切迫する巨大地震・津波、異常気象により頻発・激甚化する風水害、土砂災害への対応も大変重要であります。

政治の使命は、国家・県土の安寧と、国民・県民の生命と暮らしを守ることです。あらゆる危機に対して人事を尽くし、「県土の強靱化」を進めてまいります。

愛測協の皆様におかれましても、人材の育成と技術の向上に努めていただき、愛知の未来を拓くために、一層のご協力とご尽力をお願い申し上げましてご挨拶といたします。

特集 1

◆第 32 回 全国都市緑化あいちフェア



愛知県立安城特別支援学校／内藤涼太「梨の花」



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

特集 1 第 32 回 全国都市緑化あいちフェア

「第 32 回全国都市緑化あいちフェア」は 魅力いっぱい

愛知県 建設部 公園緑地課
全国都市緑化フェア推進室
室長 野々山 宜尚

1. はじめに

原稿を書いている現在は 8 月。冊子になるのは 10 月。現時点では「全国都市緑化あいちフェア（以下「あいちフェア」という）」がどのような状況になっているかは不明ですが、この投稿を読んでいただいた方が、あいちフェアに行きたくなるような、あいちフェアの魅力をお伝えしたいと思います。

そのため、あいちフェアの詳細な計画は別の投稿に譲り、ここでは私が魅力的に感じている内容を中心にお伝えしたいと思います。

2. あいちフェアの概要

- ・期 間：平成 27 年 9 月 12 日（土）～ 11 月 8 日（日）の 58 日間
- ・会 場：メイン会場：愛・地球博記念公園（モリコロパーク、「愛知万博」開催跡地）
サテライト会場：県内各地の公園や花の名所など。54 会場
- ・主催者：愛知県、（公財）都市緑化機構
- ・運営主体：第 32 回全国都市緑化あいちフェア実行委員会
- ・入場方式：メイン会場は無料を基本
- ・目標入場者数：あいちフェア全体で 100 万人以上（メイン会場は 70 万人）

3. あいちフェアの経緯

愛知万博から 10 年。その間には 5 周年目に「COP10」が開催され、「トリエンナーレ」が開催され、昨年は「国連 E S D の 10 年最終年會合」や「技能五輪全国大会」「全国障害者技能競技大会」が開催されました。

こうした流れの中、愛知万博から繋がる「環境と交流」を中心とした様々な取り組みがなされてきました。その延長線上にあいちフェアは位置づけされています。

一方で、愛知県は花の生産が昭和 37 年から 52 年間連続一位と言う「花の王国」でもあります。

そのため、大村知事就任後の平成 24 年度から毎年、県内各地で「あいち花フェスタ」を開催し、その集大成としてこのあいちフェアは位置づけられています。



図-1 会場概要図

4. あいちフェアの魅力

こうした経緯からこの「あいちフェア」に求められているものは、通常の都市緑化フェアの目的に加え、大きく分けて2つ、「花の王国あいち」であり、「愛知万博10周年」であると考えています。

さらに言えば、「愛知万博10周年」と言う中でも、「万博からの継承」として「万博の思い出」「環境の取組」「フレンドシップ事業」や、万博以降も人気のある「サツキとメイの家」の10周年にかかるもの、万博から繋がる「県民協働（緑はつなぎ手）」もあると考えています。

それでは、それぞれの視点に立って「あいちフェア」の魅力についてお伝えしたいと思います。

5. 「花の王国あいち」(花の展示)

①屋外展示

屋外展示で主催者が用意する花は全て、愛知県で生産されたものである。約390種類、約41万鉢の花を会場いっぱいに展示している。

特に、愛知県にこだわって展示するのはセンターエリアに造る「花の棚田」。



図-2 イメージ図「花の棚田」

奥三河の千枚田をモチーフに、季節の移ろいを表現した17枚の小花壇が次々と現れるよう設計されています。

約240種類、約12万鉢、面積4,300㎡の花植栽であり、中でも主役となる花をキク（スプレーマム）→ケイトウ→ポインセチアと植え替え、何度来ても新鮮な感覚をお届けいたします。

もう一つは、北入口を入れて正面にある「鏡の中の花畑」。幅11m高さ4.7mの施設で、約30種類、1万鉢の花畑であり、10人程のグループでもみんなで花畑の中にいる写真が撮影できます。思い出の一枚になること間違いなしです。



図-3 イメージ図「鏡の中の花畑」

②屋内展示

屋外展示が鉢花中心となるのと対称に、屋内展示では切花の展示が中心となります。「不思議な花空間」と題し、様々な空間を演出しながら花の魅力を最大限に表現いたします。

屋内空間を、「天吊り」「壁面緑化」「柱緑化」「トイレの癒し緑化」を行う他、「異空間に咲く花」と称して、花のない世界に花を咲かせたらどんな世界が表現されるのか、花の可能性にフローリストがチャレンジいたします。



図-4 イメージ図「不思議な花空間」

③緑化体験催事

花や緑を身近なものと感じていただき、あいちフェアのテーマでもある「緑のある暮らしの明日を愛知から」を実現するため、あいちフェアでは80種類以上、のべ250プログラム以上の体験催事を実施いたします。

会場は主に地球市民交流センター内の



図-5 イメージ図「マンガによる花贈り体験」

多目的室や屋内広場に設けるブースを使って開催されます。

寄せ植え教室、フラワーアレンジメント教室、花飾り製作、キッチンガーデンなど日々の生活に参考となる様々な体験催事を用意しております。

また、花贈りストーリーを漫画化し、ラストシーンの前で写真を撮ると、自分たちが主人公になれる、そんな「花贈り体験コーナー」(⇒図-5イメージ図「マンガによる花贈り体験」)もあります。

④「あいち花の交流ひろば」(農林水産部 園芸農産課、10/15～18)

花き生産者が丹精込めて育てた300点以上のあいちの花を一堂に集めたフラワーコンテストを行い、生産者と消費者の交流会、消費促進を図る目的で行われる。

キク、スプレーギク、バラ・洋花、鉢花、観葉植物、洋ラン・和物の6部門で品評会を開催する。

オリジナル品種による花装飾や日本一を支える栽培技術を紹介し、生産者が消費者に直接伝える講座も実施される。

6.「愛知万博10周年」(万博からの継承)

①第1楽章(9月12日(土)～27日(日))の取組

a. EXPOメモリアル催事(9/12～13)

世界5大陸の民俗芸能・音楽ステージのもと、広場ではグローバルマーケットや世界の料理が楽しめます。万博から活躍する市民団体(⇒写真-6「Sol Ban Ban」)がメモリアルステージを披露したり、ブース出展します。



写真-6「Sol Ban Ban」

b. シンポジウムの開催(9/12、10/25)

「花と緑のリレーダイアログ」として2回のシンポジウムを企画している。

1回目は「My heart My EXPO」をテーマとし万博の思いを振り返る。出演者は、中村利雄氏、福井昌平氏、マリ・クロスティーン氏、古澤礼太氏の4人です。

2回目は「みどりはつなぎ手大交流」をテーマとし未来に向けた花緑のある豊かな街づくりを提案する。出演者は、涌井雅之氏、町田誠氏、天野麻里絵氏、近藤祐司氏の4人です。

②「愛知万博 10 周年記念博覧会展」(観光コンベンション課、9/13～27)

万博の感動を改めて思い返していただくことで、交流の促進や環境意識の向上につなげる目的で開催する。

市町村が保管する万博記念物品の展示を行う「10 周年記念博覧会展」

万博を想起させる物品や各国料理を提供する「メモリアルマーケット&フードコート」

万博の感動を再現する「メモリアルステージイベント」

などが開催される。

③「愛知万博 10 周年記念一市町村一國フレンドシップフェスタ」(国際課、9/26～27)

愛知万博と一市町村一國フレンドシップ事業を振り返り、地域の国際化を図る目的で開催する。

フレンドシップ交流事業を紹介する「メモリアルブース展示」

フレンドシップ相手国の民俗舞踊や民族音楽の演奏を行う「ステージイベント」

在住外国人に加えてご当地アイドルなども参加する「民族衣装ファッションショー」

などが開催される。

④「インタープリター世界大会」(環境活動推進課、10/11～12)

万博 10 周年という節目に国内外のインタープリターを招き、本県の目指す「環境首都あいち」を支える「人づくり」につなげる目的でイベントを開催する。

「県大講堂」では、世界 6ヶ国の活動紹介を行い、「もりの学舎」では、体感ツアーや自然素材工作教室などを開催する。

7. 「ジブリの大博覧会」(「サツキとメイの家」10 周年、9/12～11/8)

スタジオジブリとの連携は、「サツキとメイの家」も 10 周年であることがきっかけとなった。

愛知万博閉幕後、博覧会協会から譲り受けた「サツキとメイの家」を大切に活用してきた愛知県が、この機会にさらにスタジオジブリとの連携を強くしたいという企画を提案し、実現したものである。

スタジオジブリの作品はいずれも「自然と人間」をテーマとしており、あいちフェアのテーマとしても相通じるものであった。また、時期的にも最新作「思い出のマーニー」の企画展があったこと、スタジオジブリの設立 30 周年であったことも幸いであった。

タイアップが決まった後、運営の仕組、広報戦略など関係者(県・中日新聞・スタジオジブリ)が詳細に協議し、特別企画展の名称は「ジブリの大博覧会」に決まった。

「ジブリの大博覧会」は「思い出のマーニー×種田陽平展」と「ジブリの大博覧会展」
とで構成されております。(⇒図-7 チラシ「ジブリの大博覧会」)



図-7 チラシ「ジブリの大博覧会」

①「思い出のマーニー×種田陽平展」

「思い出のマーニー」の夢と現実の間でたゆたう魅惑の世界。本作は実写映画の美術監督である種田陽平氏が初めてアニメーションの美術監督を務め、映画に描かれたマーニーの部屋、幻想的なジオラマや背景など「映画の美術」を丸ごと楽しむことができます。

②「ジブリの大博覧会展」

「ジブリの大博覧会展」は「風の谷のナウシカ」から「思い出のマーニー」までスタジオジブリ 30 年の歴史を振り返る貴重な資料が展示されます。

大トトロが出迎え、ポスターやチラシといった広告物を中心に制作資料、企画書といった未公開資料を含む 3,000 点もの資料を所狭しと展示し、最後には、ネコバスと記念写真が撮れるコーナーを設けました。トトロが大好きな方々には、見逃せない内容となっています。

8. 「緑はつなぎ手」(県民協働)

愛知万博を多くの方々の力により成功に導いた愛知県だからこそ、「緑はつなぎ手」と

して参加の多様化・増大により、「みんなで成功させる緑化フェア」を目指すこととなった。その形として、「公園マネジメント会議」他、様々な形での参加・協力が行われることになった。

①公園マネジメント会議

閉幕後の公園を県民協働で運営していく仕組として「公園マネジメント会議」が設立された。

今回のフェアに向けて、団体からの自主的な提案により、「あいちフェア市民村」が開催されることとなった。

「あいちフェア市民村」では、普段はそれぞれ活動する団体がそれぞれの得意分野を生かし協力し、ディレクター会議を中心に手作りの会場設営・運営を行っている。「万博の記憶」「緑の軌跡」「未知との出会い」の各コーナーを設け、多様な活動を広く体感・体験できるユニークな企画となっている。

②持込型行事

愛・地球博記念公園では、開園後、徐々に多くの催事が開かれるようになった。当初は、「夜まつり」「春まつり」「秋まつり」など公園管理者が主催するイベントが中心であったが、万博の「環境」や「交流」をテーマを受継いだ公園だからこそ、その特性を活用し様々なイベントが開催されるようになった。



写真-8 イメージ写真「うまいものガーデン」

「愛フェス」「東海エコフェスタ」「サイクルフェスティバル」「花と緑の夢マラソン」「うまいものガーデン」(⇒写真-8 イメージ写真「うまいものガーデン」)など、多く催事がこのフェアに協力して開催されることになった。

③サテライト会場、ふれあい拠点

都市緑化フェアの目的として、都市緑化を広く普及することが重要であり、会場を多く設けることも一つの方法である。あいちフェアでは当初、共に行う「サブ会場」を市町村に募ったが、残念ながら手が上がることはなく、県は次の方法として、改めて「サテライト会場」の協力を市町村に依頼した。サテライト会場はそれぞれが自主的に花や緑の見ど

ころを紹介する空間であり、31市町を含む54の会場から協力を頂くことができた。

それぞれの詳細は、別頁（⇒「サテライト会場一覧」）で紹介させていただいている。そちらをご覧ください。

さらに、フェア期間中に緑化活動に取り組む団体が県内で実施する花や緑の活動場所の中から地域を代表するものを「ふれあい拠点」として広く紹介することとした。

④ボランティア活動

愛知万博では延べ3万6,000人ものボランティアが参加し、高いホスピタリティを実現し、世界中から様々なお客様をお迎えしました。そのため市民万博と呼ばれ、ボランティア活動が高く評価された万博でもあった。その財産としてこの地域には多くの経験者が残っており、再びボランティアの力を借りて開催することとした。

ボランティアは活動内容により4つのボランティアに分けて募集した。本番に向け、2回以上の研修を受けていただき、基本的に5日以上活動を行っていただくこととした。非常に多くの応募があり、延べ2,500人の方の協力を得ることができた。

a. ボランティアリーダー（20名）

- ・ボランティアの支援、活動サポートを行い、ボランティアセンターの運営補助をしていただく。

b. ガイドツアーボランティア（50名）

- ・フェアの見所を案内する会場内ツアーの企画、ガイドを行う。
- ・具体的には、学校や団体等にガイダンスを実施する。

c. 花と緑のボランティア（250名）

- ・花がら摘みや除草、水やりや清掃など植物管理のサポートをしていただく。

d. 来場者サポートボランティア（200名）

- ・会場の案内とバリアフリー対応のサポートを行っていただく。

⑤あいちフェア応援制度（PRサポーター、応援事業）

フェアを広く知っていただくため、次の応援制度を設けることとした。

a. PRサポーター

- ・個人や団体を対象に登録していただくと、フェア専用のロゴマークを使用でき、ホームページで名前を紹介する制度。
- ・これまでに170以上の個人団体が登録されています。

b. 応援事業

- ・フェアと一緒に開催機運を盛上げる事業・イベントに登録していただくと、フェア専用

のロゴマークを使用でき、ホームページで紹介をする制度。

・これまでに 60 以上の事業等が登録されています。

⑥協賛・協力（資金協賛、物品協賛、出展協賛、等）

地域の「産・学・官」が一体となって盛上げ、成功裡に閉幕を迎えた愛知万博を習い、再び地域が一体となって魅力溢れるフェアとするため、企業・団体の協賛・協力を募ることとした。

企業の関連、説明順序等に気を配りながら、手探りで対象を広げ、900 社程度に連絡をとり、100 社程度から協賛・協力を得ることができた。

その中の高額協賛に対しては、ホームページ、ポスター・チラシ等で告知することとした。

9. おわりに

結局は盛りだくさんの内容になってしまった。振り返ってみると、表面的な内容だけでなく準備段階で相当幅広い調整があり、大変であった。私が常々言い続けてきた担当者へのお願いは3つ。

「チームワークを大切に」、

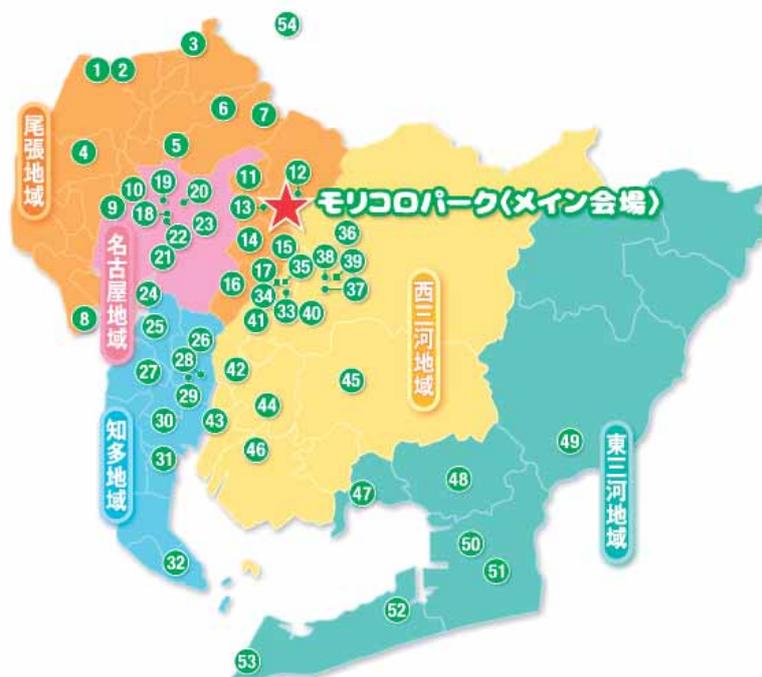
「判断に困ったらお客様視点で考える」、

「職員の健康」

の3つである。

結果として、各担当が非常に精力的に行動し、情報共有を心掛け進め、順調に準備を進めることができたと考えている。非常に優秀な担当者に恵まれ、幸運であった。後は、事故なく閉幕を迎えることを祈りたい。

第32回全国都市緑化あいちフェア サテライト会場（54会場）



第32回全国都市緑化あいちフェア サテライト会場一覧

1	国営木曾三川公園138タワーパーク	28	東浦町役場と於大公園
2	国営木曾三川公園フラワーパーク江南	29	東浦自然環境学習の森
3	犬山城下町	30	南吉の里(新美南吉記念館周辺)
4	稲沢公園	31	アサリ池公園
5	神明公園	32	観光農園花ひろば
6	小牧市総合公園 市民四季の森	33	さんさんの郷
7	春日井市都市緑化植物園(グリーンピア春日井)	34	みよし市役所
8	弥富野鳥園	35	三好公園
9	大治町スポーツセンター	36	愛知県緑化センター
10	清須市庄内川水防センター(みずとぴあ庄内)	37	とよたエコフルタウン
11	城山公園	38	都心のまちなか
12	瀬戸万博記念公園(愛・パーク)	39	豊田スタジアム
13	福祉の家周辺	40	ガーデニングミュージアム花遊庭
14	日進市北高上緑地	41	岩ヶ池公園
15	愛知牧場	42	フローラルガーデンよさみ
16	勅使水辺公園	43	明石公園
17	東郷町ふれあい広場	44	安城産業文化公園デンパーク
18	久屋大通公園(エンゼル広場)	45	岡崎公園
19	名古屋城・名城公園	46	西尾市歴史公園
20	徳川園	47	旭公園
21	白鳥庭園	48	赤塚山公園
22	久屋大通庭園 フラリエ	49	道の駅 もつくる新城
23	東山動植物園	50	豊橋駅(東西連絡通路)
24	名古屋港ワイルドフラワーガーデン ブルーボネット	51	豊橋総合動植物公園(のんほいパーク)
25	東海市芸術劇場及び太田川駅前広場	52	三河田原駅前広場及び駅周辺
26	大府市役所	53	伊良湖休暇村公園(いらごさららパーク)
27	佐布里緑と花のふれあい公園	54	花フェスタ記念公園

尾張地域

1 国営木曽三川公園三派川地区センター(138タワーパーク)



【開催期間】

10月24日(土)～10月25日(日)

【住所】

一宮市光明寺字浦崎 21-3

【会場概要】

”2015 いちのみや秋の緑化フェア”では、花の寄せ植え教室やガーデンコンテスト、苗木・花苗の販売、プレゼント、フリーマーケットなど様々な催し物を行います。

2 国営木曽三川公園フラワーパーク江南



【開催期間】

9月19日(土)～11月3日(火/祝)

【住所】

江南市小杵町一色

【会場概要】

9月19日(土)から11月3日(火/祝)まで「秋のガーデンパーティ」を開催中。会場内の花畑には、いろんな品種のコスモスなどのお花が楽しめます。

また、期間中にはコスモスの切り花展示もお楽しみいただけます。

尾張地域

3 犬山城下町



【開催期間】

10月3日（土）～10月18日（日）

【住所】

犬山市大字犬山字東畑 36

【会場概要】

歴史情緒あふれる犬山城下町を季節花々で彩ります。

3会場それぞれ趣の違う花木の展示をお楽しみください。

4 稲沢公園



【開催期間】

10月17日（土）～10月18日（日）

【住所】

稲沢市稲沢町下田 150-8

【会場概要】

稲沢公園は、公園内にある荻須記念美術館との調和を考慮し、「緑に囲まれた憩い」「緑の中での遊び」「緑の中での鑑賞」の場として多くの人に利用され、市民の憩いの場となっています。

尾張地域

5 神明公園



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

西春日井郡豊山町大字青山字神明
120-1

【会場概要】

県営名古屋空港に隣接する神明公園にバラを植えました。ボランティアの方々が植栽、剪定など、フェア期間中、美しく咲くよう活動しています。

6 小牧市総合公園 市民四季の森



【開催期間】

9月19日（土）～11月8日（日）

【住所】

小牧市大字大草 5786-1

【会場概要】

市民四季の森内の野草広場において、「春の七草」ではなく、ナデシコ・桔梗・オミナエシなどの「秋の七草」を実際にご覧になって楽しむことができます。

尾張地域

7 春日井市都市緑化植物園（グリーンピア春日井）



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

春日井市細野町 3249-1

【会場概要】

春日井市の東部丘陵地にある豊かな緑と自然が調和している中で、四季折々の植物が見られます。自然の中でゆったりと家族や友達同士で楽しむのに絶好の場所です。

8 弥富野鳥園



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

弥富市上野町 2-10

【会場概要】

野鳥観察をはじめ、野鳥の生息に必要な花や樹木など様々な自然を観察することができます。

尾張地域

9 大治町スポーツセンター



【開催期間】

10月16日（金）～10月21日（水）

【住所】

海部郡大治町大字北間島字藤田 33-1

【会場概要】

いつものスポーツセンターとは違った花の演出を楽しんでいただけます。また、サテライト会場期間の10月21日にはスポーツセンターにおいて、大治町制施行40周年記念式典を開催します。

10 清須市庄内川水防センター（みずとぴあ庄内）



【開催期間】

9月20日（日）～10月18日（日）

【住所】

清須市西枇杷島町北枇杷池 15-1

【会場概要】

庄内川河川敷に立地するみずとぴあ庄内、その施設内に新たな花壇を増設し、季節に応じた多種多彩な花を庄内川の緑あふれる河川敷風景とともにお楽しみください。

尾張地域

1 1 城山公園



【開催期間】

10月10日（土）～10月11日（日）

【住所】

尾張旭市平子町長池下地内

【会場概要】

市内唯一の総合公園で、運動施設や池などがあり、散策に適した自然の豊かな公園です。池の周りの散策路には多くの木々や花壇があり、四季折々の風景が楽しめます。

1 2 瀬戸万博記念公園（愛・パーク）



【開催期間】

10月9日（金）～11月8日（日）

【住所】

瀬戸市上之山町2丁目178-17

【会場概要】

会場内では市民参加のハンギングバスケットのほか、華やかな飾り花で色とりどりの季節の花や緑を楽しめます。また管理棟内では懐かしの万博グッズの展示、屋上では天水皿をバックにモリゾーキッコロと記念撮影のできるお花のスポットを設けています。

尾張地域

1 3 福祉の家周辺



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

長久手市前熊下田 170

【会場概要】

愛知県立芸術大学の学生とコラボした、アートと花を組み合わせたモニュメントや、コンテナガーデンを設置します。

1 4 日進市北高上緑地



【開催期間】

10月21日（水）～10月27日（火）

【住所】

日進市岩崎町北高上 10-1

【会場概要】

北高上緑地は市内中心部に位置し、住宅街の中にまとまった面積（総面積約 8.6ha）が残された貴重な里山林です。コナラなどの広葉樹や一団の竹林、コバノミツバツツジ群落、希少種であるモンゴリナラなど多様な森の景観が楽しめる緑地です。

尾張地域

15 愛知牧場



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

日進市米野木町南山 977

【会場概要】

愛知池の近くに広がる大牧草地で、名古屋近郊では珍しい本格的な牧場です。秋のコスモスが丘一面に咲き誇ります。

16 勅使水辺公園



【開催期間】

11月1日（日）

【住所】

豊明市沓掛町勅使 2-1

【会場概要】

勅使水辺公園は、自然豊かで四季を感じられる園路が2.7KM整備されウォーキングを楽しめます。

11月1日（日）には市民の皆さん・小学校の生徒のみなさんと育てた花で飾られ、ウォークラリーなど花や緑に触れられる企画をたくさん用意しています。

尾張地域

17 東郷町ふれあい広場



【開催期間】

11月8日（日）

【住所】

愛知郡東郷町大字春木字北反田 27

【会場概要】

会場中央の花壇は、町民の皆さんで植えたジニア、コスモス、ケイトウなど様々な季節のお花が楽しめます。

名古屋地域

18 久屋大通公園（エンゼル広場）



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

名古屋市中区栄三丁目

【会場概要】

季節の花々と緑に囲まれたフォトスポットを設置します。また、希望の広場では、フェアのシンボルマークをイメージした花壇をご覧ください。

名古屋地域

19 名古屋城・名城公園



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

※名古屋城は10月25日（日）～11月8日（日）

【住所】

名古屋城：名古屋市中区本丸

名城公園：名古屋市北区名城1-2-25

【会場概要】

名古屋城：名古屋城会場内では菊花大会を開催します。正門及び東門では菊人形をお楽しみいただけます。

名城公園：1988年に開催された都市緑化フェアのメイン会場である名城公園では、「オランダ風車」や「花の山」など園内各所で花と緑を楽しんでいただけます。



20 徳川園



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

名古屋市東区徳川町1001

【会場概要】

徳川園は池泉回遊式の日本庭園で、高低差の大きな地形を活かした滝や溪流を始め、変化に富んだ景観を大胆に切り替える構成によって大名庭園の「荘厳さ」が体感できます。また、新緑や紅葉、牡丹や花菖蒲など季節の花々も楽しめる庭となっています。

名古屋地域

21 白鳥庭園



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

名古屋市熱田区熱田西町 2-5

【会場概要】

一年を通して茶花を中心とした250種以上の多くの花が咲き、名古屋市内にありながら、四季折々の自然豊かな和の趣を感じられる貴重な空間となっています。

22 久屋大通庭園 フラリエ



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

名古屋市中区大須四丁目 4-1

【会場概要】

5つの屋外庭園と建物内のクリスタルガーデン、レストランやカフェ等を備えた庭園として昨年の9月にオープン。四季折々の花が咲く庭園で自然を感じるひとときを過ごすことができます。

名古屋地域

23 東山動植物園



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

名古屋市千種区東山元町 3-70

【会場概要】

緑豊かな森に囲まれた東山動植物園では、たくさんの動物や植物に出会い、自然の素晴らしさを体感することができます。期間中は、東山動植物園秋まつりを開催しており、様々なイベントで楽しんでいただけます。

24 名古屋港ワイルドフラワーガーデン ブルーボネット



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

名古屋市港区潮見町 42

【会場概要】

草花や美しい緑、水面の輝きや昆虫などを楽しみながら、四季を感じることできる「自然風庭園」です。園内には22のガーデンがあり、お庭づくりの参考になるように提案しています。期間中は、ルドベキアやセージ類などの草花に加え、ワイルドフラワーの秋の開花リレーもお楽しみいただけます。

知多地域

25 東海市芸術劇場及び太田川駅前広場



【開催期間】

9月28日(月)～11月8日(日)

【住所】

東海市大田町下浜田、後田

【会場概要】

太田川駅周辺を花や緑で飾ります。

10/25(日)には駅周辺施設を監修した岡田憲久教授による講演や、淡墨桜を通じて交流がある岐阜県本巣市の根尾中学校生徒とオカリナ奏者宗次郎のミニコンサートを開催します。

26 大府市役所



【開催期間】

9月13日(日)～9月20日(日)

【住所】

大府市中央町五丁目70

【会場概要】

会場には、壁面花壇や市民団体が作った花壇、たくさんのハンギングバスケットや寄せ植えを飾ります。スタンプラリーや花いっぱいフェアなどのイベントも開催します。

知多地域

27 佐布里緑と花のふれあい公園



【開催期間】

10月17日（土）～10月18日（日）

【住所】

知多市佐布里台3丁目101

【会場概要】

園内には、鉢花を四季折々に飾る観賞温室「花の館」の他、梅の庭にて25種類の梅の見本展示をしています。また、サテライト期間中は、ガーデニング、クラフト体験、フリーマーケット、ふれあい動物園の他、屋外ステージでのイベントなどを行う秋の公園フェスティバルも併せて楽しんでいただけます。

28 東浦町役場と於大公園



【開催期間】

10月19日（月）～10月24日（土）

【住所】

役 場：知多郡東浦町大字緒川字政所 20
於大公園：知多郡東浦町大字緒川字沙弥田
2-1

【会場概要】

東浦町役場庁舎及び於大公園このはな館では、多種多様な草花を植えた立体花壇等を設置します。

知多地域

29 東浦自然環境学習の森



【開催期間】

10月24日（土）

【住所】

知多郡東浦町大字緒川字大藪一区 10

【会場概要】

東浦自然環境学習の森は、昔ながらの里地里山環境が残る自然豊かな場所です。この緑豊かな環境の中での保全活動体験を通じて、自然にふれあい季節を感じることで、緑の魅力を存分に体感することができます。

30 南吉の里（新美南吉記念館周辺）



【開催期間】

9月19日（土）～10月4日（日）

【住所】

半田市岩滑西町周辺

【会場概要】

半田市岩滑地区は、「ごんぎつね」で有名な童話作家、新美南吉さんの生まれ故郷。童話に登場する原風景矢勝川堤一面に彼岸花が咲き誇ります。

知多地域

31 アサリ池公園



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

知多郡武豊町字山ノ神 135-1

【会場概要】

アサリ池は、親水公園として町民の憩いの場となっています。池の中に張り出した水上デッキがあり、散策路で池を一周できます。

32 観光農園花ひろば



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

知多郡南知多町豊丘高見台 48

【会場概要】

丘一面に広がるひまわりは11月末まで常時14万本咲いています。その他にも、ピンクと白のマツバボタンの絨緞、10月からはコスモスもお楽しみいただけます。

西三河地域

33 さんさんの郷



【開催期間】

9月12日（土）

【住所】

みよし市打越町三百目 153

【会場概要】

ふれあいフェスタの開催に合わせ、会場内にトピアリーを展示します。

34 みよし市役所



【開催期間】

9月14日（月）～10月9日（金）

【住所】

みよし市三好町小坂 50

【会場概要】

みよし市役所玄関ホールにてトピアリーを展示します。

西三河地域

35 三好公園



【開催期間】

10月11日(日)

【住所】

みよし市三好町池ノ原 1-1

【会場概要】

みよし市三好公園陸上競技場において開催される「市体育祭」会場内にトピアリーとミニガーデンを展示します。

36 愛知県緑化センター



【開催期間】

11月3日(火・祝)～11月8日(日)

【住所】

豊田市西中山町猿田 21-1

【会場概要】

紅葉や花壇の他、今年は地域の小学生等が育てたコスモスの花も楽しんでいただけます。

西三河地域

37 とよたエコフルタウン



【開催期間】

10月10日（土）～10月12日（月/祝）

【住所】

豊田市元城町3丁目11

【会場概要】

都市部から中山間地、山間地と広がる豊田市の特徴をコンパクトに表現し、暮らし、交通、産業など、さまざまな分野の最先端技術と世界に先駆けた快適な低炭素社会を体験できます。イベント開催時は「都市の緑を考える」企画等を予定しています。

38 都心のまちなか



【開催期間】

10月10日（土）～10月12日（月/祝）

【住所】

豊田市喜多町2丁目150

【会場概要】

豊田市駅前にインパクトのある大型緑化展示を行います。

都心で「緑」を体感し、触れてもらうことができます。

西三河地域

39 豊田スタジアム



【開催期間】

10月10日（土）～10月12日（月/祝）

【住所】

豊田市千石町7丁目2

【会場概要】

毎年春に開催している豊田市最大の花と緑のイベント「とよたガーデニングフェスタ」を今年は秋に「とよた都市緑化フェア」と同時開催します。お子様から大人まで楽しめるイベントになっています。

40 ガーデニングミュージアム花遊庭



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

豊田市大林町1-4-1

【会場概要】

花遊庭は1300坪の敷地に28のテーマ別ガーデンが作りされており、株式会社豊田ガーデンが設計・施工・管理しているお庭です。

西三河地域

4.1 岩ヶ池公園



【開催期間】

9月12日(土)～11月8日(日)

【住所】

刈谷市東境町吉野 55

【会場概要】

マリーゴールド、ガザニア、サルビア、ニチニチソウ、コキア、チミキリソウ、スイフヨウ等、多種多様な草花や花木が咲き乱れ、はなもも広場や親水広場、樹林地などを兼ね備えた、水・花・森の自然あふれる公園です。

4.2 フローラルガーデンよさみ



【開催期間】

9月12日(土)～11月8日(日)

【住所】

刈谷市高須町石山 2-1

【会場概要】

イングリッシュガーデンでは園内栽培した200種以上の様々な植物を楽しんでいただけます。無農薬有機野菜を中心に食材にこだわったメニューが人気の英国スタイルのガーデンカフェを併設。10月3日(土)～11月1日(日)はフローラルガーデン秋のガーデンフェアを開催します。

西三河地域

4.3 明石公園



【開催期間】

10月17日（土）～11月8日（日）

【住所】

碧南市明石町 6-11

【会場概要】

明石公園内の中央・カリヨンの塔の周辺が花で彩られます。

4.4 安城産業文化公園デンパーク



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

安城市赤松町梶 1

【会場概要】

会場内では、マリーゴールドやジニア、ケイトウ、サルビアなどを使った鮮やかな趣向を凝らしたガーデニングが楽しめます。

9月19日から11月3日は秋穫祭を開催し各種イベントが行われます。また、花の大温室でのハロウィンフラワーショーは必見です。

西三河地域

45 岡崎公園



【開催期間】

10月28日（水）～11月8日（日）

【住所】

岡崎市康生町 561-1

【会場概要】

会場内の園路にプランター、家康公にゆかりのある石像などに花のオブジェ、多目的広場の法面にフラワーウォールを設置し、岡崎公園を花で装飾します。

46 西尾市歴史公園



【開催期間】

10月3日（土）～10月11日（日）

【住所】

西尾市錦城町 231-1

【会場概要】

西尾市歴史公園は、市のシンボル「西尾城」の一部を再建・復元した公園で、花と緑に映える本丸丑寅櫓は必見です。

東三河地域

47 旭公園



【開催期間】

10月1日（木）～10月18日（日）

【住所】

蒲郡市旭町 468

【会場概要】

会場内は既存の花壇に加えて水上の立体花壇やプランターなどの多彩な花飾りが行われ来場者を魅了します。

48 赤塚山公園



【開催期間】

10月17日（土）～10月25日（日）

【住所】

豊川市市田町東堤上 1-30

【会場概要】

赤塚山公園は、総面積 25.1ha（名古屋ドーム約5個分）の総合公園で、乳幼児から年配の方まで、その目的に合った楽しみ方のできる公園です。

東三河地域

49 道の駅 もっくる新城



【開催期間】

10月24日(土)～11月1日(日)

【住所】

新城市八束穂字五反田 329-7

【会場概要】

駐車場法面に、花で描いた絵や文字が楽しめます。また、イベントスペースには、多種多様な品種の花を植えたプランターを設置します。

50 豊橋駅(東西連絡通路)



【開催期間】

10月1日(木)～10月25日(日)

【住所】

豊橋市花田町西宿

【会場概要】

さわやかな秋の風が花のかおりを運んできます。

そこへ花の妖精たちが舞い降りて、きれいに庭を飾りました。

妖精たちは楽しそうに踊りながら、街なかを花いっぱいになろうとしています・・・。

東三河地域

51 豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）



【開催期間】

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

豊橋市大岩町字大穴 1-238

【会場概要】

ここは青々とした木々が風に輝くようにうねる広大な森。動物たちも穏やかに暮らしています。今年のお秋、この森のあちらこちらで、やわらかな色の花々があふれるように咲き乱れます。

52 三河田原駅前広場及び駅周辺



【開催期間】

10月17日（土）～10月25日（日）

【住所】

田原市田原町東大浜 4-33

【会場概要】

三河田原駅前広場及び駅周辺でいろいろなお花が楽しめます。10月25日（日）にはハンギングバスケット及びコンテナガーデン教室を開催します。

東三河地域

53 伊良湖休暇村公園（いらごさららパーク）

**【開催期間】**

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

田原市中山町大松上1

【会場概要】

この地域特有の海浜性植物を植栽しており、季節によって様々な花が鑑賞できます。全国的にも数が少なく珍しいものもあります。9月27日（日）に「アウトドア・フェスタ」を開催します。

県外

54 花フェスタ記念公園

**【開催期間】**

9月12日（土）～11月8日（日）

【住所】

岐阜県可児市瀬田 1584-1

【会場概要】

世界最大級のバラ園を有する岐阜の県営都市公園。ナゴヤドーム17個分の広大な敷地では、約7千品種3万株のバラを植栽したバラ園のほか、季節の植物を使用したガーデンショーを行う大温室などがあり、一年を通してお楽しみいただけます。



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

深津敦史「フクロウがさくらにとんできた！」
深津敦史「お花畑」

◆第32回 全国都市緑化あいちフェア記念
～愛知県内の主な公園紹介～



第 32 回 全国都市緑化あいちフェア記念 ～愛知県内の主な公園紹介～

国営木曽三川公園 国土交通省中部地方整備局 建政部公園調整官 中村 孝

県営都市公園の概要と利活用のお取り組みについて . . . 愛知県建設部公園緑地課長 風間 一

名古屋市営公園 名古屋市緑政土木局緑地事業課長 石黒 昭充

豊橋総合動植物公園 (のんほいパーク)

. 豊橋市総合動植物公園部 動植物公園事務長 瀧川 直史

岡崎市営公園 岡崎市都市整備部公園緑地課長 市川 正史

一宮市営公園 一宮市建設部公園緑地課長 今枝 靖和

春日井市営公園 春日井市建設部公園緑地課長 岡島 達己

豊田市の都市公園 豊田市都市整備部公園課長 小沢 美博



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

国営木曾三川公園

国土交通省 中部地方整備局 建政部 公園調整官 中村 孝

はじめに

全国都市緑化フェアは、国民ひとりひとりが緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるための普及啓発事業として、昭和 58 年（1983 年）から毎年、全国各地で開催されている花と緑の祭典です。

平成 27 年 9 月 12 日（土）～ 11 月 8 日（日）には、「みどりのチカラを体感するフェア」など 4 つの基本方針のもとに、「第 32 回 全国都市緑化あいちフェア」が愛・地球博記念公園（モリコロパーク）にて行われており、国営木曾三川公園（フラワーパーク江南）も、サテライト会場の一つとして参加をしております。

今回、愛知県内の主な公園紹介として、国営木曾三川公園の花や緑の見どころなどを紹介させて頂くことで花と緑の祭典が更に盛り上がりとともに、期間中に行う「秋のガーデンパーティ」などの様々なイベントについても併せて紹介させて頂き、自然環境への理解や公園利用が促進することを期待しております。

「国営木曾三川公園基本計画」基本理念

【国営木曾三川公園が目指すもの】

自然環境への理解のために	歴史文化への理解のために	広域への貢献のために
<ul style="list-style-type: none">■ 河川特有の自然環境や生物多様性の保全・再生■ 木曾三川の豊かな自然や長大な河川空間を体験し、川や環境について学ぶ取り組み■ 国営木曾三川公園ならではの屋外活動の場の提供 	<ul style="list-style-type: none">■ 木曾三川にまつわる歴史文化やその周辺環境の保全・活用■ 木曾三川の歴史文化や人と川との関わりの大切さを学ぶ取り組み 	<ul style="list-style-type: none">■ 木曾三川の空間・自然・歴史文化資源のネットワーク形成、中部圏の骨格的緑地・河川■ 人々の広域的な交流の促進、にぎわいの創出、情報発信■ 地域の防災への協力、広域的な防災への対応 

【取り組みを進めるために】

より多くの人が、より楽しむ (レクリエーションの視点)	より深め、より広げる(参加と連携の視点)
<ul style="list-style-type: none">■ 利用者サービスやレクリエーション内容の向上■ 自然や歴史文化に触れるきっかけの提供■ 利用者の安全確保とユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none">■ プログラムの開発提供、指導者の育成■ 多様な主体との参画と協働■ 地域のまちづくりとの連携■ 公園の整備運営のモデルとなる取り組み

国営木曾三川公園

<概要>

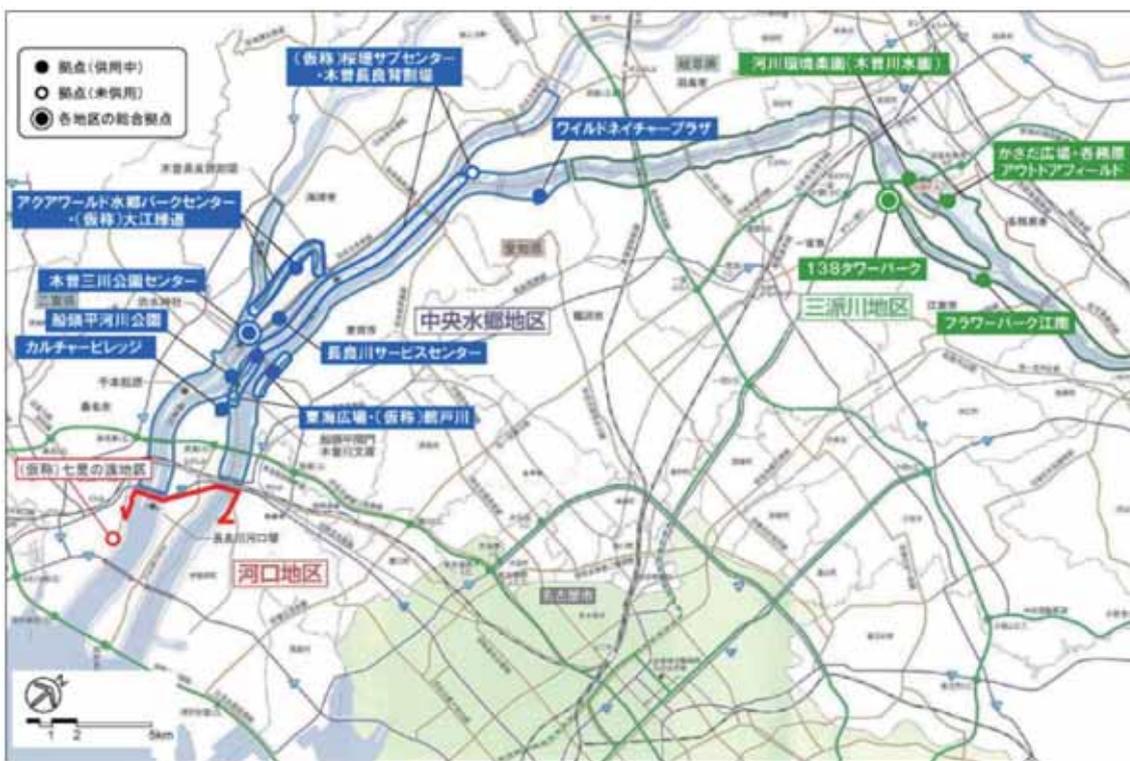
国営木曾三川公園は、木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川が有する広大なオープンスペースと豊かな自然環境を活用し、東海地方の人々のレクリエーション需要の増大と多様化に対

応するために設置された公園です。川や流域のもつ魅力である自然環境や歴史文化そして広域的な広がり・つながりを活かしながら、これを守り・感じ・楽しみ・学ぶ場として整備を進めております。

「国営木曾三川公園基本計画」では、国営木曾三川公園が目指すものとして「自然環境への理解」、「歴史文化の理解」、「広域への貢献」を、取組みを進めるために「より多くの人が、より楽しむ（レクリエーションの視点）」、「より深め、より広げる（参加と連携の視点）」を基本理念としております。

公園区域は、愛知、岐阜、三重の三県にまたがり、地域特性により上流から「三派川地区」「中央水郷地区」「河口地区」の3地区（計画面積約 6,100ha）13 拠点で構成されております。

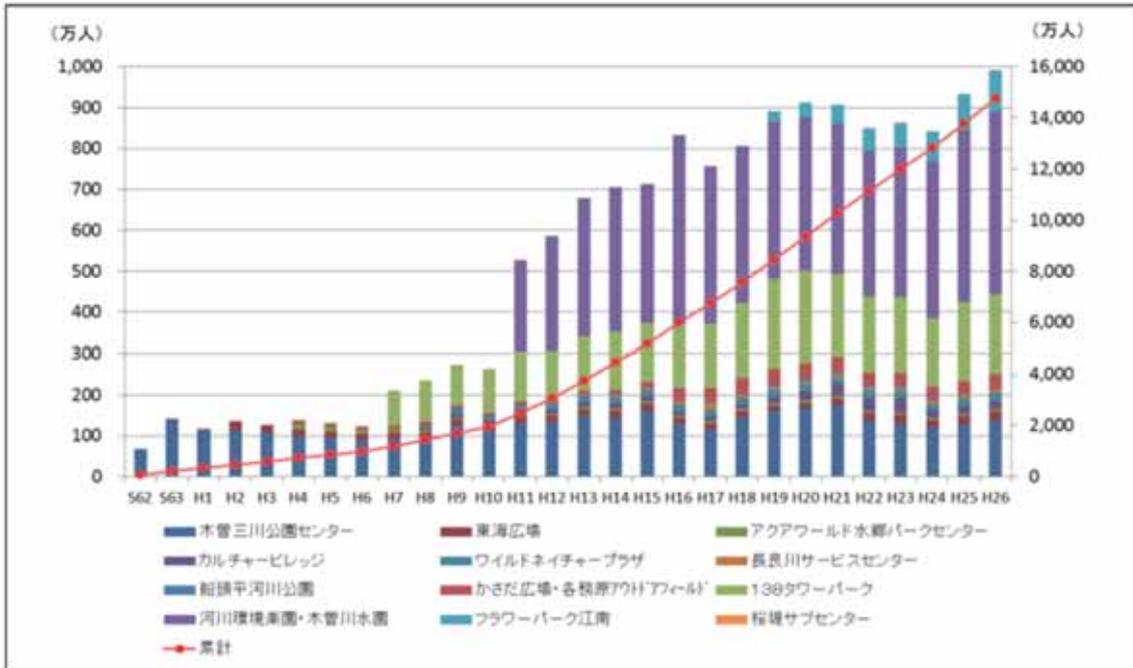
平成 27 年 3 月 21 日に桜堤サブセンターの新規開園を迎えることとなり、現在 12 拠点（約 287ha）が開園をしております。



位置図

供用開始から累計約 1 億 4 千万人以上（平成 26 年度末）の方々に利用され、近年は 900 万人を超える方に利用いただいております。

このうち、上流域の河川環境楽園、138 タワーパークの利用者が約 6～7 割を占めております。



入園者数の推移

<愛知県内の拠点>

愛知県内においては、以下の5拠点の整備・運営維持管理を実施しております。花や木などの自然を活かした景観づくりに加え、様々なイベントを開催して他、環境教育プログラムなどを通して、歴史や文化、環境などを学ぶことができますので、学校団体等の利用でも是非ご活用下さい。

『愛知県内の国営木曾三川公園』

- 三派川地区 フラワーパーク江南（江南市）
138タワーパーク（一宮市）
- 中央水郷地区 ワイルドネイチャープラザ（稲沢市）
東海広場（愛西市）
船頭平河川公園（愛西市）

<フラワーパーク江南>

フラワーパーク江南は、『花とみどりの学習』をテーマとしており、都市緑化の学習拠点をめざして平成19年10月に開園しております。

暮らしの中に花やみどりを取り入れ、身近な自然にふれる場となるよう、様々な生活場面に応じた緑化・花卉修景を進めており、樹木や宿根草、一年草など年間約1,000品種の植物を楽しむことができます。



クリスタルフラワーとアメジストセージ

花壇管理やイベント運営では、ボランティアの方との協働による運営管理を進めており、花壇の手入れや花壇の植え付け指導や案内など年間約2,400人（延べ）の方がボランティア活動に参加しております。

また、刈草の堆肥化とそこから育まれる自然、観察や実験、クラフトを通して学ぶなど環境教育プログラムの充実を図っております。



ボランティア指導による花壇の植え付け体験

現在、秋のイベントとして「秋のガーデンパーティー」（9/19（土）～11/3（月））を開催しています。会場内の花畑では、いろんな品種のコスモスなどが楽しめる他、様々なイベントを実施しております。また、あいちフェアサテライト会場のスタンプラリーポイント（尾張地区）（クリスタルフラワー内のエレベーター横）になっております。

2015 秋のガーデンパーティー
 Garden Party in Autumn
 9.19(土)・11.3(月)
 9:30～17:00 (10/13(火)は休園日)

フラワーパーク江南

秋の花に囲まれて 家族みんなでお楽しみしよう！

コスモス花畑 10月1日～31日

花の女王の上質な振り方講座

花と緑の企業展「コスモス展」

お問い合わせ：0587-57-2240

2015 フラワーパーク江南
 秋のガーデンパーティー
 Garden Party in Autumn
 9.19(土)・11.3(月)
 9:30～17:00 (10/13(火)は休園日)

その他にもイベントが盛りだくさん！！

イベント名	開催日時	開催場所
①花と緑の園い	9/19(土) 9:30～17:00	フラワーパーク江南
②今宵一宿の水鏡ショー	9/19(土) 18:00～20:00	フラワーパーク江南
③花の絵プレゼント	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
④子供の絵日	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑤ハーブティーとクッキーのサービス	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑥ローゼンティリーのサービス	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑦ふれあいウォーキング	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑧園遊大賞	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑨自然工作教室	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑩フラワーガイド観音講義	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑪自然観察会	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑫親子観音	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑬ふれあいウォーキング	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑭おでんやフードバーニング観音	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑮3Dデコクラフト体験教室	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑯手作りブリザードバイフラワー	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑰はじめての伊勢屋観音	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑱家族人形作り	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑲さいとうおしきん工作教室	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
⑳五感セラピーアートの世界	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
㉑ガラスアート体験	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
㉒レジンクラフト体験教室	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
㉓希切の絵体験	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南
㉔スクラップブック体験	9/19(土) 10:00～16:00	フラワーパーク江南

秋のガーデンパーティーチラシ

< 138 タワーパーク >

138 タワーパークは、三派川地区の自然や歴史文化を幅広く紹介・情報発信するとともに、多くの人々が集い、交流する総合拠点として位置づけております。

木曽川の雄大な流れを眺望できる「ツインアーチ 138」（平成 7 年 4 月に供用開始）をはじめ、大規模でユニークな施設を整備しています。また、花のイベントやイルミネーションなど年間通じて様々なイベントを開催しております。

上流側は大野極楽寺公園、下流側は光明寺公園と接しており、沿川まちづくりと連携を進めています。また、住民参加による河畔林の自然づくりや歴史文化資源と連携した環境学習に取り組んでおります。

昭和 62 年の事業着手から約 27 年を経て「木づきの森」の追加供用を行い、平成 26 年 4 月 25 日に全園開園となりました。

「木づきの森」では、猿尾堤と呼ばれる堤防（本堤）から河川に向かって作られた小高い堤防を復元しており、洪水の際、水流をさえぎり水勢を弱め、本堤の決壊を防ぐ江戸期の治水事業を体感することができるほか、「樹冠タワー」から園内を見晴らすことができます。

式典では、テープカットや園児によるバルーンリリースなどにより、全園開園を祝いました。

現在、秋のイベントとして「オータムフェスタ」（9/19（土）～11/3（月））を開催しております。コスモス畑やコキアなどのたくさんの花や「ICHINOMIYA 郷土グルメグランプリ」や「郷土芸能グランプリ」など様々なイベントを楽しんでいただくことができます。



ツインアーチ 138 とコスモス



全園開園式（バルーンリリース・式辞）

<ワイルドネイチャープラザ>

ワイルドネイチャープラザは、木曽川特有の河岸砂丘である「祖父江砂丘」を活かし、ウィンドサーフィン等の水辺レクリエーションが楽しめるように、水辺に近づきやすい川岸やトイレ・シャワー、バーベキューが楽しめるピクニック広場・デイキャンプ場などを整備しております。

隣接する愛知県営公園、稲沢市営公園との3公園で連携した運営を進めており、3公園の愛称を「サリオパーク祖父江」としております。

全国でも珍しい河岸砂丘と川砂を利用したサンドアート「砂の造形展」をメインイベントとした「稲沢サンドフェスタ」(10/10(土)、10/11(日))を開催予定です。様々なイベントを楽しんでいただくことができます。



ウィンドサーフィン



砂造製作体験



施設配置

<船頭平河川公園>

船頭平河川公園は、水に囲まれた立地を活かし、ハスをはじめカキツバタ、コウボネ、ハナショウブ、スイレンなど様々な花がみられる美しい憩いの場です。

ハス田修景池の適切な保全と広報による利用促進を図るほか、河川の水を取り入れて、水生植物の持つ浄化作用によって水を浄化し、再び河川に戻す試みを行っております。



ハスの開花時期等の利用促進

<東海広場>

東海広場は、水辺の自然に親しみ、広大な水辺の空間の中で各種スポーツやイベント、デイキャンプなど様々な屋外レクリエーションを楽しむことができる場です。

広大な芝生広場、マラソンコース、バーベキュー広場などがありアウトドア派の方楽しんで頂いております。



バーベキュー広場

おわりに

今般は、「第32回 全国都市緑化あいちフェア」が行われるにあたり、サテライト会場として参加している国営木曾三川公園（フラワーパーク江南）や愛知県内のその他の拠点について、施設とイベントを紹介させて頂きました。

この他にも、「かさだ広場・アウトドアフィールド」、「河川環境楽園」、「桜堤サブセンター」、「長良川サービスセンター」、「アクアワールド水郷パークセンター」、「木曾三川公園センター」、「カルチャービレッジ」のように魅力ある拠点がたくさんあり、各々の特色を活かした整備、維持管理をして多くの方々に親しまれています。

花と緑の祭典が更に盛り上がるとともに、より多くの人々が集い、自然を活かした遊びやスポーツなど、楽しみながら豊かな自然に触れるきっかけづくりになることを期待しておりますので、是非ご来園下さい。

県営都市公園の概要と利活用の取組みについて

愛知県建設部公園緑地課長 風間 一

はじめに

都市公園は、都市における自然とのふれあいの場及びスポーツを始めとするレクリエーションの場の提供、並びにヒートアイランド現象の緩和など都市環境の改善、災害時の火災延焼の防止、避難地、救援活動の拠点など複合的な機能を有する都市の根幹的施設です。

愛知県内の都市公園は、国、県及び市町村が役割分担をして整備を進めていますが、その整備水準は県民一人当たり 7.6㎡（平成 25 年度末）で、全国平均の 10.1㎡に比べ低い状況であり、その整備促進が必要です。

一方で、県下の都市公園面積は、都道府県別では全国第 4 位となる約 5,600ha の膨大なストックを有しており、このストックの適正な維持・保全とともに、利活用を図っていくことが大きな課題となっています。

このような観点から、本稿では、近年の県営都市公園整備の状況とストックの利活用に関する取組みをご紹介します。

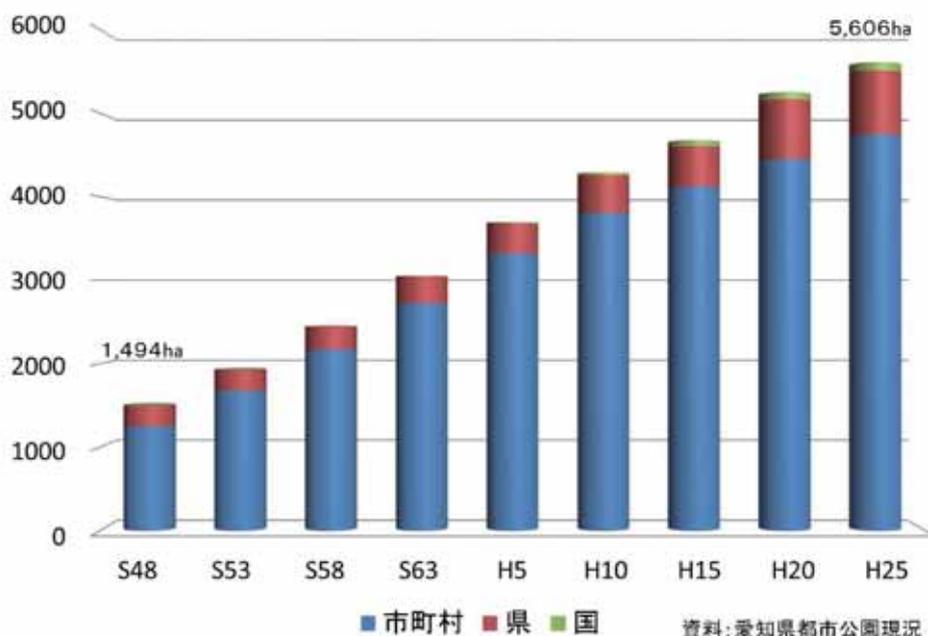


図 愛知県内の都市公園供用面積の推移

愛知県が管理する都市公園について

現在、本県が管理する都市公園は、表 1 のとおり、名古屋市内に 5 公園、その他の尾張地域に 5 公園、東三河地域に 2 公園、の計 12 公園が設置されています。このうち、熱田神宮公園、高蔵公園、朝宮公園、木曾川祖父江緑地、あいち健康の森公園及び新城総合公園の 6 公園は全面供用していますが、その他の公園については整備を継続中です。

また、西三河地域では初めての県営都市公園として、碧南市と安城市にまたがる油ヶ淵とその周辺に計画された「油ヶ淵水辺公園」は、平成 18 年度から整備に着手していると

ころです。当公園は、全体面積 135.5ha のうち、35.5ha について第 1 期整備区域として整備中で、用地については現在までに約 9 割を確保し、施設整備については平成 23 年度から造成工事に着手しており、一部供用に向けた整備を推進しているところです。

地域	番号	公園名	所在地	供用面積 (ha)	主な施設
名古屋 市内	①	大高緑地	名古屋市緑区	100.6	野球場、水泳場、庭球場、ゴーカート場、 デイキャンプ場、四季の園、桜の園、グランドゴルフ 場、多目的広場、ドックラン
	②	牧野ヶ池緑地	名古屋市名東区 名古屋市天白区	147.1	多目的広場、自由広場、わいわい広場
	③	小幡緑地	名古屋市守山区 尾張旭市	76.2	野球場、庭球場、トレーニング施設、 球技場、ゲートボール場、児童園、野鳥観察の森、 水生園、展望台
	④	熱田神宮公園	名古屋市熱田区	7.6	野球場、球技場、庭球場、ゲートボール場、児童園
	⑤	高蔵公園	名古屋市熱田区	1.0	児童野球コーナー
尾張	⑥	木曾川祖父江緑地	稲沢市	5.7	水泳場、庭球場、冒険広場、トリム広場
	⑦	尾張広域緑道	春日井市、小牧市、 犬山市、 丹羽郡大口町、 扶桑町	26.9	体育館、体育室、トレーニング施設、 遊戯用自転車、多目的広場、展望台、ゲートボ ール場
	⑧	朝宮公園	春日井市	12.5	野球場、水泳場、庭球場、競技場、ゲートボ ール場、児童園、和風園地
	⑨	愛・地球博記念公園	長久手市	149.8	水泳場、アイススケート場、サツキとメイの家、地球 市民交流センター、野球場、 テニスコート、サイクリングコース、愛・地球博記念 館、多目的広場、大芝生広場、 こどもの広場
	⑩	あいち健康の森公園	大府市 知多郡東浦町	51.5	体育館、庭球場、ベビーゴルフ場、球技場、 大芝生広場、健康ロード、子供の森、 ふるさとの森
東三河	⑪	新城総合公園	新城市	64.3	野球場、陸上競技場、庭球場、競技場、 弓道場、芝生広場、子供広場、自由広場、 わんぱく広場
	⑫	東三河ふるさと公園	豊川市	124.3	街の広場、三河郷土の谷、 東三河あそび宿、展望つつじ園

表 県が管理する都市公園一覧表

近年供用した施設又は整備中の施設

各公園には、様々な施設が供用されていますが、近年供用した施設及び現在整備中の施設をご紹介します。

○あいちサトラボ（愛・地球博記念公園）

平成 25 年 6 月に、農業体験ができる「あいちサトラボ」の一部「農のエリア」がオープンしました。

「サトラボ」とは、“県民が試行錯誤を繰り返し、里山づくりに取り組んでいく中で多くのことを学ぶことができる里の実験場”を意味する「里山 Laboratory (実験場)」の略です。運営の拠点である「ラボハウス」や広場、水田、畑、果樹園があります。

この田畑の管理運営を担っていただいているのは、計画づくりの段階から参加していた方々を中心に組織されたボランティア団体の「里山開拓団」です。

開拓団は、水田、畑、果樹園の日常の手入れを行うとともに、「お米と野菜作り隊」や「サツマイモエコクラブ」など里山体験プログラムを展開するほか、収穫祭など一般来園者向けのイベントも開催しています。



(ラボハウス)



(収穫祭)

○野外音楽施設（愛・地球博記念公園）

大村知事の1期目のマニフェストの一つ「環境に配慮した野外音楽施設を整備し、森と芝生、緑の中でコンサート、フェスティバルを楽しもう」を受けて、整備したものです。本年8月末に完成しました。

最大1万人規模のコンサートが開催出来るよう、野外ステージと観覧スペースとなる芝生広場を整備しました。ステージ付近は、他の催し物も出来るよう人工芝としました。



(野外音楽施設全景)



(野外ステージ)

○（仮称）水辺の学習館（油ヶ淵水辺公園）

「（仮称）水辺の学習館」は、油ヶ淵水辺公園の管理運営及び県民協働活動の拠点となる施設で、昨年度末に着工しており、今年度末に竣工予定です。

場所は、安城市側の主要地方道安城碧南線の見合橋南側に位置します。

木造一部2階建て、延べ床面積 686.88㎡で、公園管理スペース、展示コーナー、4つの多目的室からなっています。



（仮称）水辺の学習館イメージ

今あるストックを活用して（その1 イベントの開催）

多くの方々に公園を利用していただけるよう、県では毎年「あいち都市緑化フェア」を大高緑地で、「ふるさと満喫まつり」を東三河ふるさと公園で開催し、また、各公園の指定管理者も「春まつり」や「秋まつり」、あるいは工作教室や様々な催事を開催してまいりました。

しかしながら、所在の市町村周辺地域の方々の利用が大きな割合を占めており、県営都市公園としては、さらに広い範囲の方々にご利用いただく必要があると考え、新たなイベントの開催や誘致に取り組んでおります。

例えば、愛・地球博記念公園では、平成18年以降市町村対抗駅伝が開催されていましたが、閑散期の利用促進策として、多様なコース設定の提案などによりマラソン大会の誘致を行うことにより、スイーツマラソンなど民間主催の多様なマラソン大会が実施されるようになっています。

また、万博会場であった知名度を活かした民間企業が主催する「全国うまいもの祭り」、「パンマルシェ」、「東海エコフェスタ」など県内外から一日の来客が1万人を超える催し物も定期的にかかれるようになりました。

さらに、1月2月の休日には、NPO法人等が主催し、企業の協賛を得て「愛知なごや雪まつり」が開催されています。



(雪まつり)



(スイーツマラソン)

新城総合公園では、平成 25 年度から全日本ラリー選手権最終戦の「新城ラリー」が園内の園路を使用し、開催されています。迫力あるラリー走行が目の前で観戦できると好評で、昨年度は 2 日間で 4 万 8 千人の方が、公園に足を運んでいただきました。

また、大高緑地では、平成 24 年度から民間主催による野外ロックコンサートが毎年開催されていますが、平成 26 年度には、県の観光担当部局が主催する「あいち合戦ワールド」が開催されました。

このようなイベント開催により、県内外から多くの方に公園に来ていただく効果はもちろんのこと、日頃は都市公園になじみの無い方々も公園にお越しになり、都市公園の魅力を感じていただく格好の機会になると考えており、今後も指定管理者とともに、イベント開催の誘致等に取り組んでまいります。



(新城ラリー)



(あいち合戦ワールド)

今あるストックを活用して（その2 民間活力の活用）

以上のような県営都市公園のイベント開催による利用促進策に加え、都市公園の整備に、民間の資金とノウハウを取り入れることで、公園施設の充実を図ることができ、ユニークな施設の設置や利用者満足度の高い管理運営が期待できます。

全国的には、民間活力を活用してカフェやレストランを設置した事例があり、公園の魅

力向上に役立っています。

そこで、本県も平成 25 年度から公園施設への民間活力の導入について、年間約 150 万人の利用者がおり、広域的な交通アクセスが整っている大高緑地を対象に、利用者アンケートの実施や事業者ヒアリングを行いました。この成果をもとに、平成 27 年度に、本県としては初めてとなる遊戯施設の公募を、大高緑地において実施しました。

公募対象となる施設は、大高緑地内にある既存の樹林地（約 4 ha）を活かした遊戯施設（アトラクション）で、任意で飲食店や売店の提案も可としました。

樹林地を活かすという条件を付すことで、新たな集客力だけでなく、樹林地の維持管理の面からも、本県にとって利益を生むものになることを期待して、提案の募集を始めました。

平成 27 年 4 月から 5 月にかけて、提案の募集を受け付け、平成 27 年 6 月下旬に有識者からなる選定委員会を開催し最終候補者を選定しました。

現在は、候補者が施設内容など事業計画の詳細を作成しており、今後、都市公園法に基づく設置管理許可を県から受けた上で、公園内に提案施設を設置し管理していくこととなります。順調にいけば、来年度夏頃には、新たな魅力を提供するアトラクションをオープンできるのではないのでしょうか。

この大高緑地での取組みの状況を見つつ、本県が所管する他の都市公園においても、それぞれの公園の立地や特徴を踏まえた民間活力の導入について検討を進めていきたいと考えています。

名古屋市営公園

名古屋市緑政土木局緑地事業課長 石黒 昭充

名古屋市では、緑と水の豊かな自然共生都市をめざし、公園・緑地の整備等により、緑の保全と創出を図っています。

その中で、近年名古屋市が整備した公園をご紹介します。

新たなまちづくりの中で地域の拠点となる公園の整備を行った『南陽中央公園（港区）』と水と緑の豊かな自然環境を生かしながら整備を行った『翠松園緑地（守山区）』です。



南陽中央公園



南陽中央公園は、名古屋都市計画事業茶屋新田土地区画整理事業関連事業の一環として、公園の南に隣接する本年7月にオープンした市立第二斎場との連携を図りながら公園整備を行ったものです。

平成24年度から25年度にかけて整備工事を行い、平成26年4月に供用を開始しました。

本公園の計画にあたっては、茶屋新田地区の中心地におけるシンボルとして、周辺の各施設との連携により「都市と自然の交流軸」を形成することを目的としました。「水と緑が豊かな『南陽の森』」をコンセプトとして、「自然」にふれあうことのできる公園、環境学習が行える公園、四季を通じて楽しめる公園、すべての年代を通じての交流の場としての公園、維持管理のしやすい公園をテーマに整備を行いました。

<芝生広場・キッズ広場ゾーン>

公園の西部には、気持ちのやすらぐ場、四季を感じる場としての「芝生広場・キッズ広場ゾーン」を配置しました。

広大な芝生広場には、通常の芝に比べて維持管理コストの少ない矮性の野芝を植え付け、キッズ広場には、子供たちの遊び心をくすぐるシンボリックな遊具を配置しました。



芝生広場・キッズ広場ゾーン

<さくら広場・修景池ゾーン>

公園の中央部には、水に親しみ水辺の景観を鑑賞できるとともに、春を楽しむことができる「さくら広場・修景池ゾーン」を配置しました。

開花時期、花の色、花弁が異なる複数の桜を植え、長い期間桜を楽しむことができるよう考慮しました。また、水遊びができるようにせせらぎ水路を配置し、子どもが安全に安心して遊べるように、水深、水流の速度等に配慮して整備を行いました。



さくら広場・修景池ゾーン

<環境の森ゾーン>

公園の東部には、学習体験および自然散策ができるように自然環境の創出を図る「環境の森ゾーン」を配置しました。

名古屋市の在来種を中心とした樹木を選定し、散策できる明るい二次林をイメージした森林の形成を目指しています。

南陽中央公園は、平成26年4月の供用開始以降、地域の皆さんや近隣の大型商業施設にいられた方など大変多くの方にご利用いただいています。これからも地域の皆さんに愛される『南陽の森』として、さらに魅力ある公園となることを願っています。



環境の森ゾーン



すいしようえん
翠松園緑地



- 所在地 名古屋市守山区翠松園一丁目、喜多山二丁目
- 緑地面積 5.5ha
- 交通 名鉄瀬戸線「大森・金城学院前駅」から西へ約500m

翠松園緑地は昭和40年に都市計画決定された東部丘陵地に位置する緑地です。本緑地の最大の魅力は、上池・下池からなる2つの池と樹林地により形成された「水と緑のある空間」です。

地域の皆さんとの計画づくり検討会では、自然環境の保全を望む声が多く出されました。都市部の緑地や生物の生息空間が減少していく中で、市内の貴重な緑地空間とそこに生息する生物を大切に守っていくことが、この緑地を整備していく上でのテーマとなりました。

平成25年度から整備工事に着手し、今年度末には概成する予定です。



遊具広場・多目的広場

緑地の北側には、幼児から小学生までを対象とした遊具広場と地域の皆さんがラジオ体操などを行うための多目的広場を配置しました。

遊具広場には複合遊具と低鉄棒を設置しました。複合遊具は自然を活かした緑地にマッチするように、落ち着いた配色としています。

緑地の北西部分には、アラカシ、ソヨゴ、イロハモミジ、コナラ、ムクノキ、ヤマザクラ等の樹林地が広がっています。これらの樹林地は住宅地の中に残された貴重な緑であり、これらを保全することに関して、地域の皆さんから大きな期待が寄せられています。より身近に樹林地の魅力を感じられるように、保全された樹林地内には林間散策路を整備しました。

上池の西側には園路が無く、二ツ池を周遊するためには、公園利用者は、緑地に隣接する生活道路を通る必要がありました。(その他の部分は池の周遊が可能です)

地域の皆さんから「上池の西側にも園路を設置してほしい」との強い要望をいただき、全長約 92 m、幅員 2 m のデッキを設置しました。上池の西側の護岸にはシャシャンボ、カラスウリなどの地元の方に親しまれている草花もあり、デッキからそれらの風景を楽しみながら利用していただくこともできます。

緑地の東南部にある水辺エリアには、花壇スペースを設置しました。ここでは、本緑地で森づくり活動を行っている市民活動団体「二ツ池の自然と緑を守る会」の皆さんに花苗の植付けと維持管理を行っていただいております。四季折々の花を楽しむことができます。展望デッキもあり、池を眺めながら休憩することもできます。

二ツ池を周遊できる水辺散策路は、潤いのある水辺空間を身近に感じられるだけでなく、水面に映える木々の緑を楽しむこともできます。地域の皆さんからは身近な散策の場としてご好評をいただいております。



林間散策路



デッキ



花壇スペース

配置図



案内図



豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）

豊橋市総合動植物公園部 動植物公園事務長 瀧川直史

- 所在地 豊橋市大岩町字大穴
- 計画面積 39.6ha
- 供用面積 39.6ha
- 交通 J R 二川駅南口
徒歩約6分



豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）は約40ヘクタールの広大な敷地に、動物園、植物園、遊園地、そして自然史博物館が整備されたレクリエーションと学びの施設です。動植物公園と自然史博物館が一体化した国公立の施設は、日本でものんほいパークだけ。非常に個性ある総合公園なのです。



セグウェイガイドツアー



植物園 モネのスイレン



動物園 アフリカ園

○動物園

約140種900頭羽のたくさんの動物たちが待っています。

草原をキリンたちが歩き回るアフリカ園、ホッキョクグマのダイビングが見られる極地動物館、動物と触れ合えるなかよし牧場などでたくさんの動物たちがみなさんをお待ちしています。



○植物園

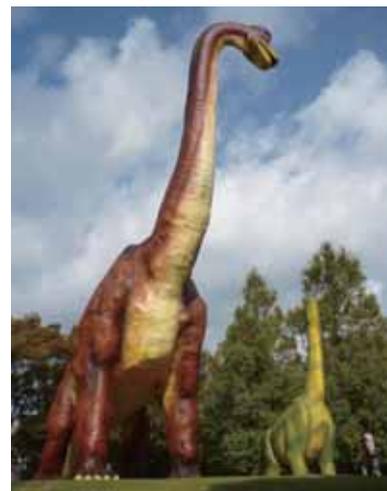
既存林を生かした“郷土の森”を中心に“生活の景”“伝統の景”“生態の景”の4つの空間で構成した屋外植物園。

“常夏の景”をテーマに熱帯及び亜熱帯の“山・里”の植物を展示している温室があります。



○自然史博物館

みなさんが、自然について正しい知識を持ち、自然に親しみ、自然と生物の成り立ちについて理解を深めていただくことを目的としています。展示は地球の歴史・生物の進化をたどる展示室（古生代・中生代・新生代・ガラパゴス物語）と郷土の自然を紹介する展示室から成り立っています。



岡崎市営公園

岡崎市都市整備部公園緑地課長 市川 正史

岡崎公園は、岡崎城の城跡を公園にしたもので、岡崎城や三河武士のやかた家康館を中心とした岡崎市を代表する歴史と文化の公園です。豊富な自然と重要な文化財に恵まれた観光地として、「日本の都市公園100選」「日本の歴史公園100選」「日本のさくら名所100選」「日本100名城」等選ばれています。

約10ヘクタールを有する広大な園内には、旧城そのままの白亜の天守閣がそびえ、城壘、内堀や家康公ゆかりの史跡等も多く、家康公と三河武士の生きざまを展示した歴史資料館三河武士のやかた家康館などがあります。さらに、二の丸能楽堂、巽閣、茶室葵松庵・城南亭、からくり時計、徳川家康公銅像、元康像、五万石藤など、みどころ溢れる公園です。



岡崎公園基本データ

所在地

岡崎市康生町 561-1

計画面積 11.20ha

供用面積 10.14ha

供用開始 昭和32年

区分 歴史公園

最寄駅

名古屋鉄道本線「東岡崎駅」下車 徒歩15分

休園日 なし

岡崎市は来年の平成28年7月1日に市制100周年を迎えます。市制100周年に向けた岡崎市政100周年プレ事業とも合わせて、岡崎公園では、第32回全国都市緑化あいちフェア期間中の10月28日から11月8日までの12日間、サテライト会場として公園全体を花で装飾します。主な花と緑の企画としては、次の3つになります。

1 フラワーウォール

岡崎公園の東側に位置する多目的広場の法面に、フラワーウォールを設置します。岡崎城下家康公夏まつりの目玉でもある、岡崎の花火を花で表現した、高さ10mの巨大なフラワーウォールは迫力満点です。



2花のオブジェ

岡崎公園の中には、家康が生まれたときに水を汲んだ「産湯の井戸」、竹千代時代の姿を現した「竹千代像」、三方ヶ原の合戦で武田信玄に敗北したことを肝に銘ずるためにかかせた「しかみ像」等、家康公にゆかりのある石像などがいくつかあります。開催期間中は6ヶ所の石像などがフラワーアーティストの手で飾られ、家康公の生き様をストーリー仕立てで表現しています。



3プランター回廊

期間中は岡崎公園内の園路に岡崎産の間伐材を使用したプランターを並べ、花があふれる色鮮やかな園路になります。

サテライト会場開催期間の最終日には、前日に配布する整理券をお持ちの方に花とプランターのプレゼントを行います。サテライト会場の開催期間後は、それぞれのお宅で花と緑を楽しんでいただけます。

他にも、毎年岡崎公園で行っている三河の菊まつりなどのイベントを、都市緑化あいちフェアサテライト会場の開催とあわせて開催します。



一宮市営公園

一宮市建設部公園緑地課長 今枝 靖和

木曾川河川敷に広がる一宮市を代表する公園を紹介いたします。

シーズン毎にイベントが開催され、集客力のある国営木曾三川公園三派川地区センター 138 タワーパークを中心に隣接する総合公園：大野極楽寺公園、運動公園：光明寺公園、さらに木曾川沿川に遊歩道・自転車道として整備された木曾川沿川緑地があります。

【国営木曾三川公園三派川地区センター 138 タワーパーク】

国営木曾三川公園は、木曾川・長良川・揖斐川の恵みがもたらす豊かな自然環境を活用した愛知・岐阜・三重の3県にまたがる国内最大規模の都市公園で上流から三派川地区・中央水郷地区・河口地区の3地区からなっています。138 タワーパークは三派川地区の総合拠点として平成7年4月29日に開園しました。園内の施設で高さ138m、地上100mの展望階から360度のスカイパノラマが楽しめる「ツインアーチ138」は、「いちのみや」にちなんで名付けられ、オープン直後から多くの皆様にご利用いただいています。アーチ型タワーとしては東洋 No. 1 で展望階からの眺めは木曾川の雄大な流れを中心に遠くは日本アルプスの峰々、そして伊勢湾までを一望することができます。園内には、約4000株のバラが咲く「ローズストリーム」を始め、河川敷の広場「風紋の広場」、「セントルイスゲート」、「やすらぎの池」、「フワフワドーム」、自然に触れ、学び遊べる「もくもくパラダイス」、希望の塔や大屋根、クライミングウォールのある「つどいの広場」、樹冠タワーや樹冠回廊のある「木づきの森」などが整備され、平成26年4月には26.4haを全面開園し、平成27年8月現在、累計で来園者数約3,180万人、ツインアーチ138への来館者数約355万人の方に利用していただいています。

【大野極楽寺公園】

総合公園として平成6年3月に開園しました。ゾーン毎に「花」「鳥」「風」「月」のテーマを設定し、整備が進められ、平成21年3月に38.6haが全面開園しました。エントランスゾーンには、公園の玄関口として管理棟があり、研修室・視聴覚室の利用、レンタサイクル等の利用ができます。グリーンサンドの多目的広場は、ソフトボール場や臨時駐車場などとして利用されています。「花」のゾーンには、四季折々の花や自然を楽しめる空間とし、センサーガーデン、木曾川堤の桜、バーベキュー広場などがあります。「鳥」のゾーンには、野鳥のサンクチュアリとしての「野鳥園」、ビオトープ空間として整備された野鳥の池、流れなどがあり、自然の大切さを学べる環境の場として利用されています。市民ボランティア団体「一宮平成ホテルの会」はこの場を拠点とし、「ホテルも生息する環境づくり」を目的にハイケボタルの飼育をしています。「風」のゾーンは、伊吹おろしを体



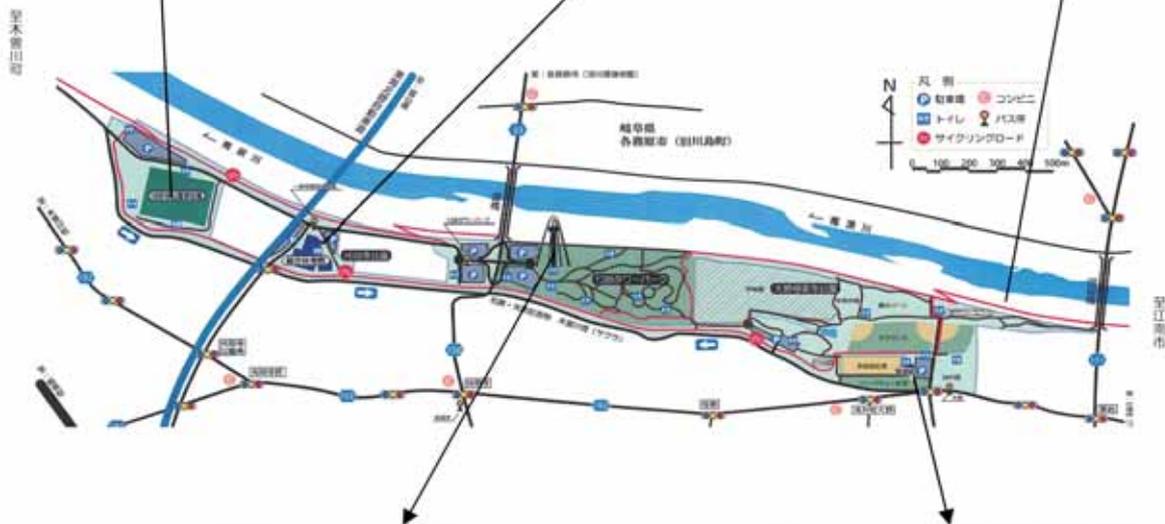
光明寺公園球技場



一宮市総合体育館



木曾川沿川緑地



138タワーパークとツインアーチ 138



大野極楽寺公園バーベキュー広場

感できる「動」のゾーンと位置づけ、芝生広場の遊具、グラウンドゴルフ公認3コースがあり、市民参加による植樹が行われた「市民の森」があります。「月」のゾーンには、中央に円形広場がありデイキャンプ等を利用する空間となっています。また野球場も3面あり、スポーツに供する空間もあります。

【光明寺公園】

運動公園として平成6年3月に開園しました。光明寺球技場のメイングラウンドはフィールド163 m × 92m 天然洋芝でメインスタンドは収容人員4,030人を誇り、会議室もあります。サブグラウンドもフィールド163 m × 92m 天然洋芝となっています。総合体育館は全国規模の大会が開催できるフィールドとしてDIADORAアリーナ68 m × 46 m、いちい信金アリーナA46 m × 37 m、いちい信金アリーナB46 m × 37 mの3アリーナがあり、会議室や多目的室もあります。

現在、27.9haが開園しています。

【木曾川沿川緑地】

幅員5 mの遊歩道・自転車道として木曾川沿いに整備され、上記各公園とつながっています。国営公園部分が整備されると12月末には犬山市・江南市・一宮市がつながり全長約17 kmが供用することとなります。

これらの公園を平成28年度より新たに指定管理者を選定し一体管理させ、このスケールメリットを活かした一大イベントを開催できるよう誘導してきますのでご期待下さい。

春日井市営公園

春日井市建設部公園緑地課 岡島 達己

落合公園

所在地 春日井市東野町字落合池1番地 交通 (車) 東名高速道路春日井ICから車で3分
面積 24.5ha (バス) かすがいシティバス東環状線「落合公園」下車



落合公園は、市の中北部の東名高速道路春日井インターチェンジ西側に位置し、かんがい用溜池であった落合池の桜を始めとする樹木や、池の景観を活かした自然とふれあう「水と緑」、春日井市を代表する緑豊かな総合公園です。

平成元年7月には、「日本の都市公園100選」の1つに選定されました。



「中の島と音の塔」



「釣池と日本式庭園」



「カナディアンハウスと中の島」

春には90種類、約1000本の色とりどりの桜が咲き誇り、「桜の名所」としても知られております。



「桜とフォリー・水の塔」

散歩をする人・釣りをする人・運動をする人・子供を遊ばせる人
四季の風と景観の美しさの中で、毎日あちらこちらで歓声が聞こえます

公園内の池では釣りを楽しんだり、優雅に泳ぐ水鳥が観察でき、池のまわりを散策できる桜並木の園路のほか、池に浮かぶ日本式庭園の中の島、のびのびと寝ころんだり遊ぶことのできる大芝生広場などがあります。

他に、日本最大級の「フォリー・水の塔」などの様々な施設と、七色の色彩を放つ夜間照明を備えた大噴水があり、家族ぐるみで一日楽しめる公園です。



「花火とフォリー・水の塔」



「夜間照明 - 大噴水」



「紅葉とカナディアンハウス」

- ・春は、桜、つつじに囲まれて「サボテンフェア」「わいわいカーニバル」などのイベントで大変なにぎわいが見られます。
- ・夏の「納涼まつり」には、花火大会が催され夜空に輝く花火に大きな歓声が上がります。
- ・秋は紅葉、冬は枯れ葉舞う園路の散策等、四季を通じて憩いの場、レクリエーションの場として多くの市民の方に愛され利用されています。

案内図



配置図



豊田市の都市公園

豊田市都市整備部 公園課長 小沢 美博

鞍ヶ池公園



所在地：豊田市矢並町法沢 714-5

供用面積：95.13ha

主要施設：「プレイハウス」、「水辺テラス」、「芝生広場」、「動物園」、「植物園」、「観光牧場」、「四季の古里」、「英国庭園」、「プレーパーク」、「ハイウェイオアシス PA 園地・展望台」

乗り物：「パークトレイン」、「園内周遊バス」、「ボート」

※乗り物は有料

営業時間：9:00～17:00

(動物園は 10:00～16:30)

休業日：12/29～12/31 は全施設休業

T E L：0565-80-5310 (管理事務所)

鞍ヶ池公園は豊田市中心市街地より東部に位置し、かんがい池「鞍ヶ池」を中心に魅力的な施設を配置し、美しいみどりに包まれたファミリーパークです。

一帯は、愛知高原国定公園に指定され、起伏にとんだ地形を生かした施設があります。

また、山麓部にあたる鞍ヶ池湖畔には、池を一周する湖畔歩道をはじめ、全山芝生の若草山、動物園、さらには広大な地形を生かした観光牧場などがあります。

2005年3月には第1期再整備工事が完了し、鞍ヶ池公園に隣接する東海環状自動車道の鞍ヶ池パーキングエリア（内回りのみ）からも利用することができるハイウェイオアシスになりました。また、子どもたちの遊びの拠点となる「プレイハウス」や「パーキングエリア展望台」、緑の牧場と一体となった「四季の古里」などの新たな施設が整備されました。

<人気施設>

- ・「プレイハウス」は大きな屋根と屋内遊具を有する施設で、雨の日でも遊ぶことが出来、年間を通して多くの方に利用されています。
- ・「動物ふれあい広場」や「ふわふわ遊具」は子供に大人気。
- ・また、夏は「芝生広場」にある噴水での水遊びや「ボート」が人気です。

・乗り物以外の施設は無料です！



「プレイハウス」外観



「プレイハウス」屋内遊具



「動物ふれあい広場」



「芝生広場」の噴水



「ふわふわ遊具」



「ボート」

<花風景>

・ 広大なエリアを種子から育てた草花で彩る「四季の古里」や、愛・地球博「イギリス館」の庭園施設を譲り受け設置した「英国庭園」は市民ボランティアにより管理されています。

・ 春から秋にかけて美しい花風景が楽しめます。



「四季の古里（さと）」



「英国庭園」

<プレーパーク>

・ 自己責任で自由に遊ぶエリア「プレーパーク」を設置しています。
※開催日を事前にご確認ください。



「プレーパーク」

・ 「けがと弁当は自分持ち」が合言葉

<東海環状自動車道からの利用>

・ 東海環状自動車道「鞍ヶ池パーキングエリア」からも利用できます。
※内回りのみの利用になります。
・ スマートICも設置されています。



「ハイウェイオアシス展望台」

<園内移動>

・ 園内の移動は「園内周遊バス」と「パークトレイン」があります。
・ 「パークトレイン」は今年度より北園地までルート延伸されたことにより、園内の主要施設への移動が楽になりました。



「パークトレイン」



アクセス：公共交通⇒名鉄「豊田市駅」下車、名鉄バスで約20分「鞍ヶ池公園前」下車
 車⇒東海環状自動車道「豊田勘八IC」より7分、「豊田松平IC」より13分
 ※「鞍ヶ池スマートIC」(ETC装着車に限る)からも利用できます
 駐車場：普通車826台、大型車20台(要予約)、身障者用22台、すべて無料

◆産官学の取組み ～大災害発生時における対応について～

愛知県立安城特別支援学校／相澤佳穂「花が咲いたよ」



産官学の実組み ～大災害発生時における対応について～

「産官学・産の位置からの私の思い」

・・・・・・・・・・(一社) 愛測協 建設コンサルタント委員長 廣瀬 博

「第3次あいち地震対策アクションプラン」について

・・・・・・・・・・愛知県建設部建設企画課 課長補佐 杉谷 正樹

「河川堤防はなぜ壊れて、どう守るか ～水害と地震～」

・・・・・・・・・・名古屋工業大学 教授 前田 健一



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

特集3 産官学の取組み～大災害発生時における対応について～

産官学・産の位置からの私の思い

建設コンサルタンツ委員会 委員長 廣瀬 博

2011年3月11日（金）午後2時46分 巨大地震が起きた。今を生きる私たちが過去に遭遇したことの無い未曾有の大災害である。

早やあれから4年半が経過しようとしている。

我が、「一般社団法人 愛知県測量設計業協会」は昭和49年11月に誕生し、昨年創立40周年を迎えた。

その4年前の平成22年度に理事会及び協会の運営に対して合理化と効率化を求める声が高くなってきており、会長から旧総務委員会に組織改革の実行の依頼、「組織改革委員会」を立ち上げ2年間の議論を重ね、平成24年度のスタートから新組織で発足した。

同時に「建設コンサルタンツ委員会」が新設され、委員長を拝命した。委員会活動の踏襲する活動が新たな建設コンサルタンツ委員会のため、過去の実績も無く、第1回の委員会は、何を目的にして、どのような委員（メンバー）でどのようなスケジュールで、誰が、何処で、・・・勿論活動経費は、会員各社からの納付していただいている会費である。疎かなことは絶対にできない。

3.11以降、にわかに騒がしくなってきたのが「南海トラフ巨大地震」である。

内閣府中央防災会議の有識者会議が、M9級の地震が発生した場合に、愛知県内で最大死者数は建物倒壊・津波・火災・水門などの機能不全などで23,000人と公表した。平成24年8月30日である。

我が協会も国土交通省中部地方整備局、愛知県建設部、名古屋市との間で災害協定を締結しており、広域支援体制として岐阜県・静岡県の測協とも連携協定を締結している。

時、同じくして「土木学会全国大会 百周年記念討論会 土木界・土木学会は、これまで何をしてきたか、これから何をすべきか」平成24年9月6日（木）

名古屋大学 東山キャンパスに於いて受講する機会を得た。基調報告・パネルディスカッション9：00～12：00、基調講演会・全体討論会13：30～17：15、どのプログラムも講演者、パネリスト、コーディネーターも土木界の名のある重鎮揃い、「土木学会百周年」歴史に感動し、講演など題目にも驚嘆した。会社の本棚に当時の資料を保存してあるが、大封筒には「価値観を変えた資料」と記してある。建設コンサルタント業界

に身をおいて47年の私である。

第1回建設コンサルタンツ委員会は、新年度・新体制の該当理事の4名で協議した。初顔合わせの4名であったが平成24年4月13日、活動の骨子、委嘱委員の人選、そしてここで始めて「産官学シンポジウム」開催の確認をした。当時の議事録によれば、『委員会でテーマを考え規模・手法等を検討して年度内に立ち上げを目指す。具体的には、「災害」をテーマとし名古屋工業大学の先生の協力を得たいと考えている。』と記してある。

ここでの思いは、予想される「南海トラフ巨大地震」に対して復興・復旧に愛測協の会員として、地元愛知の企業として「何かをやらねば!!」が一致した。

我々地元を愛し、愛知県内に本社を置き、公共事業であるインフラ整備で測量設計業を生業としている会員が、まさしく愛知県建設部・名古屋工業大学・愛知県土木研究会・愛測協の「産官学」によって防災・減災・復興・復旧の一助になれることを強く信じてやまない。

その後4回の委員会でより具体的に協議を行い、理事会での協議に提案した。その後も委員会で幾度も協議を重ねた。愛知県建設部建設企画課担当を尋ね、また名古屋工業大学高度防災工学センターに出向き、活動主旨を説明し双方から快く理解をいただいた。

この活動の名前を「産・官・学 A・I」(A:愛知県 I:インフラ)として技術を研鑽しつつ、継続的に実施して地域社会に貢献することを目的としている。

テーマ：3.11から南海トラフ巨大地震へ

～体験を学び、そして地域を守る～

以下、「産・官・学 A・I」の活動実績を記す。

【実績その1】

「大災害発生時における対応についての勉強会」

日時：平成25年7月12日(金) 13:30～17:00

場所：KKRホテル名古屋

第一部：「東日本大震災の復興支援業務(岩手県)を振り返って」 50分

愛知県建設部建設企画課 主査 松浦 元彦 様

第二部：「東日本大震災における業界の対応について」 110分

(一社)宮城県測量設計業協会

技術者育成委員会 委員長 佐藤 泰法 様

第三部：「当協会及び建設委員会から提案したいこと」 20分

(一社) 愛知県測量設計業協会

建設コンサルタンツ委員会 副委員長 岩田 敏彦

参加者：愛知県建設部建設企画課はじめ 55名

名古屋市土木事務所はじめ 6名

(一社) 愛知県土木研究会事務局はじめ 5名

愛測協会員 78名 計 144名

※愛測協広報誌「方位」にて特集、発刊 2013-10 第 36号にて掲載

※建通新聞 平成 25年 8月 30日発刊 6面掲載

【実績その2】

「災害に強い町づくり - 地盤の液状化から我が家を守る -」 勉強会

日時：平成 25年 10月 15日 (火) 講演開始 15:00

場所：逓信会館

講師：名工大 高度防災工学センター長 張 鋒 教授

内容：地盤と構造物に関する知見、液状化現象とその対策

参加：愛知県建設部及び各建設事務所 32名

愛知県土木研究会 2名

愛測協会員 二村会長はじめ 549名 計 93名

※当協会技術広報誌「テクノアイ」発刊 2014 V O L .12にて掲載

【実績その3】

「大災害発生時における対応について」 第 2回勉強会

日時：平成 27年 6月 4日 (木) 13:30 ~ 17:00

場所：K K R ホテル名古屋

第一部「第 3次あいち地震対策アクションプラン」取組みについて 50分

講師：愛知県建設部建設企画課 課長補佐 杉谷 正樹 様

第二部「河川堤防はなぜ壊れて、どう守るのか」～水害と地震～ 115分

講師：名工大 高度防災工学センター 教授 前田 健一 様

第三部「当協会における建設コンサルタンツ委員会の取組み」 10分

講師：(一社) 愛測協建設コンサルタンツ副委員長 岩田 敏彦

「当協会における B C Pへの取組み」 10分

講師：(一社) 愛測協広報副委員長

早川 正喜

参加者：愛知県建設部建設企画課及び各建設事務所 35 名

愛知県土木研究会 1 名

愛測協会員 78 名

名工大学生 5 名 計 119 名

特集3 産官学の取組み～大災害発生時における対応について～

「第3次あいち地震対策アクションプラン」について (建設部の取組み)

愛知県建設部建設企画課 課長補佐 柚谷 正樹

1. はじめに

愛知県では、東日本大震災の教訓や本県の新たな地震被害予測調査結果を踏まえ、地震から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくりを目指し、「第3次あいち地震対策アクションプラン」(以下「第3次アクションプラン」)と表記)を平成26年12月に策定した。

この「第3次アクションプラン」は、東日本大震災を踏まえた本県被害予測調査に基づく地震対策の行動計画であり、県民の皆様を始め、国、市町村、企業、各種団体など、県内の総力を結集して今後の地震防災対策に取り組んでいくものである。ここでは、そのうち建設部の取組を中心に、策定の背景、第3次アクションプランの概要等について紹介する。

2. 第3次アクションプラン策定の背景

平成23年の東日本大震災を受けて、国は平成25年11月に「南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」を制定し、平成26年3月に「大規模地震防災・減災対策大綱」及び「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」を決定した。

本県でも、こうした流れを受けて、また南海トラフ地震の発生の切迫性がより高まってきたことから、東日本大震災の教訓及び次項で紹介する本県被害予測調査の結果等を踏まえ、複数の地震・津波規模を設定し、対策を充実するなど、第2次アクションプランを抜本的に見直す形で、平成26年12月に第3次アクションプランを策定した。

(1) 本県被害予測調査の概要

本県では、戦後最大の甚大な被害をもたらした東日本大震災を教訓として、平成14、15年度に行った地震被害予測調査を最新の知見に基づいて見直し、今後の防災・減災対策の効果的な推進に資することを目的として、「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」を実施した。

調査は、平成23年度から25年度の3年間で実施し、その結果を平成26年5月30日に開催した愛知県防災会議において公表した。

(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/2014higaiyosoku/2014higaiyosoku.htm>)

今回の調査では、南海トラフで過去に発生したことが明らかで、規模の大きい5つの地震を重ね合わせた「過去地震最大モデル」と、南海トラフで発生する恐れのある地震・

津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波（1,000年に一度あるいはそれよりも発生頻度が低いもの）を想定した「理論上最大想定モデル」の2つのモデルで被害想定を行った。

2つのモデルのうち、「過去地震最大モデル」に基づく被害想定を、今後の地震・津波対策を進める上での軸としつつ、「理論上最大想定モデル」については、「命を守る」という観点で補足的に参照していくこととしている。

(2) ハザードの想定結果

震度分布、液状化危険分布、浸水想定域等の想定結果は、下図のとおりである。

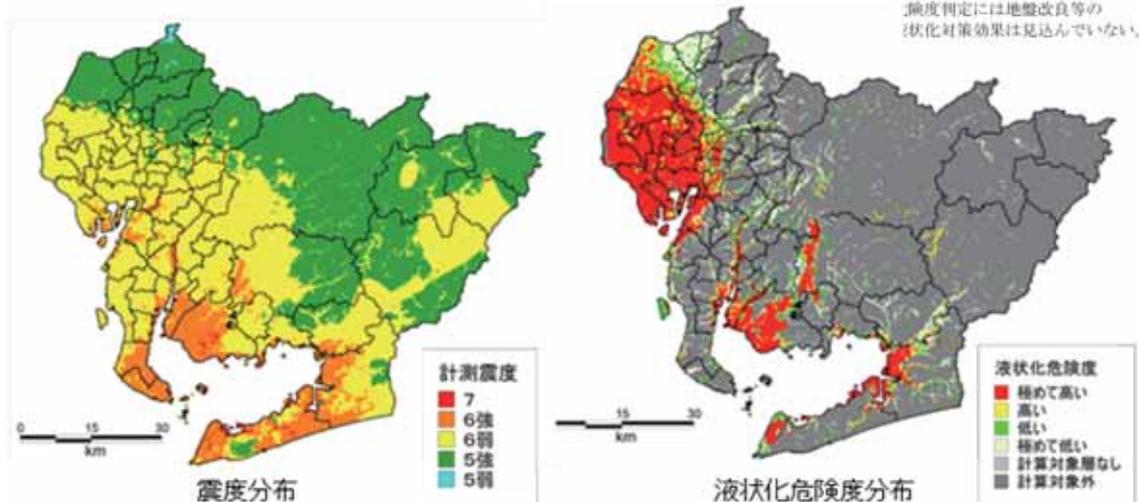
今回の調査では、堤防等の被災を前提とした結果、国の被害想定（H24.8.29公表）を上回る広い範囲が浸水し、特にゼロメートル地帯においては、河川や海岸付近で津波到達前から浸水が始まるところがあると想定された。このことは、本県の地震防災対策を考える上で、特に留意すべき新たな課題となった。

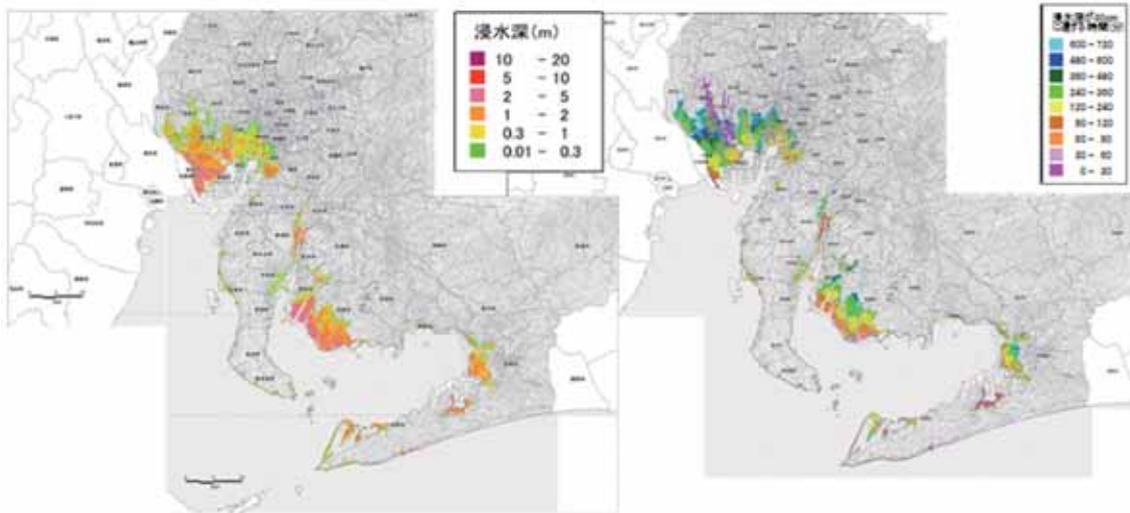
	過去地震最大モデル	理論上最大想定モデル (津波ケース①)
浸水想定域の面積 (浸水深1cm以上)	約26,500ha	約37,000ha

(H27.7時点)

過去地震最大モデル

- 南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模の大きいもの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震）を重ね合わせたモデルである。
- 本県の地震・津波対策を進める上で軸となる想定として位置付けられるものであり、「理論上最大想定モデル」の対策にも資するものである。





浸水想定域

浸水深が30cmに達する時間

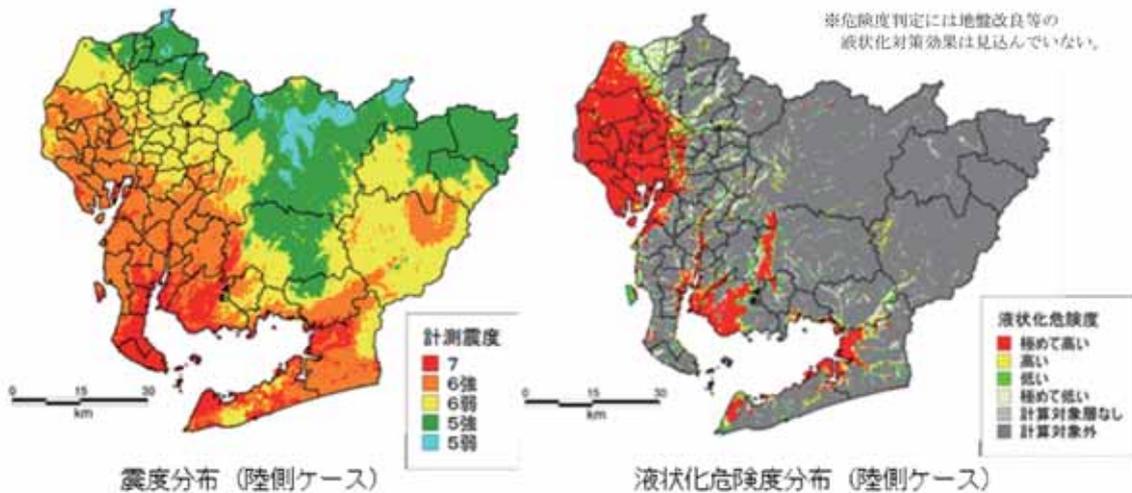
過去地震最大モデルの堤防等の条件（土堰堤）：50%又は75%沈下

※東海・東南海地震（愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査 H14-15）に対し耐震性を有している箇所および液状化危険度が小さい箇所について50%沈下、それ以外は75%で想定。

理論上最大想定モデル

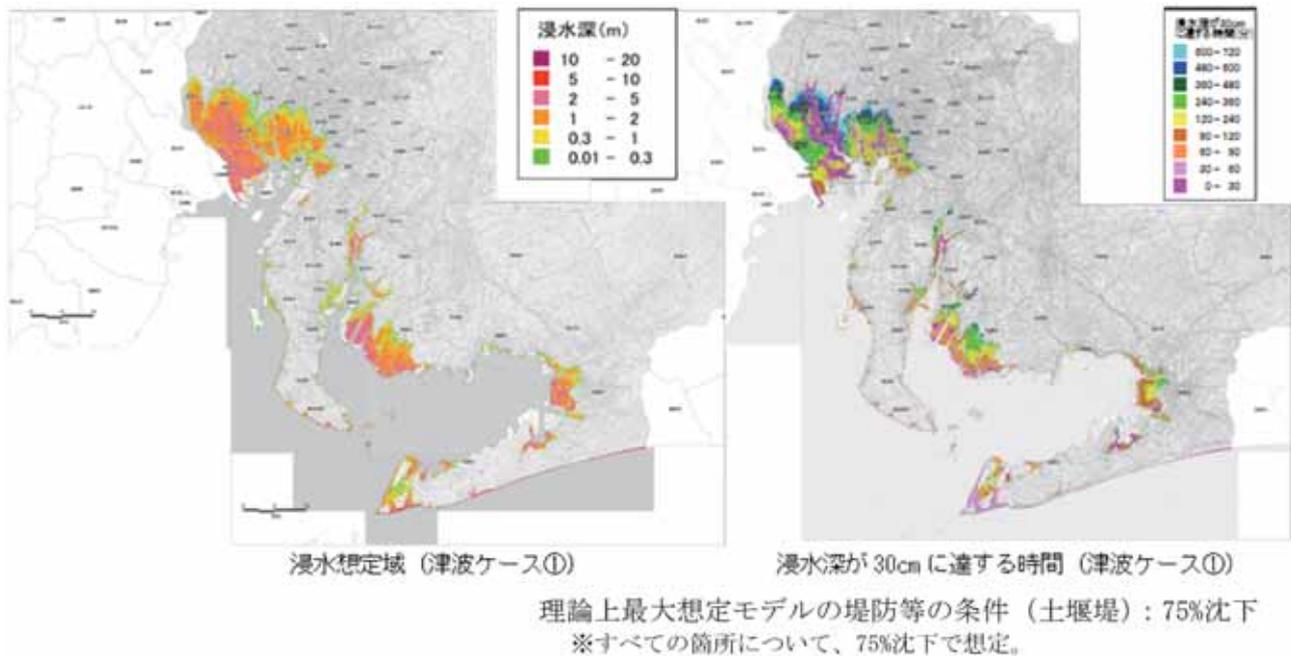
○南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものである。

○本県の地震・津波対策を検討する上で、主として「命を守る」という観点で補足的に参照するものである。



震度分布（陸側ケース）

液状化危険度分布（陸側ケース）



(3) 被害量の想定結果

建物被害、人的被害について、県全体の被害が最大となるケースの被害量は、下表のとおりである。

県全体の全壊・焼失棟数は、「過去地震最大モデル」では約 94,000 棟となっており、「理論上最大想定モデル」では、地震動による全壊棟数が大幅に増加すること等により、約 382,000 棟となっている。

また、県全体の死者数は、「過去地震最大モデル」では、約 6,400 人となっており、要因別に見ると浸水・津波によるものが最大で、約 3,900 人となっている。また、「理論上最大想定モデル」では、約 29,000 人となっており、要因別に見ると建物倒壊等によるもの（約 14,000 人）と浸水・津波によるもの（約 13,000 人）を合わせると全体の約 9 割を占めている。

なお、こうした結果を踏まえ、平成 26 年 5 月に、愛知県地域防災計画を抜本的に見直し、重点を置くべき事項として、「揺れ対策の充実」及び「津波及び浸水対策の充実」を位置付けている。

○全壊・焼失棟数

	揺れ	液状化	浸水・津波	急傾斜地崩壊等	地震火災	合計
過去地震最大モデル	47,000 棟	約 16,000 棟	約 8,400 棟	約 600 棟	約 23,000 棟	約 94,000 棟
理論上最大想定モデル	242,000 棟	約 16,000 棟	約 22,000 棟	約 700 棟	約 101,000 棟	約 382,000 棟

○死者数

	建物倒壊等	浸水・津波	急傾斜地崩壊等	地震火災	合計
過去地震最大モデル	約 2,400 人	約 3,900 人	約 50 人	約 90 人	約 6,400 人
理論上最大想定モデル	約 14,000 人	約 13,000 人	約 70 人	約 2,400 人	約 29,000 人

○経済的被害

過去地震最大モデル

直接的被害額	約 13.86 兆円	間接的被害額	約 3.00 兆円
--------	------------	--------	-----------

(4) 減災効果

今回の調査では、4つの対策項目（①建物の耐震化率100%、②家具等の転倒・落下防止対策実施率100%、③全員が発災後すぐに避難開始、④既存の津波避難ビルの有効活用）による減災効果も示しており、この調査結果を踏まえ、「第3次アクションプラン」の策定を行ったところである。

○建物被害

項目	過去地震最大モデル		理論上最大想定モデル	
	対策前	対策後	対策前	対策後
揺れによる全壊棟数	約 47,000 棟	約 20,000 棟 (約 6 割減)	約 242,000 棟	約 103,000 棟 (約 6 割減)

○人的被害

項目	過去地震最大モデル		理論上最大想定モデル	
	対策前	対策後	対策前	対策後
死者数	約 6,400 人	約 1,200 人 (約 8 割減)	約 29,000 人	約 11,000 人 (約 6 割減)

○経済被害額（過去地震最大モデル）

項目	対策前	対策後
経済被害額（直接被害額）	約 13.86 兆円	約 11.25 兆円（約 2 割減）

3. 第3次アクションプランの概要

(1) 第3次アクションプランの概要

ア. 位置付け、計画期間

あいち地震対策アクションプランは、愛知県地震防災推進条例第9条第1項の規程に基づく愛知県の地震対策に係る行動計画であり、第3次アクションプランは、平成27年度（2015年度）から35年度（2023年度）までの9年間を計画期間としている。

イ. 目標及び施策体系

第3次アクションプランでは、本県の地震防災の理念となる目標（理念）として「地震

から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくり」を掲げ、その実現に向けて計画期間中に達成すべき減災目標として「死者数の8割減、建物の全壊・焼失棟数の5割減」を設定した。さらに、それらを達成するための個別の具体目標も設定している。

目標（理念）

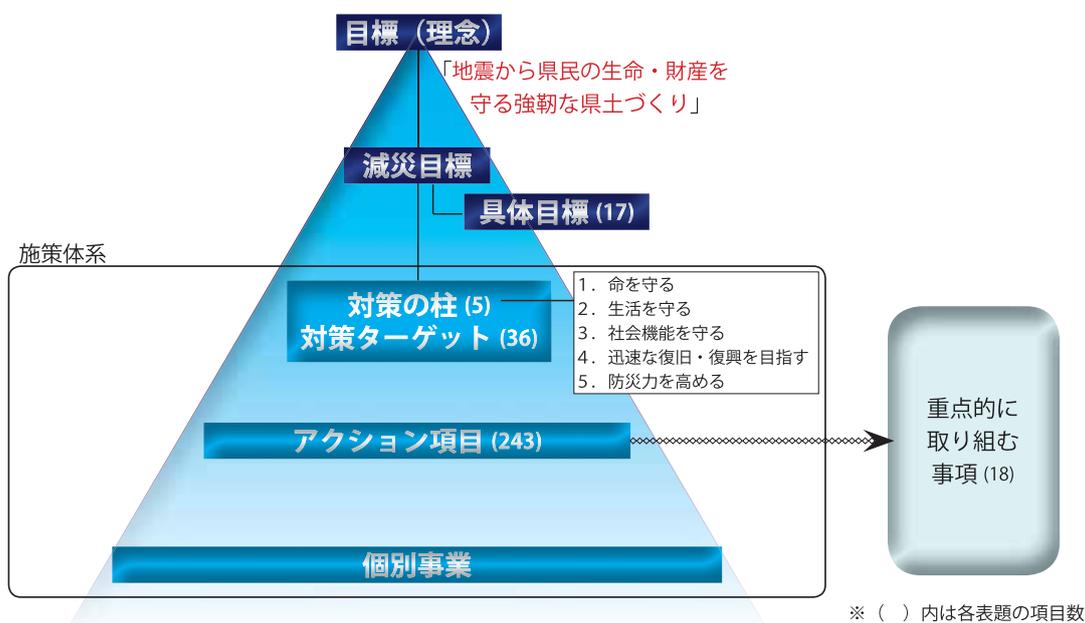
地震から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくり

減災目標

本県被害予測調査の結果（過去地震最大モデルの想定）に対して「減災目標」を設定

死者数	約 6,400 人→約 1,200 人	(約 8 割減)
建物の全壊・焼失棟数	約 94,000 棟→約 47,000 棟	(約 5 割減)

施策体系の構築にあたっては、「命を守る」「生活を守る」「社会機能を守る」「迅速な復旧・復興を目指す」「防災力を高める」の5つを対策の柱として設定し、さらにそれを具体的内容で細分した36の対策ターゲットを設定した。その上で、地震・津波のレベルに応じてハード対策とソフト対策を効果的に組み合わせる形で、243のアクション項目をとりまとめている。



施策体系

目標（理念）	対策の柱	対策ターゲット（（ ）内はアクション項目数）
地震から 県民の生命・財産を守る 強靱な県土づくり	1 命を守る	1-1 地震動から命を守る（12） 1-2 浸水・津波から命を守る（13） 1-3 火災から命を守る（4） 1-4 地盤災害等から命を守る（9） 1-5 ライフライン障害から命を守る（1） 1-6 交通の混乱から命を守る（3） 1-7 燃料の確保により命を守る（3） 1-8 危険物等から命を守る（9） 1-9 救助活動により命を守る（6） 1-10 災害医療活動により命を守る（7） 1-11 救助活動等の交通基盤を整備する（4） 1-12 安否不明状態を解消する（1）
	2 生活を守る	2-1 医療・看護機能を守る（1） 2-2 保健・介護機能を守る（6） 2-3 心の健康を守る（2） 2-4 水・食料・物資不足から生活を守る（5） 2-5 避難所等での生活を守る（6） 2-6 二次災害から生活を守る（2） 2-7 仮設住宅・一時的な転居先での生活を守る（3） 2-8 帰宅困難者を支援する（2） 2-9 教育を守る（6） 2-10 集落の生活を守る（3）
	3 社会機能を守る	3-1 行政機能を守る（18） 3-2 治安を守る（9） 3-3 ライフライン機能を守る（6） 3-4 交通・物流・食料供給機能を守る（5） 3-5 遺体への適切な対応を守る（3） 3-6 経済活動を守る（7）
	4 迅速な復旧 ・復興を目指す	4-1 事前復興・復興方針・体制づくりを進める（5） 4-2 災害廃棄物等の円滑な処理を進める（2） 4-3 住宅の確保、再建を進める（1） 4-4 産業の復興を進める（3）
	5 防災力を高める	5-1 教育啓発・人材育成により防災力を高める（44） 5-2 物資・設備・空間の充実により防災力を高める（9） 5-3 災害情報の充実により防災力を高める（11） 5-4 仕組み・制度の構築により防災力を高める（12）

各アクション項目には、下の例のとおり、取組内容を具体的に記載するとともに、事業量など数値的な目標をできる限り設定し、進捗状況を管理できるようにしている。ここでは、建設部の取り組みのうち重点項目（※）を紹介する。

（※）重点的に取り組む事項に位置付けたアクション項目。

対策ターゲット 1-1 地震動から命を守る

地震による揺れに備え、住宅や学校施設等の耐震化の推進による建物被害の予防、吊り天井や外装材等の非構造部材の耐震対策、屋内の家具等の転倒防止対策の啓発等の取組を推進します。

<アクション項目>

〔担当部局課室等〕

1. 住宅の耐震化の促進 ★	建設部建築局 住宅計画課
住宅の耐震診断、耐震改修の補助及び県民に対する啓発活動を行うことにより、耐震化を促進します。	
●民間住宅の耐震診断補助 130,000 戸	
●民間住宅の耐震改修補助 17,000 戸	

<p>2. 建築物の耐震化の促進 ★</p> <p>不特定多数の者や避難に配慮を必要とする者が利用する大規模建築物への耐震診断・耐震改修補助を実施します。また、避難路沿道建築物への耐震診断補助を実施するとともに、耐震改修の促進策を検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●民間建築物の耐震診断補助 1,100 棟 ●民間建築物の耐震改修補助 60 棟 	<p>建設部建築局 住宅計画課</p>
--	-------------------------

対策ターゲット 1-2 浸水・津波から命を守る

地震により発生する浸水・津波に備え、避難訓練の実施やハザードマップの作成等の避難行動に係る取組と、河川堤防や海岸堤防の耐震化等の推進、水門等の自動閉鎖化・遠隔操作化等の施設整備の取組を効果的に組み合わせ対策を推進します。

<p>8. 河川・海岸堤防の耐震化等の推進 ★</p> <p>津波等により浸水することを防ぐため、堤防等の耐震化を推進します。また、津波が堤防を越えた場合にも流失しにくくするため、粘り強い構造への強化等を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●農地海岸堤防の耐震化 2.4km ●河川堤防の耐震化 57.2km ●建設海岸堤防の耐震化 20.7km ●建設海岸堤防の補強・補修 5.0km 	<p>農林水産部農林基盤局 農地計画課 農地整備課 建設部 河川課</p>
<p>9. 港湾・漁港の海岸堤防の耐震化等の推進 ★</p> <p>津波等により浸水することを防ぐため、堤防等の耐震化及び新設を推進します。また、津波が堤防を越えた場合にも流失しにくくするため、粘り強い構造への強化等を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●港湾海岸堤防の耐震化 2.9km ●漁港海岸堤防の耐震化 3.4km ●港湾海岸堤防の補強・補修 0.9km ●漁港の津波対策施設の新規設置 1.4km 	<p>建設部 港湾課</p>
<p>10. 河川・海岸の水閘門・排水機場等の耐震化の推進 ★</p> <p>河川の河口部や海岸にある水閘門等が、地震後も操作が可能となるよう耐震補強等を推進します。また、排水機場については、地震後の地域の排水機能を確保するため耐震補強を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●河川の水閘門・排水機場等の耐震化 27 施設 ●建設海岸の水門等の耐震化 20 基 ●港湾海岸の水門等の耐震化 18 基 ●漁港海岸の水門等の耐震化 32 基 	<p>建設部 河川課 港湾課</p>
<p>11. 河川・海岸の水門等の自動閉鎖化・遠隔操作化の推進 ★</p> <p>津波の到達時間が短い地域等における河川・海岸の主要な水門等の自動閉鎖化・遠隔操作化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●河川の水門等の自動閉鎖化・遠隔操作化 3 施設 ●建設海岸の水門等の自動閉鎖化・遠隔操作化 12 施設 ●港湾海岸の水門等の自動閉鎖化・遠隔操作化 5 施設 ●漁港海岸の水門等の自動閉鎖化・遠隔操作化 10 施設 	<p>建設部 河川課 港湾課</p>

対策ターゲット 1-4 地盤災害等から命を守る

発災時の土砂の流出や山地崩壊などの土砂災害を防ぐため、土砂災害対策や山地災害対策の推進、農業用ため池や農業水利施設の耐震化等の対策を推進します。

<p>1. 土砂災害対策の推進 ★</p> <p>地震等により発生する土砂災害を防止するため、急傾斜地崩壊防止施設等の整備を推進します。また、土砂災害の危険がある区域を明らかにするため、土砂災害警戒区域等の基礎調査を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土石流対策施設等の整備 59 箇所 ●急傾斜地崩壊防止施設の整備 53 箇所 ●地すべり防止施設の整備 1 箇所 ●土砂災害防止法に基づく基礎調査 9,400 箇所 	<p>建設部 砂防課</p>
--	--------------------

対策ターゲット 1-1-1 救助活動等の交通基盤を整備する

発災時に県民の命を守る上で不可欠な救助、救急、医療及び消火活動を着実に実施するために必要な交通基盤の整備を推進します。

<p>2. 緊急輸送道路等の橋梁の地震対策の推進 ★</p> <p>緊急輸送道路等における重要な橋梁について橋梁本体の耐震補強を推進します。特にゼロメートル地帯等橋梁取付部の沈下の恐れがある地域においては、耐震補強に加えて段差対策を推進します。</p> <p>●橋梁の耐震化 40 橋</p>	<p>建設部 道路維持課</p>
<p>3. 臨港道路橋梁の耐震化の推進 ★</p> <p>臨海部における救助活動や緊急物資の輸送などを着実に実施するとともに、港湾の物流機能の途絶を防ぐため、主要な橋梁の耐震化を推進します。</p> <p>●臨港道路橋梁の耐震化 3 橋</p>	<p>建設部 港湾課</p>

重点的に取り組む事項

東日本大震災の教訓及び本県被害予測調査の結果等を踏まえ、第3次アクションプランで重点的に取り組む事項を設定

被害予測調査の結果を踏まえ、減災効果を高める取組	
住宅・建築物の耐震化の促進	家具固定の促進
浸水・津波避難対策の充実	河川・海岸堤防等の耐震化等の推進
土砂災害対策の推進	
東日本大震災における課題等への対応の取組	
防災活動拠点の充実	防災体制の強化
災害医療活動の充実	救助活動等の交通基盤の整備の推進
避難生活環境の確保	災害用備蓄の促進
災害廃棄物処理体制の構築	
日本の成長をリードするあいちの産業を守る取組	
産業活動の維持・継続の確保	迅速な復旧・復興のための事前準備の推進
地域全体の継続計画の充実	
防災・減災の主流化・日常化を進め、防災協働社会を構築するための取組	
防災協働社会の形成の推進	児童・生徒に対する防災教育の充実
消防団の充実強化	

4. 推進・普及啓発活動

地震防災対策は、中長期的に多様な主体と協力して取り組む必要があるため、アクションプランをフォローアップする仕組みの確立や愛知県地震対策有識者懇談会を活用した定期的な検証等により、発展的な更新がなされ、常に進化するアクションプランとすることを目指している。

5. おわりに

本稿では、第3次アクションプランのうち、主に建設部の取り組みを紹介したが、これらの取り組みだけで地震防災対策が完結するものではない。繰り返しになるが、第3次アクションプランは県民の皆様を始め、国、市町村、企業、各種団体など、関係の方々とともに、県内の総力を結集して取り組むことが重要であり、是非本県のHPに記載されているアクションプランをご一読いただき、個人で、家庭で、会社でできる取り組みなどを確認いただくと幸いである。

(<http://www.pref.aichi.jp/0000078460.html>)

特集3 産官学の取組み～大災害発生時における対応について～

河川堤防はなぜ壊れて、どう守るのか ～水害と地震～ (水と土のかかわりの常識を見直す)

名古屋工業大学 教授 前田 健一
社会工学専攻・高度防災工学センター

1. はじめに ～地震と洪水と地域～

河川近くの水際の生活は、普段は水の恵みを受けていますが、一旦、水害が発生すると大きな被害を受けたり、浸水状態が長く続いたりします。また、このような河川の土砂運搬による堆積によって形成された低い土地、埋立地や干拓地は地下水も高く、ゆるい地盤が広く分布することから、地震による液状化によっても甚大な被害を受けます。

東海地区では、大小さまざまな河川が地域の発展に貢献してきましたが、低平地も広く分布しています。図-1は名古屋近隣の標高を表したものですが、名古屋の南側と西側が海拔ゼロメートルまたはマイナス地域であるとともに、いくつかの河川が流れています。

水害や地震時の液状化による被害が報告された地域であるとともに、高潮や洪水による浸水、南海トラフ地震による液状化や津波による被害も懸念されています。

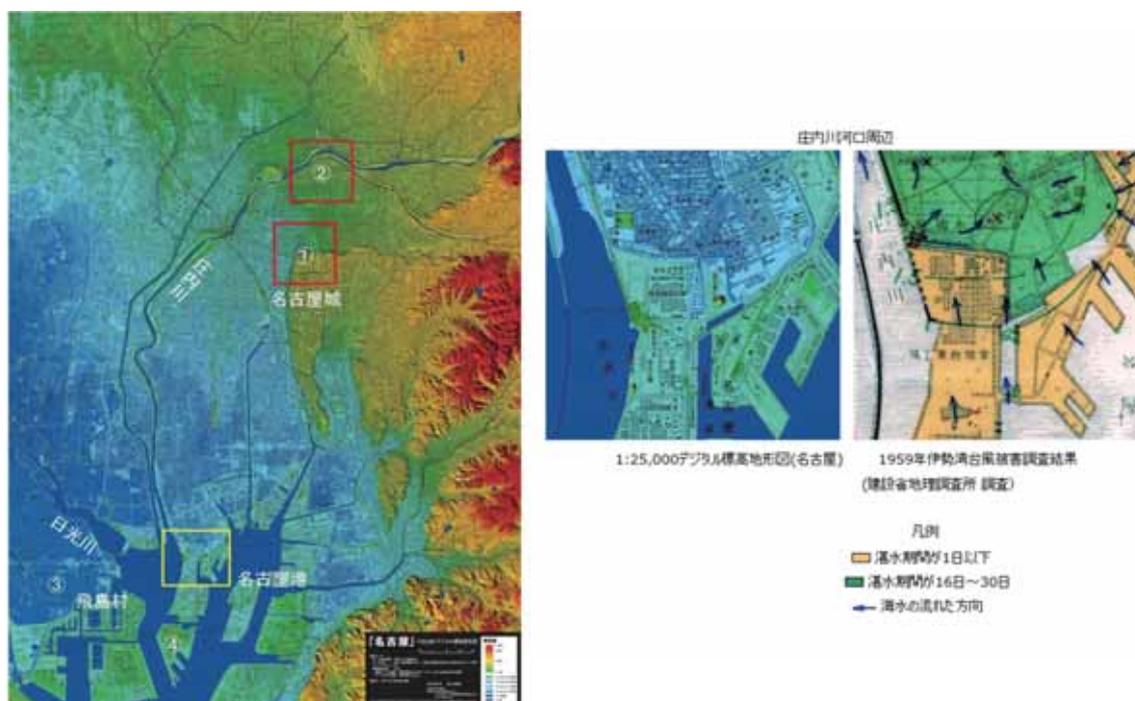


図-1 名古屋市近郊の標高

(出典：国土地理院 HP：<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2006-0921.html>)

このように、洪水によって被害を受けやすい地域と液状化による被害を受けやすい地域は重なったりすることがあります。例えば、図-2は、一宮市の液状化と水害に対するハザードマップを並べて表示しています。危険度が高い箇所は、ハザードが違っても類似

しているように見えます。ただし、ここで重要なことは、比較的発生頻度の高い（2年一回、10年一回）水害について備えることは、発生頻度の極めて低い巨大地震（100～200年に一回、もしくは1000年の一回）に備えることにプラスになるということです。また、地域の成り立ちを知り、地盤の特徴を知る良い機会になると考えられます。

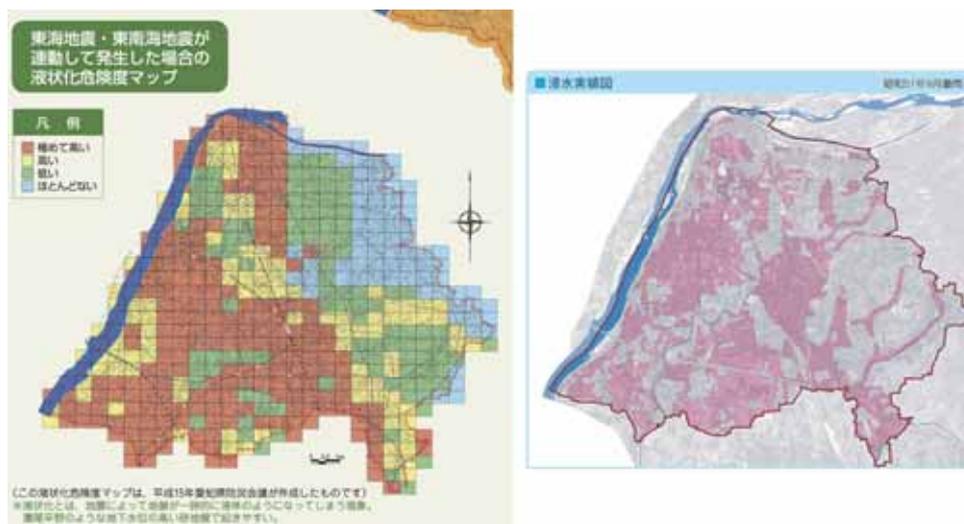


図-2 液状化危険度マップと浸水実績図の比較

(出典：一宮 HP：

<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/kenshi/shido/jisinnbousaimattpu/jisinnbousaimattpu.html>)

当然ながら、低平地では河川堤防が防災上も重要な役割を担うのは疑う余地もありません。本稿では、水と土のかかわりの常識を見直しながら、「水と土」、「巨大な地震に備えるために」、「豪雨－超過洪水に備えるために」、「情報の蓄積について（破壊制御と測量と医者）」といった内容にふれたいと思います。

2. 土と水

2.1 土と水

土は含んだ水分量によって、その様子は大きく異なります。図-3は、円筒の容器に乾燥した砂を入れ、そっと容器を持ち上げると、その砂に特徴的な傾斜角度をもった砂山が作られます（急な斜面は形成できませんが、摩擦によってある程度の量の砂は崩れないでいます）。また、適当に湿らせた状態ではタワーが作れるほどの強度を発揮します。一方、水に浸ったような状態（飽和）では、強度は減少し、振動を加

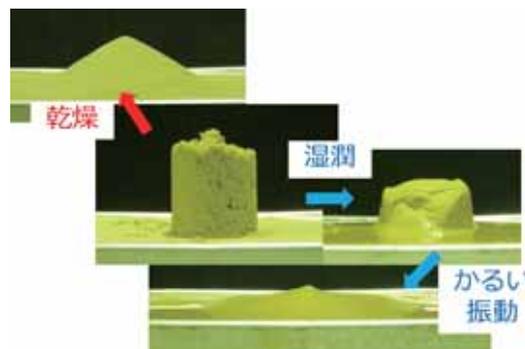


図-3 土の含水状態による耐力の変化

えると流動化してしまいます。適度な水分状態を保つことで土は最も力を発揮するということです。

2.2 地震時の液状化

(1) 液状化のメカニズム

足元の地盤は、大きく重たい建物を支えたり、地下の構造物をしっかりと固定したりする役割を果たす安心の象徴ともいえるかもしれません。

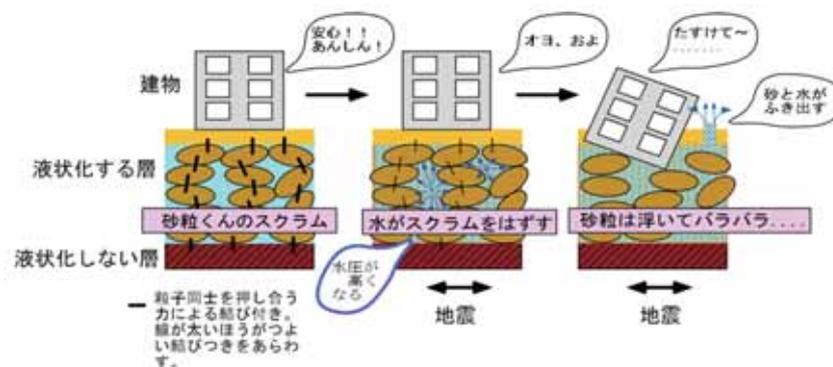


図-4 液状化の説明：普段（地震前）～揺れと液状化～液状化後の沈下、構造物の傾斜と砂と水の噴き出し

図-4に示すように、普段は、地下水以下であっても砂粒子同士は、上に堆積している土の重さで、互いに押し合い、しっかりとスクラムを組み硬い「固体」となっています。

しかし、地震の揺れによって水圧が上昇すると、砂粒子同士の押し合う力を減らしスクラムが崩れてしまい、ついには粒子が浮いたような状態になってしまいます。これが「液状化現象」です。このとき、地盤は比重が1.8～2.0の重い「液体」のようになり流動化します。

重たい建物は沈み、埋設されているマンホールや下水管などは浮き上がります。また、水圧が上がった液状化層から地表面に向かって、土と水が吹き出し、地面は大きく沈下します。場所によって沈下の量が違うと、地面はでこぼこになる「不同沈下」が生じ、その上にある建物は大きく傾きます。

(2) 液状化の発生しやすさ

液状化が起きるには、a) 水があること、b) ゆるい砂質系の土の堆積層であることが必要です。水が無いと液状にならないし、あまり水はけのよい礫のような土では、水圧が下がり、地盤内のスクラムが早く回復します。以前は、粒の大きさがそろった砂がもっとも液状化しやすく、いろんな大きさの粒からなる土は液状化に強い（もしくは液状化しない）とされてきました。しかし、これには、かなり注意と専門的な知識が必要です。

上記の条件から考えると、埋立地、干拓地、河川の氾濫域、旧河道などが考えられます。図-5は、イラスト的ですが、名古屋市における液状化危険度分布です。濃尾地震（1891）、

東南海地震（1944）、三河地震（1945）のいずれかで液状化した地域も示されており、南部の干拓地、名古屋立地、河川の蛇行や氾濫で形成された軟弱な西側や河川沿いが激しい液状化の経験値をもつとともに、将来の危険性が高いことが伺われます（カラーコンターのハザードマップは自治体のHPを参照下さい）。



図-5 名古屋市における液状化危険度分布： 地盤工学会中部支部，最新名古屋地盤図」の図を基に加筆，アレンジしたもの

先に述べたように、液状化危険度は濃尾平野の発展の歴史とも強くかかわっています。濃尾平野の標高と比較すると、低平地で水際の利便性が高い地域に街が発展し、被害リスクが高くなっているということが分かります。さらに、濃尾平野南部では海拔ゼロメートル以下の地域も多く、液状化等により大きな沈下が生じれば津波に対して危険性が一層高まることになります。

(3) 支える大地から流れる大地に：ポスト液状化被害！

水平な地層が積み重なった地盤では、被害の程度は、どれだけ液状化した層が厚いか重要となります。しかし、図-6のように地盤が水平に広がったところでなく、護岸などがある場合、液状化層が薄くても傾斜している場合には、地震が終わった後に、地面が数メートルから十メートルも流れるように動いてしまうことがあります（液体は高い所から低いところに

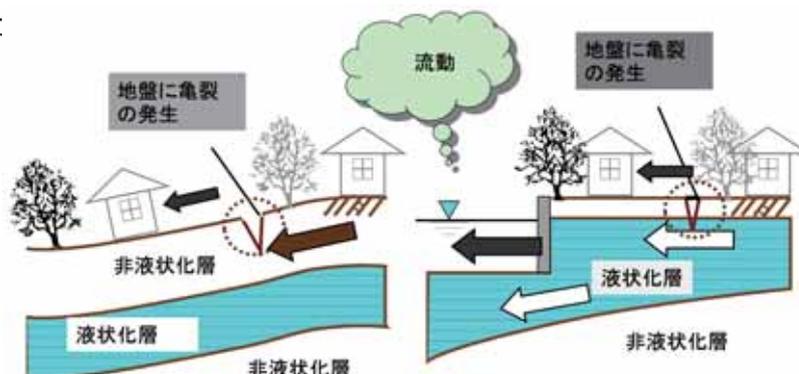


図-6 地震後に液状化した周辺でズルズルと始まる流動化による被害

また、高台に整備された見晴らしの良い住宅地でも、液状化が引き金となる被害がおこります。土地造成の際には、古くからある硬い地面を削って平らにする切土と窪地、沢に土を盛る盛土が行われます。後者のような地形には水が集まりやすく、ゆるいので、被害が大きくなります。切土部分の家の被害は少ないのに、すぐ隣の盛土部分では斜面下まで家が土と一緒に滑り落ちていることも見られます。土地の成り立ちを知ることは重要です。

さらに、地震後に数十分経ってから、泥水が吹き出し、地盤に亀裂が生じる現象も確認されています。これは地盤の中にたまった圧力の高い水が、弱いところを探し吹き出すためです。震災のとき、舞浜での激しい液状化層は6～9mで、その後の高い圧力の水が上部や周りに浸透することで被害が継続し、広がったとする調査結果もあります。液状化しそうな砂層の上に薄い粘土層がある場合には、このような被害が起きやすくなります。

つまり、より液状化の被害を理解し、軽減するには、液状化発生後のポスト液状化を知ることがポイントとなります。

過去の震災でも液状化対策を施した公共施設では液状化の被害はほとんどなく、対策が有効であったことは実証されています。一方で、個人の宅地など民間の土地では費用が高むことから、未対策箇所が多く、被害がでています。一般的に、住宅の基礎地盤の改良に使われる費用は、建物の1割程度以内との統計がありますが、これですと十分な液状化対策は難しいのが現状です。また、液状化すると揺れが小さくなるので液状化させた方が良いとする主張もありますが、これはかなり乱暴な議論です。

2.3 浸透による不安定化（液状化）

(1) 浸透時の土粒子と間隙水の関係

土粒子の間の間隙を流れる間隙水は、粘性をもっているため、止まった土粒子との間には速度の差があることから、いわゆる摩擦があります。水は流れの方向に土粒子を引きずろうとすることで、土粒子間のスクラムに影響を及ぼします（図-7の左）。さらに、粒度によっては細かな粒子が間隙をぬって動いてしまうような内部浸食と言われる現象も起きることが知られています

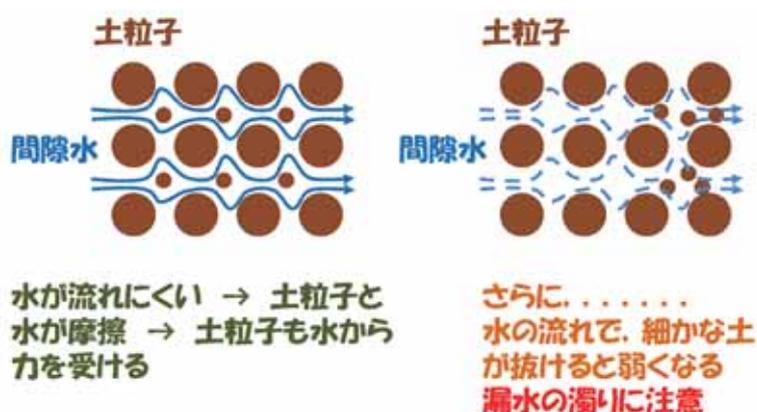


図-7 土中の水（間隙水）が流れる際には水が流れ方向に土粒子を流そうとする様子：
（左）土粒子が動かない場合；（右）細かな粒子が徐々に流される侵食によって土は骨粗鬆症のように劣化する場合

(図-7の右)。この場合土の骨格構造は劣化して、骨粗鬆症のようになってしまい、たとえ、土にかかっている力が同じであっても、土は自分自身から壊れてしまいます。

(2) 浸透による不安定化（液状化）のメカニズム

つぎに、図-8のように、矢板の左右で水位が異なるとき、左の上流側から矢板の下をもぐって、右側で下から上に向かって水が流れますが、このときの破壊現象について確認します。左右の水位差 ΔH が限界値である限界水位 ΔH_{cr} を超えると、下流側である右側の土が下から上方にゆるんで吹き上がり、破壊が生じます。これは、矢板の左側の上流では、土粒子は間隙水によって下に引きずられ、土粒子間のスクラムは強くなりますが、右側の下流では土粒子は間隙水によって上に引きずられ、土粒子間のスクラムは弱くなります。液状化とまるで同じです。

ここで、重要なのは、地震時の液状化と浸透時の液状化は、一見別のもののようにであるが、土粒子レベルに視点を変えてみると、同じ液状化として整理される点です。

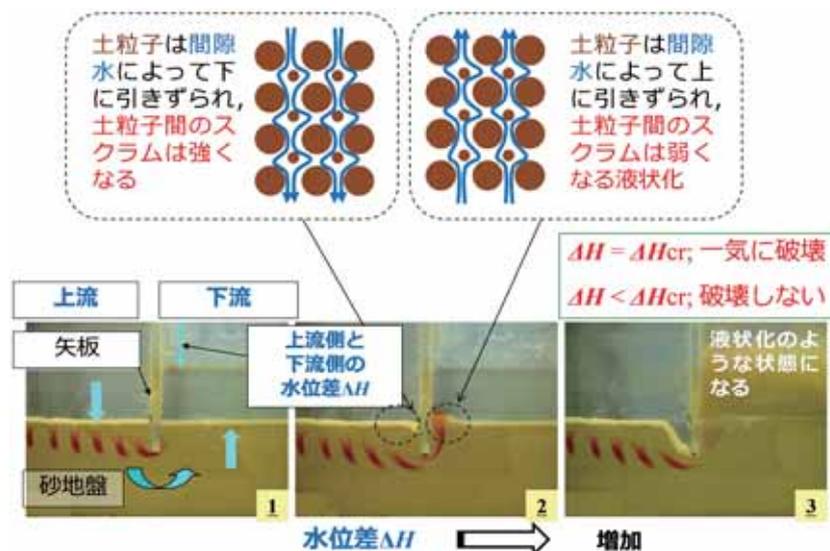


図-8 矢板まわりの浸透による液状化

3. 巨大な地震に備えるために

3.1 東日本大震災での液状化による被害を振り返る

(1) 何が被害を大きくしたのか

東海地区に大規模な被害をもたらす南海トラフ巨大連動地震に備えるにあたり、特に液状化の観点から、我々が見逃してきたことがあるのではないかと、今一度、東日本大震災で大きな被害をもたらした要因について見直してみたいとおもいます。ただ、巨大だとおそれていても何も始まらないので、巨大地震とはどのような作用をもたらすのかを、工学的に整理してみるのが大切です。ポイントは、①継続時間の長い揺れ、②多発する余震、

③繰り返し来襲する津波、④液状化と津波という複合災害（液状化が津波被害を助長する被害）です。我々が、目にした被災地の様子はただ1回の本震や1波の津波だけで起きたものではないことを認識した上で、考えなければいけません。

(2) ‘世界最大’ ‘過去最大’ と呼ばれた液状化被害と再液状化

広大な埋立地の大規模な液状化の原因は何でしょうか。要因の一つが揺れの継続時間です。東海地区で想定される巨大地震も、いくつもの断層が連動することによって、数分間に及ぶ長い揺れが予測されています。浦安地区では、5～6分におよぶ揺れにより砂地盤が液状化状態になった後も長く揺すられ、地表面の大きなうねりや沈下が発生しました(図-9・左上)。地中に埋められているライフラインである下水管が大きく隆起し(図-9・左下)、逆勾配となって長期にわたって機能しませんでした。また、大量の砂が地面から吹き出しました(図-9・右上)。



図-9 浦安の液状化被害：東日本大震災：(左上) 波打つ道路、激しい液状化に加えて、液状化してやわらかくなった地盤を長くゆさぶられているためと考えられている；(左下) 隆起する歩道（下水管が埋設されている、傾く交通構造物）；(右上) 大量の噴砂

つぎの要因は、余震が何度も起きることで被害が深刻かつ広がったということです。本震によって液状化し、十分に地盤が回復する間もない30分以内に再び余震が発生しています。一方で、約1カ月後の4月7日の強い余震でも被害が拡大しています。余震が小さくても本震で傷んだ地盤は、より液状化しやすくなっているという計算結果もでています。再液状化は、避難や復旧プランにも影響を与える大きな課題となりました。さらに、従来は激しい液状化被害は生じないと言われてきた粘土地盤においても、長く揺れた後に水圧が上昇することで強度が低下し、沈下が発生しました。

3.2 低平地の河川堤防の液状化に関する問題

(1) 低平地であることによる被害の拡大

東日本大震災での河川堤防の被害形態は、土木研究所によって図-10のようにまとめられています。従来までの堤体を支える基礎地盤の液状化だけでなく、堤体自体の液状化も注視されています。

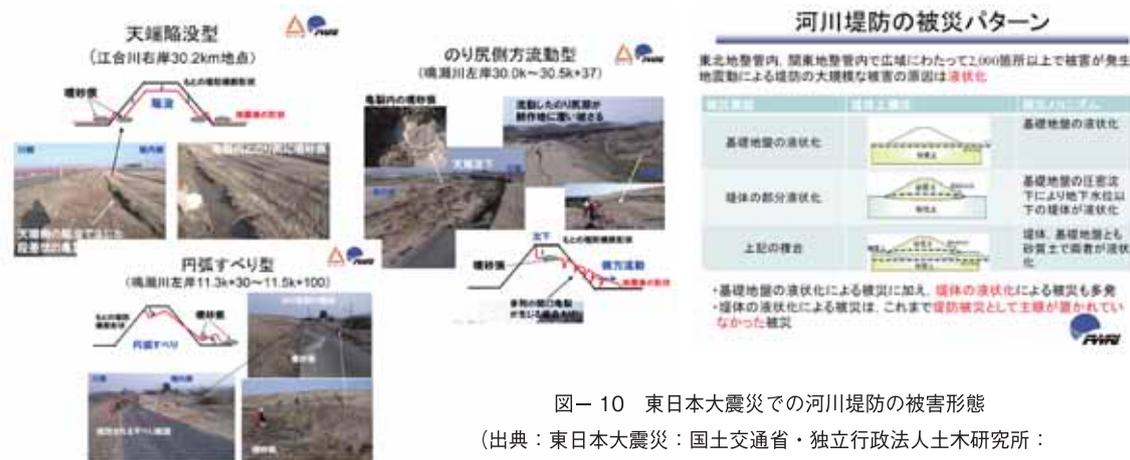


図-10 東日本大震災での河川堤防の被害形態

(出典：東日本大震災：国土交通省・独立行政法人土木研究所：

<http://www.nilim.go.jp/lab/bbg/saigai/h23tohoku/houkoku4/>

happyyou/140319-09.pdf)

本稿では、低平地で比較的下流域をイメージして、河川水位の高低によってどのような被災形態になるのかについて、簡単に行った実験結果を示すこととします。堤体が砂と粘土の混合、基盤地盤はきれいな砂で液状化しやすい状況を想定しています。

先に整理したように、南海トラフ地震の襲来においても、東日本大震災と同様に地震、液状化、津波といったハザードが連続して起きることが想定されています。実験の目的は、低平地の河川では、堤内外の水位差が付きやすいし、感潮域であれば河川水位もより高くなり、地震による堤防決壊で津波が到達する前に浸水する可能性を検討するものです。

実堤防の約30分の1の堤体をイメージして模型を作成、細かい振動を比較的長く加えています。まず、図-11のように、堤内外の水位差が小さいときは、亀裂がほぼ対象に入り、液状化した砂の基礎地盤に沈むように堤体が沈下していきます。もとの高さの1/3ほど沈下しましたが決壊には至りません。震災時によく報告されている事例のようです。

一方、図-12、図-13は、堤内外の水位差が高いときです。揺れによって、亀裂が発生しますが、大きな亀裂は堤内側に偏って発生し、堤内側に堤体が大きく変形していきません。河川水は、亀裂にも浸透し決壊に至りました。

通常の堤防の液状化実験や解析は河川水位や内水位が考慮されていません。しかし、低平地においてはもともと、堤体下の基盤層と堤体内の浸透流を受け堤内側の法尻付近は浸透による液状化状態に近い状態にあります。さらに、地震によって揺すられ液状化が進行

すると、堤内側が早く液状化に達して不安定化してしまうということです。いわゆる、液状化の負の連鎖といえます。低平地では今後このような影響を考慮すべきと言えます。

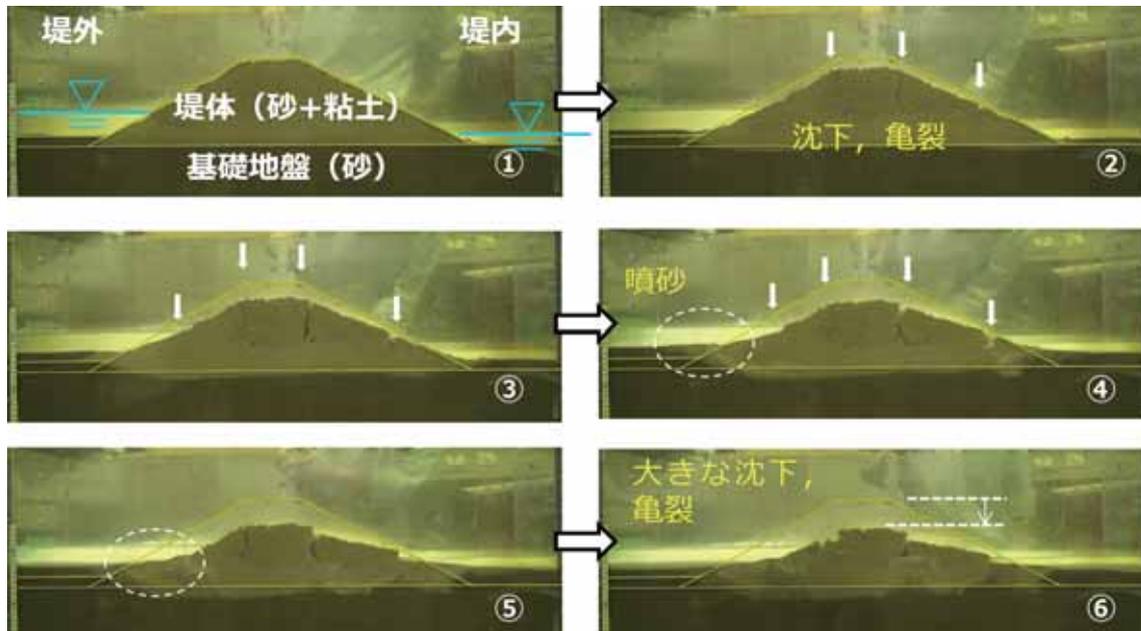


図-11 堤防の地震時液状化による被災実験：堤内外の水位差が小さいとき

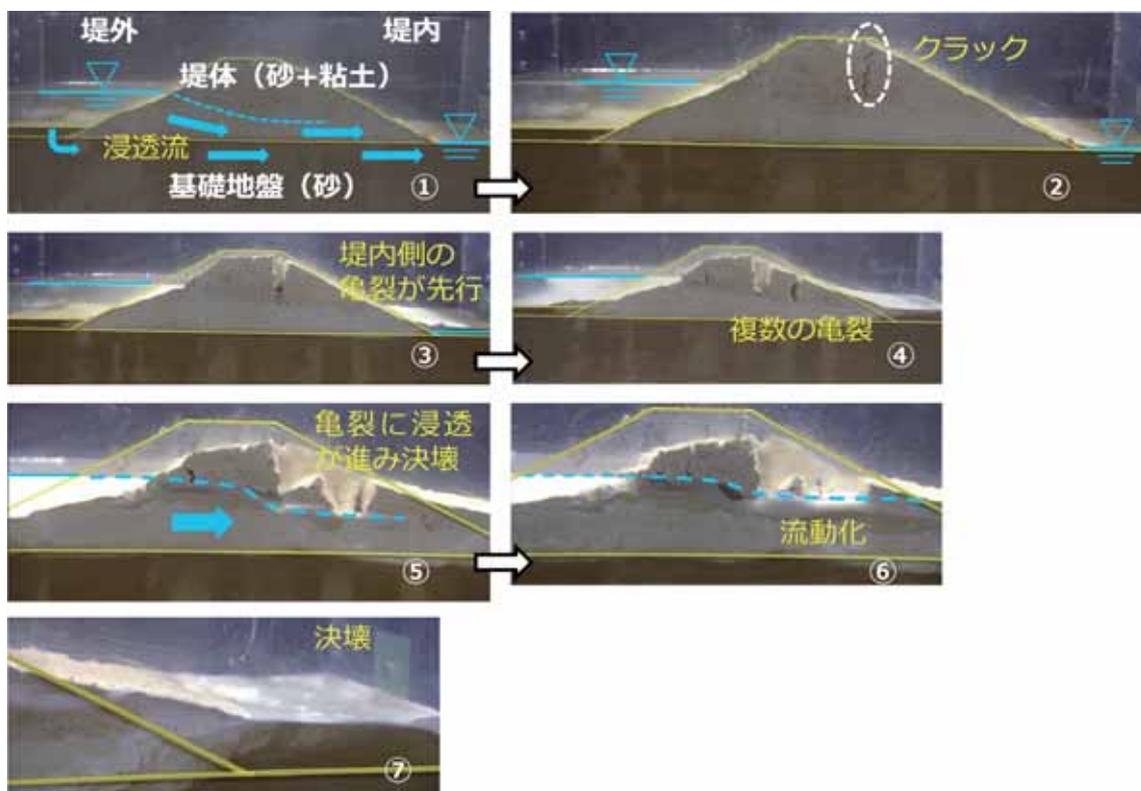


図-12 堤防の地震時液状化による被災実験：堤内外の水位差が大きいとき（横断方向断面）

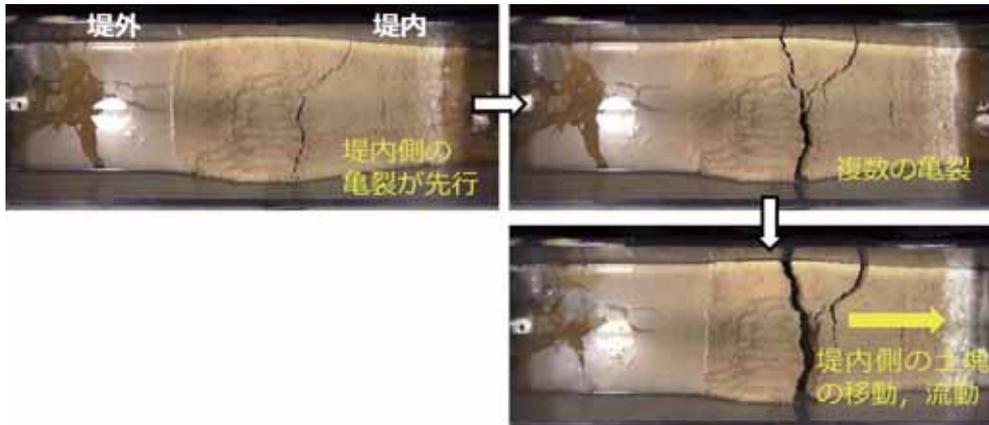


図-13 堤防の地震時液状化による被災実験：堤内外の水位差が大きいとき（上方から）

(2) 対策について

基礎地盤を対象とした液状化対策工の例は図-14に示すようなものがあります。鋼材を用いた工法もよく用いられています。今後、検討と考えられるのは、液状化対策と洪水対策お互いにどのように影響し合うかです。お互いの対策が他方の性能に悪影響を及ぼさないか、洪水対策のドレーンが液状化対策にも効果があるのかどうか、ということです。災害のハザードが甚大化、複合化するのであれば、個々の対策工にも付加価値、複合価値を見出していくことが、研究的にも管理の効率化にも重要であると思います。

基礎地盤を対象とした主な液状化対策工

・1995年兵庫県南部地震以降、基礎地盤を対象とした液状化対策を実施

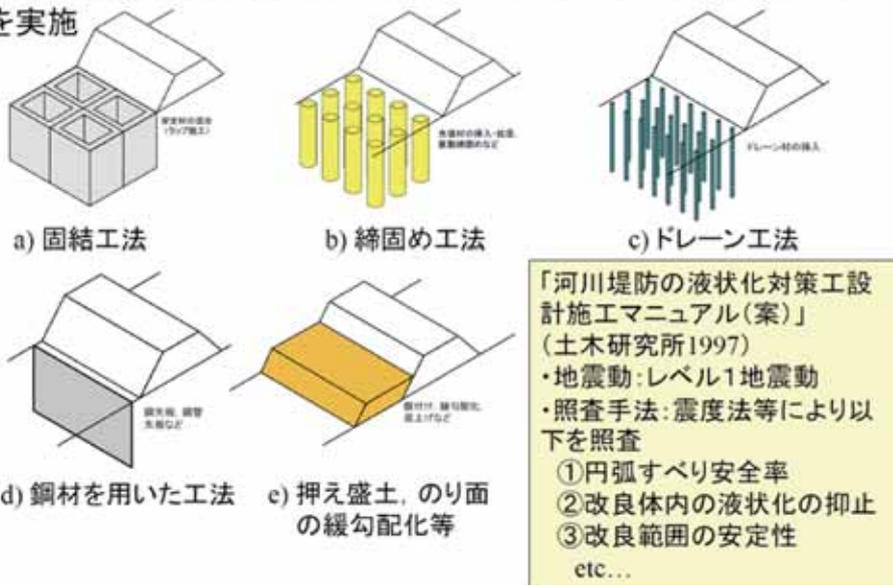


図-14 基礎地盤を対象とした主な液状化対策工の例

(出典：東日本大震災：国土交通省・独立行政法人土木研究所：)

<http://www.nilim.go.jp/lab/bbg/saigai/h23tohoku/houkoku4/happyou/140319-09.pdf>

4. 豪雨—超過洪水に備えるために

4.1 変り来る外力シナリオ

近年の気候変動により中流域の都市部では集中豪雨の頻度が増し、都市化の影響もあって河川水位は急激に増加する傾向にあります。また、高水位が長期的に継続するなど河川堤防への負荷は年々深刻化しています。その一方で資産の集中が進む都市部を守るため河川堤防に求められる機能は高度化します。そのため近年の特徴的な水理条件のシナリオ(図-15)における堤防の応答を理解し、メカニズムに基づく安全性評価技術を開発することが必要です。

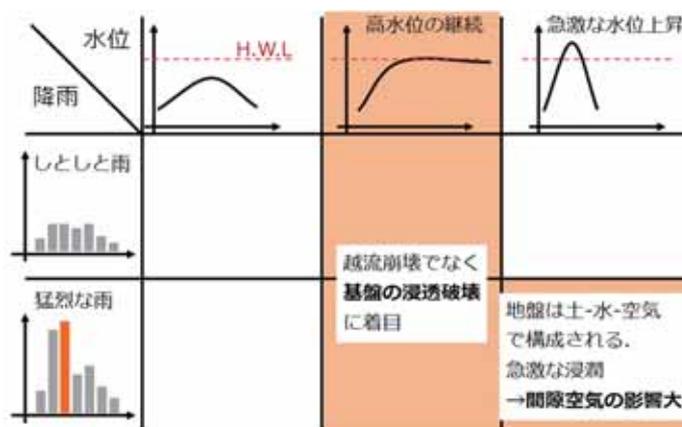


図-15 気象変動によって着目すべき外力のシナリオ

着目すべき最初のシナリオは急速浸潤です。まず、堤体は粘土だけでなく、砂質土でできているものも少ない、ということを確認する必要があります。したがって、堤体や堤体の基盤に降雨や河川水が浸潤することが大きな問題となります。堤防などの土構造物や斜面の安定性において、河川水位の上昇や地下水位の上昇による土の有効応力の低下に伴うすべり破壊については従来から良く検討されてきました。しかし、最近では、降雨の浸透において降雨強度、降雨波形や土質、初期含水比の関係が再考され、間隙空気の噴出、それに伴う土の劣化や構造体としての弱部の形成など間隙空気のダイナミクスが着目されています。不飽和な堤防への集中豪雨の浸透現象は、降雨強度 10～30mm/hr 程度の発生頻度の高い降雨と比較して、急激に浸潤化することで、通常降雨のような不飽和から飽和に向かう土・水・空気の三相の物理・力学的変化のみならず圧縮された間隙空気が堤防の弱線に沿って地表に噴発する現象（ここではエアブローと呼んでいます）が発生します。実際に 2000 年の東海豪雨、2011 年の福島・新潟豪雨や台風 15 号時(図-16)にも実堤防から気泡の噴出が確認されています(2015 年の関東・東北豪雨でも映像に納められています)。間隙空気がある程度徐々に抜ければ破堤にはつながっていませんが、大きな空気塊が噴出した場合には大きな問題になると考えられます。しかし、間隙空気の噴発の発生条件や堤防機能に及ぼす影響などは明らかになっていなかったのも事実です。



図-16 豪雨・高水位時の天端でのエアブローの発生事例

次に着目すべきシナリオは、継続時間の長い高水位である。平成24年に九州北部で発生した梅雨前線に伴う豪雨により、矢部川本川で18カ所の被災が発生し、右岸7.3K地点で堤防が決壊し甚大な被害を及ぼしました。破堤箇所付近では氾濫危険水位を5時間以上超過し、水位が下がり始めたところで決壊した、いわゆるパイピングによる被災とされています。粘性土で構成される堤体下の基盤層に、透水性の高い砂層・砂礫層が分布しており、この透水層を通じパイピングが発生したと報告されています。破堤前には、基盤から濁った漏水が吹き上げていたことが目撃されており、高水位が作用し続けることにより堤防が進行的に破壊したと考えられます。一方、同河川の延長上でも、堤体の下に砂層の分布や旧河道と交差する箇所があり、基盤から澄んだ漏水や変状が確認されているものの決壊には至っていません。このような被災の程度を分ける条件については解明されておらず、出水時の被災程度を判別できる地盤特性や外力特性の組み合わせを明確にすることは、河川堤防の重点監視箇所の抽出や強化において重要な課題といえます。

そこで、我々の研究グループでは水理条件として二つのシナリオ「集中豪雨及び急激な水位上昇」と「洪水の長期化による高水位の継続」に着目し、その被災予測について新たな課題を整理するとともに、安全性評価方法を検討しています。さらに、構造物としての堤防の安全性を照査するための一つの方法として、破壊モードを観察できる三相系の粒子法の解析例についても開発しました（これについては、紙面の関係上ふれていません）。

4.2 集中豪雨および急激な水位上昇のシナリオ

(1) 着目すべき課題

降雨発生装置を有し、底面以外は透明なアクリル面を有する土槽（幅2000mm、深さ550mm、奥行き500mm）を用い模型堤防を作製しました。まず、堤体下部の基盤層（層厚100mm）は水中落下させ、相対密度 $Dr=70\%$ となるように突固めを行っています。堤体部も、相対密度 $Dr=70\%$ となるように突固めを行いました。堤防の外部からは様々な方向から写真撮影を行うことで浸潤線を観測し、堤体の奥行き中央に土壌水分計や間隙水圧計、間隙空気圧計を埋設し計測しています。過去の研究を参考にしながら、①降雨強度の影響（30～120mm/hr）、②雨滴径の影響（径1～5mm、集中豪雨時の雨滴の大きさ

が通常降る雨よりも大きく、マーシャル・パルマーの雨滴径分布を参考にした)、③土質による影響(豊浦砂とまさ土)を検討しました。ここでは、紙面の都合上、①、③の結果について示すことにします。

図-17は、降雨浸潤モードに及ぼす土質と降雨強度の影響について整理した結果です。浸潤線が下部の不透水境界から上昇する場合もあれば(図(a))、堤体の上部、側面からの浸潤面に堤体内部の間隙空気が補足され、浸潤を妨げる場合もあることがわかります(図(b)~(c))。豊浦砂のような均等係数($U_c=1.6$)の小さな砂質土では(図(a)、(b))、降雨強度が小さい場合(図(a))には浸潤線は下から上に移動します、降雨強度80mm/hr以上では(図(c))、表層から浸潤域が発達し、間隙空気を封じ、表層に降雨水が集中することですべりが発生しています(表層で現行法の円弧すべりの安全率を計算してみると0.6となり、説明可能)。一方、まさ土(透水係数 10^{-3} cm/sや $U_c=9$)では(図(b)、(d))、降雨強度によらず間隙空気を封じこめられ圧縮していることが、堤体中央に設置された間隙空気圧の測定結果(右図)からもわかります。

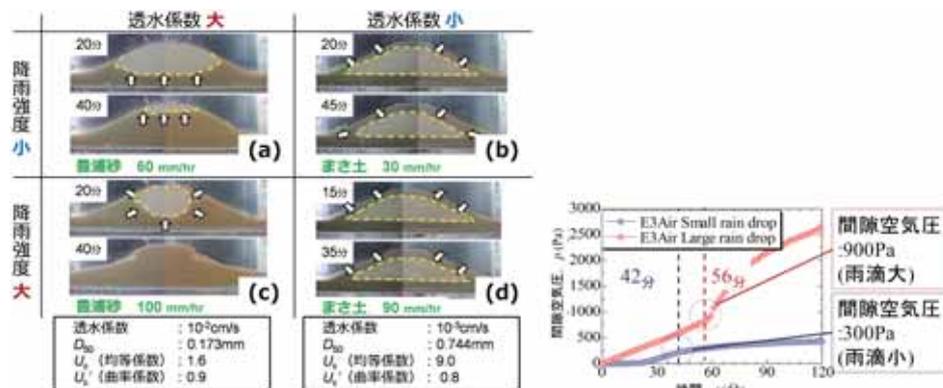


図-17 豪雨浸透による間隙空気の封入現象と急な浸潤モード時の間隙空気測定結果例

さらに、図-18は、降雨の後(先の図(d))に急激な河川水位上昇(外水位上昇)した場合の、堤体内の比抵抗で水分量を可視化した結果と観察された変状を示しています。

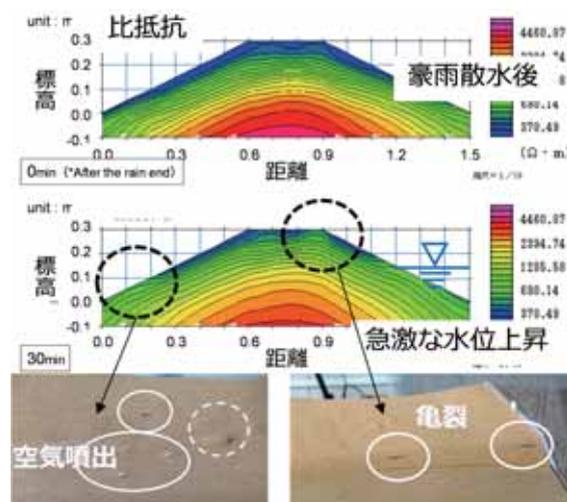


図-18 比抵抗トモグラフィによる不飽和堤防内の浸潤化過程の可視化と急速浸潤によるエアブローによる堤体の損傷

豪雨と急激な河川水位上昇によって、捉われた間隙空気圧の上昇と浮力によって、空気塊が噴出したり、天端に亀裂が生じたりすることがわかります（図-19）。

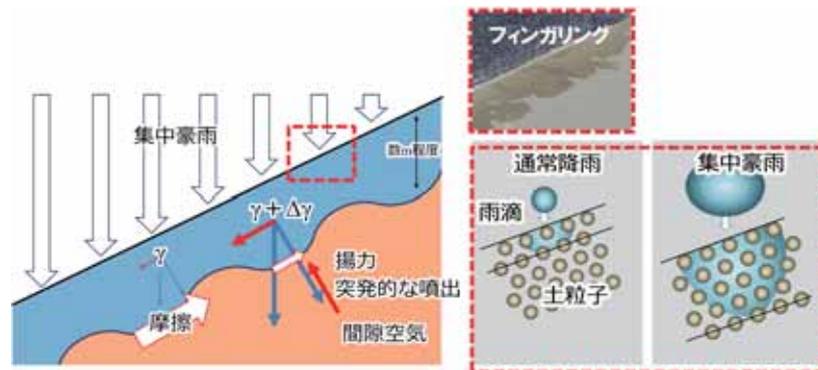


図-19 フィンガリングを考慮した豪雨時の浸潤モード発現のための理論的考察

(2) 考慮すべき損傷のシナリオ

浸透モードを的確に表現し、エアブローによる劣化モードを考慮することで、堤防の安定性の評価が可能と考えられます。まず、浸透モードが大きく変化する条件については、前述の模型実験だけでなく、実堤防モニタリングや理論的な考察によって、土質特性と外力としての水理特性から明らかにしつつあります。ここでは、雨水が手の指のような形でギザギザになって浸み込んでいくフィンガリング現象がキーとなります。急速浸潤時のエアブローによる堤体の損傷を考える必要があります（図-20）、それによってすべりの安全率算定に取り入れることが可能です。図中のシナリオ①～③に従って検討する際には、水道形成、強度低下、亀裂による雨水の浸透といった入力パラメータの変更のみであり、基本的計算方法は現行法のまま対応可能です。

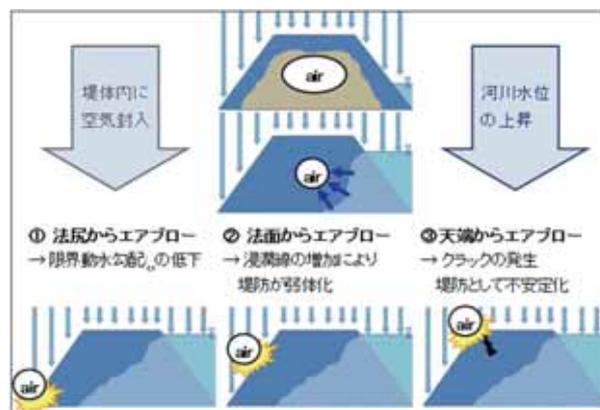


図-20 噴気（エアブロー）による堤体の損傷シナリオ

模型実験結果と提案する数値解析結果が整合するように、エアブロー効果の考慮の仕方の概略を以下に示します。

シナリオ①：法尻の強度を低下（ゼロにする）

シナリオ②：浸潤線を噴出箇所まで変更

シナリオ③：法肩にクラックを入れ強度低下

また、どのシナリオを考えるかについては、発生する空気圧、土質、浸潤線の形状で決まる。シナリオ②もしくは③が発生しやすいと考えています。ただし、上記の検討では、比較的均質な堤体を対象にしており、今後、築堤履歴など、堤体の不均質性を考慮した、間隙空気の噴気の発生および損傷条件を明確にすることが課題と考えられます。

著者らは、国土交通省中部地方整備局・庄内川河川事務所と共同で、実堤防で散水試験を行い降雨浸透挙動の可視化と豪雨の浸透挙動の把握を行うとともに、モニタリングによってドレーンの有効性についても調査を行っています（図-21）。



図-21 実堤防における散水試験の様子

4.3 洪水の長期化による高水位の継続

(1) 着目すべき課題

我々の研究グループでは、破堤した矢部川堤防断面を模擬した実験を実施してきました。用いた土試料の粒度分布を図-21に示します。

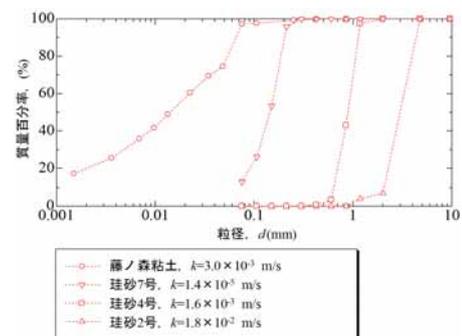


図-21 実験試料の粒度分布

実験では堤体下の基盤条件を豊浦砂で堆積させた砂質単一層基盤と、上層に珪砂7号下層に珪砂2号を堆積させた細砂-砂礫互層基盤の2つについて行いました（図-22）。平均動水勾配は0.2です。その結果、単一層基盤では堤内側から澄んだ漏水があるだけでパイピングは進行せず、堤体ですべりや陥没も生じません。一方、互層基盤では堤内側から濁った漏水が発生、堤体のすべりや法の崩落などが複合してパイピングが進行する様子が観察されました。実際の堤防においても噴砂（地震時の液状化のように漏水の作用により地盤から砂が噴くこと）が発生する箇所には細砂層と透水層の互層の存在が確認されている例があります。今後、きれいな漏水を被災とよぶかどうか、検討が必要と思います。

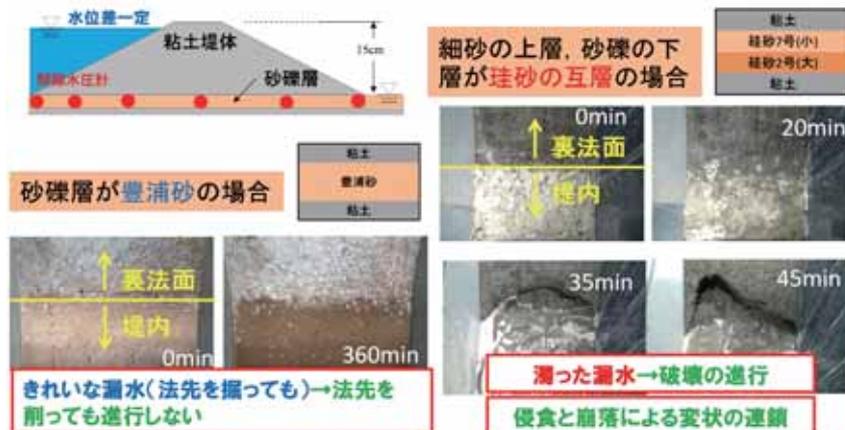
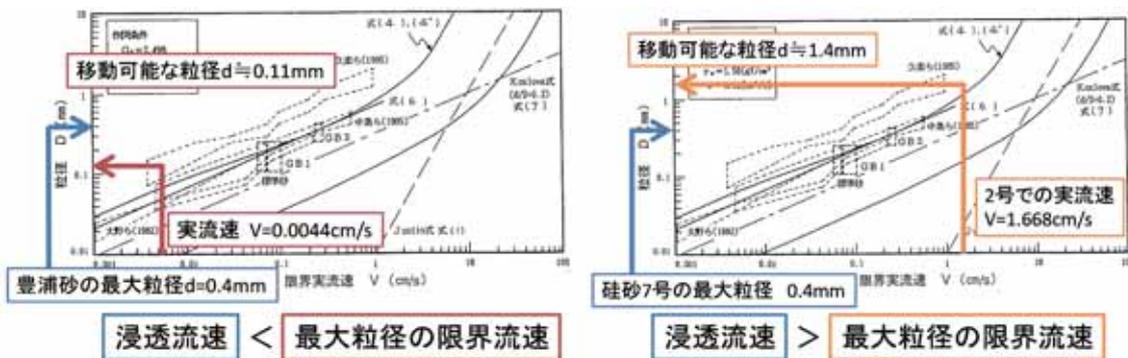


図-22 基盤の層構成の違いによる被災・非被災の違い：(a) 単層基盤（非被災）、(b) 互層基盤（パイピング）



(a) 単層基盤（非被災）

(b) 互層基盤（パイピング）

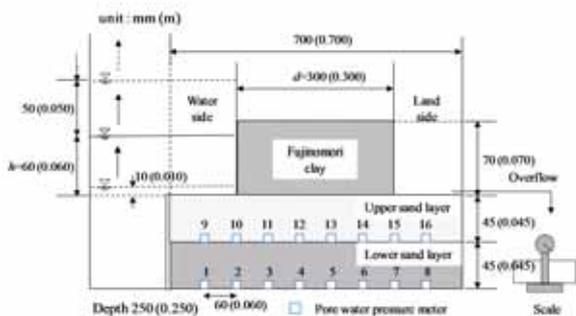
図-23 限界流速と実験で観察された流速と粒径の関係：久楽ら（1985）の図にプロット

図-23には限界流速（粒子が流される流速）に関する図に、測定された流量から算出した実流速と透水性基盤層の粒径を示しています。破壊が進行しなかった単層の場合には、透水性基盤の流速が限界流速に達していませんが、進行性破壊が見られた互層の場合では、上層の細砂の限界流速を超えていることが分かっています。破壊の進行には、平均動水勾配だけでなく、実質的な流速が重要であるといえます。

(2) 考慮すべき損傷のシナリオ

ここで、決壊に至った層の堤体の変状まで考慮すると堤体材料や形状等によって現象が複雑になると考え、次に久楽らの実験（1985年）を参考に矢板で堤体を拘束することで堤体直下の水平流れに着目した実験を行い、基盤層構造がパイピングに及ぼす影響について検討した結果を紹介します。実験装置、実験ケースを以下に示します（図-24）。

図-25にパイピング発生時（破壊時）の河川水位、最短浸透路長から求めた平均動水勾配と、漏水流量から求めた平均流速の関係図を示します。ハッチング部分はパイピングで破壊に至った条件を示しています。透水性基盤が単層の場合には、漏水量は少なく高い平均動水勾配でないと破壊には至りません。一方で、互層で透水係数に差があり高い透水



	case	基盤上層	基盤下層
単一層	case1-1, 2, 3	珪砂7号	
	case2-1	珪砂7号(0.045)	珪砂2号(0.045)
	case2-2	珪砂7号(0.045)	珪砂4号(0.045)
五層	case2-3	珪砂7号(0.045)	珪砂2号(0.045) 河相二連結
	case2-4, 5, 6	珪砂7号(0.020)	珪砂2号(0.070)
	case2-7, 8	珪砂7号(0.020)	珪砂2号(0.045)
	case2-9	珪砂7号(0.020)	珪砂4号(0.070)
	case2-10	珪砂7号(0.020)	珪砂4号(0.045)
	case2-11	珪砂7号(0.020)	珪砂2号(0.070)

()内は層厚(m), 下線は本稿で検討したケース

図-24 簡易パイピング実験装置の概要と実験ケース一覧 ([平均動水勾配] = h/d)

性を有する砂礫層がある場合には、漏水量が多く流速が大きいため低い平均動水勾配であっても破壊に至っています。

以上から、従来の照査方法は限界動水勾配による被災の発生条件によるものだけでしたが、これに限界流速を加えることで変状の発達まで考慮したより高精度な照査が可能と考えられます。さらに、噴砂を伴う三次元的流れの局所化やダルシー則とは異なるパイプ状の土砂流動について検討が必要と考えられます(図-26)。甚大化する外力について、全く破壊しないといった状態の実現は難しいとおもいます。

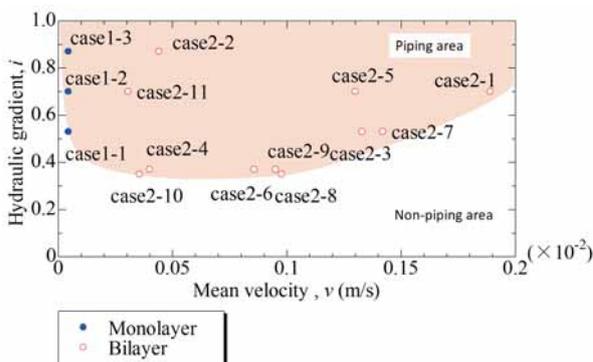


図-25 パイピング発生時の平均動水勾配 - 平均流速関係図

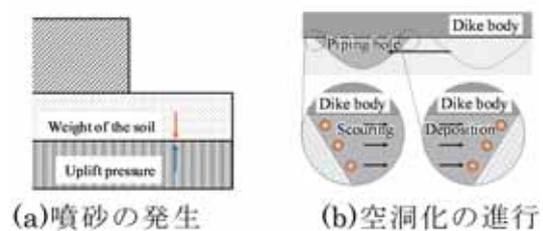


図-26 噴砂の発生及び空洞化の進行に関する概念

4.4 新たな安定性の予測にむけて

本稿では、従来の堤防の安定性予測で考慮されていなかった二つのシナリオに着目し、地盤特性と水理学的外力特性を一体に考えた安定性評価への考えを紹介しました。いずれの結果も、粒度や層構造という比較的入手しやすい情報によって損傷シナリオをある程度、検討可能であると考えています。

急速浸潤では、きれいな砂質土では降雨強度 80mm/hr 以上、粒度が広い土（透水性係数 10^3cm/s 、均等係数が 9 以上）では 30mm/hr 以上で、間隙空気が堤体を損傷させるこ

とが分かってきました。一方、パイピング破壊においては、透水性基盤が単層の場合には破壊の危険度が低いですが、互層で透水性が相対的に高い層が下層にある場合には注意を有することが分かってきました。今後、被災と非被災の両方の事例、外力履歴の影響と地盤の損傷を分析することで、より精度の高く実用的な評価手法が確立できると考えられます。

5. おわりに

5.1 ストレス・テスト

東日本大震災発生後に、原子力発電所の再稼働にはストレス・テストが必要との内閣総理大臣の発言や報道によって、ストレス・テストという言葉が広く知られることになりました。

ストレス・テストは、健全性を評価したいシステムに、「通常以上の負荷」（オーバーロードやシステムにとって不利な条件）をかけても「正常」に動作するかどうかを調べ、隠れた「欠陥」がないかを探るリスク管理方法の一つ、という捉え方が多いようです。単に耐久試験と言うよりも、考え方として一歩進んだ感があります。この負荷によってシステムが直ぐに壊れてしまっても、ねばり強いとはいえません。機械、電気、ITだけでなく、経済分野においても銀行や国家などの経営内容が安全かどうかを調べる際に用いられています。工場製品では、直接、製品を壊して試験することで、たくさんの良質なデータが蓄積され、「壊れ方」の基準が明快です。車や航空機のように考えられる事故のシナリオに対して、「全く壊れない」ではなく、むしろ被害を少なくするように「上手な壊し方」「破壊の制御」ができるように配慮されています。

では、河川堤防のようなインフラについてはどうか。巨大地震では揺れは強く長く、また、最近の気候変動による豪雨の頻発、長雨に「全く壊れない」堤防をつくることは困難です。一方で、大きな災害のたびに、過去にない負荷を与えられ、甚大な被害を受けています（テストされている）。そのたびに我々は多くのことを学んでいます。しかし、インフラは工場製品とは異なり、試しに壊してみることは簡単にはできません。また、道路、堤防などはその地域の特性、地形、地質に合わせて作るので、オーダーメイドであり同じものは少なく、どのような欠陥が潜むかを知ることは難しいため不確実性が高い状態にあります。さらに、堤防は地震の揺れは地点によって大きく異なるため、長く繋がりをもつ構造物は、弱い部分が連鎖的に広がる可能性もあります。堤防のストレス・テスト実施にはデータ不足が明らかです。

5.2 測ることの重要性

社会生活に重要なインフラだからこそ、データを蓄積するための予算確保や産業化が必要です（図－27）。災害時のデータの蓄積だけでなく、インフラの更新時に現存のものに負荷を与えたり、試験的につくって壊したりすること、壊さない範囲での負荷や、経年的な劣化についてもモニタリングなどが不可欠です。そのためにも、インフラに関わる建設産業以外の産業にも魅力的な投資であるようにしなければなりません。このように、一見、インフラには馴染まないと思われるようなストレス・テストを取って考えてみることで、インフラにおいても「全く壊れない」から、「壊れ方を制御する」という一歩踏み込んだ考え方ができるようになり、安全・安心さを高めるとともに、新たな技術開発やビジネスとしてのチャンスが広がるのではないかと考えられます。

町医者、総合医は、いつも患者と接し、患者の生活習慣、病気になったときの症状、顔色の確認、打診、触診などを繰り返すことで患者個々のデータを蓄積しているとともに、様々な患者のデータをうまく繋げているように思います。いつも、X線CTや遺伝子分析するわけではありません。堤防についても常にその状態（表面）を測量し続けることで、リアルタイムで症状の先読みやその特性（内部の状態）の予測もつくようになるのかもしれない。そのような戦略が必要かとおもいます。



図－27 医学的な堤防技術開発と測ることに基づいた情報化

公益事業への取組み



深津敦史「ロボット」

公益事業への取組み

測量甲子園と題して

測量の日関連 地図教室と測量体験

～自分で「からだ」の物差しを知ろう～



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

公益事業への取組み

・・・測量甲子園と題して・・・

測量委員会

全国の農業高校の学生たちが、日ごろ学習した測量技術を競い合う測量競技会が、毎年実施され、今年も、6月16日に平成27年度愛知県学校農業クラブ連盟 測量競技会が実施されました。愛知県での大会を勝ち抜いて全国大会へ駒を進めるべく、県下農業高校7校7チームが日頃の頑張りを発揮してくれました。

今回の投稿にあたって、そんな光景を

・・・測量甲子園・・・ と題してみました。

当日は、ときおり小雨がぱらつくあいにくの天気でしたが、競技には支障を及ぼすことなく無事終えることができました。生徒諸君の日頃の準備や関係者の思いが小雨がふるものの、競技が進められたのも皆さんの熱意が天気を呼び込んだのではと思います。

協会では、協賛金の支援及び審査員の派遣を行いました。測量委員会が中心となり、地域の会員会社から参加をいただき、審査員及び測量機器説明及び講演を総勢12名により対応しました。

協会では、各校が競技会で平板測量を実施した現地をチェック・審査し、講師派遣では、7校それぞれに現場でのトータルステーションによる点間距離及び比高を求める作業の説明と生徒による実体験も行ってもらいました。また講演では、TSについて及び、最新機器の3D観測機器の説明、RTKの実演を体験していただきました。

測量競技会県大会について

1) 概要

平成27年度愛知県学校農業クラブ連盟主催の測量競技会は、平板測量の実務を通じて、教科学習や学校農業クラブ活動を通して得た測量技術の成果を発表し、その実力を競い合い、職業的能力を高めることを目的とする。

参加校は、県下農業高校7校 7チーム

2) 場所・日時

愛知県立稲沢高校 グラウンド及び武道館にて

平成27年6月16日 火曜日 (曇天時々小雨) 9:20～15:30

3) 競技内容

平板測量による三斜法、三辺法による面積計算

- ①第一次作業…平板測器による境界線測量
- ②第二次作業…面積測定のための距離測定作業
- ③第三次作業…図面補正、図面仕上げならびに三斜法、三辺法による面積計算

4) 測量機器の説明及び実体験（愛測協による測量講話）

- ①測量実体験として、トータルステーション（TS）による観測実体験
- ②RTKの実演と実体験
- ③3D観測機器の説明と実演

平板測量により競技実施した現地において、トータルステーションにより、学生たちに実際に機器での観測、RTKの実演・体験に加え、最新機器の三次元測量機器にも触れて、熱心な質問も見受けられました。

5) 審査内容（愛測協審査員の審査内容）

観測された平板測量結果の境界、測距、作図、面積計算について審査を実施しました。審査内容は、一次作業、二次作業の現地作業状況について、作業動作・作業態度を審査チェックシートにより評価を実施しました。

6) 出場高校…7校

渥美農業高校、猿投農林高校、田口高校、新城高校、
安城農林高校、鶴城丘高校、稲沢高校
参加…「測量」を学習する各学科1チーム（選手4名構成）

競技内容報告

ここからは、測量競技会【測量甲子園と題して】の様相を紹介します。

競技開始にあたって、各校競技者の皆さんは、日ごろの学習の成果を発揮すべく、入念に準備・確認を行い、開会をむかえました。



開始前の競技者たち 何を話しているのか

1) 開会式 9:50～

参加各校の選手が、やはり少し緊張した面持ちで並ぶ中、開催校生徒が中心となって、開会式がスタート。開会宣言、幹事校及び来賓挨拶が行われました。

いよいよ始まる競技会にどんな気持ちを込めているのでしょうか。



緊張の中にも心はずでにグラウンドへ

2) 競技 10:30～13:00

4校と3校の2組に分かれ競技がスタートしました。

朝礼台の赤い旗によるスタートの合図で、一斉に各校が競技開始。各校がそれぞれのコートへと散り、競技が始まりました。皆さん測量士の顔となり、平板測量に取り組みました。

日頃の練習成果を発揮し、難しい機械設置も難なくこなしていました。ポールもご覧の通り基礎をしっかりと身に着けています。

まさしく、測量士そのものでした。



女子生徒の赤旗合図で競技開始



いよいよ競技の場へ



基礎もしっかり

生徒さんの成果を協会審査員がチェックシートを基に作業状況に加え、成果についても審査をさせていただきました。

3) 審査 13:10～15:00

各校引率顧問の先生が中心となり、測量成果（図面、



計算結果等)の審査及び協会派遣審査員が作業実施状況の審査結果を総合した審査を実施しました。審査員も驚くほど正確な現地作業を確実に行っていました。

4) 地図と測量に関する講話 13:10～14:00

審査結果までの時間を利用し、生徒へむけて、国土地理院中部地方測量部山口次長様より、地図と測量に関する講話を頂きました。教科書だけではなく、測量の最高峰の講演を前に、測量への関心がさらに深まったことと思います。

山口次長からは、さらに、「測量におけるチームワーク」の重要性についても感想を述べられました。今後の参考にさせていただければと期待しています。

5) 測量機器説明・測量実習 14:00～15:00

協会会社の専門技術者からは、会場である稲沢高校校舎を事前に三次元観測した成果を示しながら「三次元測量」についての新技術を紹介しました。

測量実習では、TSを用いての実体験を実施し、平板測量との違いを少し感じてもらえたと思います。中には初めてTSに触れる生徒も多数見受けられました。

また、新技術RTKを利用した基準点測量についてもまじかで触れて、体験をしていただきました。

はじめて見る機器に学生さんたちも熱心に説明を聞き入っていました。測量技術の進歩に触れていただき、これまで以上に測量に興味が高まれば幸いです。



実測の審査も実施



初めて見る・触れる RTK



今の現場は、平板からTSへ



協会より表彰状と盾を授与
(授与は中西測量委員長より)

6) 閉会式（表彰・総評） 13：10～15：00

結果発表

最優秀校 ⇒ 渥美農林高校

優秀校 ⇒ 稲沢高校、新城高校

優秀賞に輝いた渥美農林高校おめでとうございます。日頃の努力がこの競技会で発揮されました。全国大会でも頑張ってください。

最後に、講師を担当した協会審査員の代表が「真剣な取り組みや基礎をしっかりと練習されてきたこと。測量に必要なチームワークのすばらしさに感動しました。」と総評・感想を述べさせていただきました。

【競技会を終えて】

若い測量技術者が減少していく中、将来を担う学生の頑張る姿勢に触れ合うことができ、参加した審査員各々から、賞賛の声が多く聞かれました。真剣に取り組む選手みなさんに「明日への活力」を我々も頂き、更なる魅力ある測量業界への発展を望みます。

是非とも、全国大会でも優勝できるよう優勝校渥美農林高校に「エール」を送りたいと思います。

機会があれば、愛知県の高校が全国大会で優勝できるような支援も今後目指していきたいと感じました。

また、審査員として支援していただきました協会会員各社の技術者のご協力に誌上にて感謝申し上げます。

フレイフレー！ 渥美農業高校 目指せ全国大会優勝

最後に… 競技会の選手から、プロの測量技術者となった「川崎流聖」君も今回、審査員として後輩に触れていただきました。川崎君から後輩へのメッセージを紹介させていただきます。

「僕が出場したのは3年前ですが、昨日のこつのように思い出します。仲間たちと一緒に練習したのが今となってはとても大切な思い出です。

入社して早3年経ちますが、先輩方のご指導の下、いろいろな事を覚えている段階です。お客様からの要請に確実に対応し、信頼される技術者になることを目標としています。

競技会に出場した皆さんが将来、測量の道に進んでくれることを願っています。」

以 上

公益事業への取組み

測量の日関連 地図教室と測量体験 ～自分で「からだ」の物差しを知ろう～

測量委員会

「測量の日」関連事業として、測量の意義及び重要性に対する国民の理解と関心を一層高めること、並びに地理空間情報のさらなる利活用の推進を目的として、測量と地図に関する情報と知識を国民に普及、啓発する広範な運動を展開することとして小学校を対象に「地図教室と測量体験」毎年実施をしています。

今年度も、中部地区連絡協議会と国土地理院より、愛知県教育委員会を通して「地図教室」開催の案内を県下小学校へ募集させていただいたところ、25校の応募の中から、豊川市立御津北部小、田原市立清田小、蒲郡市立蒲郡西部小の3校を選び実施しました。

その中から、7月10日金曜日に開催された蒲郡市立蒲郡西部小学校での開催内容を紹介致します。

1. 開催日時

平成27年7月10日（金）3・4時限 10時55分～12時35分

2. 開催場所

蒲郡市立蒲郡西部小学校 体育館にて（雨天のため）

3. 参加生徒

4年生（12名）、5年生（13名）、6年生（12名） 計37名

4. 講師・協会スタッフ

国土地理院：1名、愛測協：8名

5. 概要

(1) 記念品贈呈 10:55～11:00

地図教室を始める前に贈呈（代表の生徒さんに贈呈）

(2) 地図教室（担当：国土地理院山口次長）

【時間】 11:00～11:40

【場所】 生活科ルーム

【内容】 ・地図ができるまで
・地図記号のお話 など

(3) 測量体験（担当：愛測協測量委員会）

【時間】 11:45～12:35

【場所】 体育館

【内容】 ・自分の1歩を知ろう

- ・歩いて距離を測ろう
- ・測量機器を使って正確な距離を測ろう

当日は、小雨がぱらついたことから体育館での開催になりました。これまで体育館での開催はなく初めてであったので心配しましたが、生徒さんは、高学年（4、5、6年生）の37名に参加をいただき、みなさんとても元気で、明るく、にぎやかに、楽しく進められました。

協会の担当者もてきぱきと生徒さんに交じって、体育館の中を右往左往動き回り、明るく楽しい大切な時間を共に共有できました。

体験学習は、当協会より学校周辺の航空写真（昭和の時代と現在を比べられるもの）をパネルにした記念品の贈呈をし、スタートしました。

地図教室は、国土地理院中部地方測量部の山口次長が講師を務められ、地図についての講演では、「地図ができるまで・地図記号のお話」等、基準点や地図の作成をわかりやすく、また地図記号がなぜ必要になったか等を説明されました。特に地図記号クイズでは、生徒さんの興味をひきつけ、みなさん元気に答える場面もありました。しっかりと地図について勉強できたかな。



愛測協が主体となって担当した「測量体験」は、協会会社の技術者に支援をいただき、[①自分の1歩を知ろう・歩いて距離を測ろう②測量機器を使って正確な距離を測ろう]を子供たちに体験してもらいました。体育館の中でしたが、生徒たちが自らボールを投げて、自分のボールの飛距離を歩測で測定したものと自分でトータルステーションを覗いて測定をして比べてみました。自分の体に持っている「足という“からだの中のものさし”」を実感し、その誤差も勉強できたらと願いスタートしました。



6. 実施風景

“自分の1歩を知ろう・歩いて距離を測ろう”

では、体育館に長さ10mのラインを引き、ラインに沿って歩き歩数を数えました。10mを何歩で歩いたかで、「自分の1歩の歩幅」を算出しました。続いて、「距離をはかろう」では、自分でボールを投げて飛んだ距離を歩いて歩数を数えました。自分の1歩が何センチかを計算して「足の物差し」をつくりました。



10m 何歩で・・・1歩は何cm



男子も女子もおもいきり投げて・・・何m投げられたかな

“ボールを投げて、その距離を測ろう” 体育館の中では少し大変でしたが、男子と女子とに分かれて4年生から6年生までみんなで協力して、遊びから学習につなげていきました。

ボールの落下地点からは、歩測で計測開始です。自分の落下地点から一斉に自分の足でしっかりと歩測をしました。

自分の投げた距離を自らの「足」で。何歩で歩けたかな。

つづいて、「測量機器を使って正確な距離を測ろう」では、最新の測量機器（トータルステーション）を使い、投げたボールの位置を正確に測りました。



距離の測定なんて、子供たちははじめての体験。、はじめて触れるトータルステーションを覗いたり、機器のボタンを押してもらい自動で距離を測ったりしました。恐る恐る覗く子や歓喜の声を上げる元気な子。全員の生徒さんにしっかりと観測をしていただきました。

先生方も楽しく体験してましたよ。

最後に、子供たちがとても明るく、元気で、仲よく体験したことを覚えていてくれれば幸せです。今回ご協力をいただいた小学校の先生を始め、丁寧な講師で熱弁を振るっていただいた講師の国土地理院山口次長様並びに協会各社の支援技術者の皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。

毎年、多くの小学校からの応募に今後とも応えられるよう公益事業を通して地域貢献も含めた活動に携われるように頑張ります。

以 上

会員紹介（会員のPRコーナー）

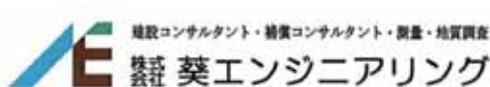
愛知県立安城特別支援学校／矢野仁務「モンガラカワハギ」



愛知県立安城特別支援学校／矢野仁務「カジキマグロ」

会員紹介【会員のPRコーナー】

— 明るい未来環境の創造に向けた地域づくりのコンサルティング —



商号	株式会社 葵エンジニアリング
所在地	〒453-0018 名古屋市中部区佐古前町22番6号
代表番号	TEL 052 (486) 2200 FAX 052 (483) 5005
設立	昭和46(1971)年8月10日
登録	○建設コンサルタント 建26第1630号(農業土木、河川、砂防及び海岸・海洋、造園、鋼構造及びコンクリート、土質及び基礎、電力土木、都市計画及び地方計画、道路) ○補償コンサルタント 補26第3676号(土地調査部門) ○一級建築士事務所(い-21)第9611号 ○地質調査 質24第298号 ○測量 第(10)-6240号
代表者	代表取締役社長 漆戸 要
社員数	78名(取締役8名、技術職員43名、営業職員21名、総務職員6名)

経営の理念と方針

株式会社 葵エンジニアリングは、「自然との調和に配慮した社会基盤づくり」と「安心して心豊かに暮らせる環境づくり」を私たちの社会的使命と考え、土木設計の誇りある技術者集団として信頼を得るため、日夜鍛錬しております。

特に、近年の自然災害やその対策の取り組みとして、耐震技術やメンテナンス技術など、安全・安心を求める社会の要請に応えることを重要課題と捉えています。

私たちは、“チームでの対応”を第一義に、急速な技術革新に対応した幅広い知識の習得、優れたアイデアを提案できる技術者集団として、設計はもちろんのこと、一歩先を見据えた地域への提案が出来るコンサルタントを目指します。

そのため、常に「お客様は何を求めているのか、私たちに何が出来るのか」を社員一人ひとりが考え、行動し、お客様の更なるご要望に応える環境づくりに取り組んでいます。

これからも私たちの思いと行動が、より豊かな社会を実現する新しい価値観の創造に貢献すると確信し、努力していく決意です。

おかげさまで45年目を迎えました

当社は、昭和46年(1971年)8月に株式会社葵エンジニアリングとして設立されました。

創業以来、愛知県、地元市町村、農林水産省、国土交通省、水資源機構、支社・営業所の各県、関係市町村、及び民間企業から幅広い信頼を得て社業を発展させてまいりました。

今年、創立45年の節目となります。これは社員が一つになり、こだわりを持ち、ひたむきに社業に取り組んできた結果であり、お客様のご理解とご支援があったのと感謝する次第です。

これからも、「顧客の要望に“誠実かつ的確”に応え、誇りとこだわりを持ったサービスを提供する」ことをモットーに努力してまいります。

事業の紹介

1. 業務と品質の確保対策

当社は、建設コンサルタント企業として、官公庁の土木技術を中心とした社会インフラの計画・調査・設計業務など、地域づくりのコンサルティングを行っています。

成果品質確保対策のため、当社独自の取り組みとして会社組織に「審査室」部門を設置し、業務担当技術者の指導・助言を行うと共に、段階的に成果物を審査するなど、受注業務の成果品質を的確に管理しています。

2. 環境活動

当社は、自主的・積極的に、環境へ配慮した事業活動を通じて、未来の環境へ貢献したいと考えています。

「理念」 地球温暖化に代表される様々な環境問題に対する取り組みを、社会の一員として果たすべく経営課題として認識します。その為に、社員一人ひとりが環境保全の重要性を理解し、環境に配慮した事業活動に組み、持続的発展が可能な社会となるよう努力します。

「方針」 ①省エネルギーや廃棄物の発生抑制など環境負荷の低減を図ります。

②市が定める分別ルールに従ってゴミを分別し、リサイクルシステムに寄与します。

③地域貢献（ボランティア）活動へ積極的に参加します。



3. 福利厚生、他

①毎年、社員旅行と社内レクリエーションを実施し、社員の親睦と健康増進を図ります。

②毎週水曜日をノー残業デーに定め、また、同日の午前中は「集中タイム」を設けるなど、仕事の集中と効率化を図っています。

③その他、会員制リゾートホテルや夏期休暇、育児休暇取得などを積極的に支援し、女性にも働きやすい職場環境に努めています。

④社員全員で創る社内報「蒼天」を年1回発行し、優秀作は表彰します。

最後に、君の心と dialogue する

私たち社員は、「働くことで地域社会への貢献は・・・」と常に考え、夢を抱くエンジニアを求め、共に邁進していきたいと考えております。

今後も会社の発展とともに、地域産業の発展に少しでも貢献できることを願って、社員一人ひとりが基本を大事にした親切・丁寧な仕事に取り組んでまいります。



打合せ風景



若手勉強会



内部審査



(株) 葵エンジニアリング 位置図



クリーン作戦



レクリエーション



社員旅行



社内報「蒼天」表彰式

会員紹介【会員のPRコーナー】

まちづくりのソリューション企業 株式会社オオバ

創業93年の老舗企業

当社は、大正11年（1922年）、東京市芝区（現在の東京都港区）において創業しました。

測量・設計業務からスタートし、今日では「まちづくりのソリューション企業」として、行政機関や民間企業などからの様々なニーズに応じています。

昭和28年（1953年）には名古屋支店、昭和37年（1962年）には大阪支店を開設し、現在は全国に11支店、22営業所を展開しており、従業員数は500名（契約社員等は含まず）余となっています。

また、昭和47年（1972年）に東証第2部に上場し、平成27年（2015年）8月25日に東証第1部に市場変更しました。



昭和30年頃まで活躍した測量機器

企業理念（経営理念プラス社是）

当社は、社会への貢献ならびに、顧客・株主・社員の期待に応えることを経営理念としています。

また、「誠」、「積極進取」、「和」の3つを社是とし、それぞれが顧客に対する姿勢、仕事に対する姿勢、社員相互における姿勢を表しています。



主な業務分野

総合建設コンサルタントである当社は、顧客のニーズに応じて、事業の入り口から出口まで、さらにアフターケアまでの一連の業務（次の①～⑤の業務分野）

を行っています。

①地理空間情報

- ・測量（地上測量、航空写真測量、地積測量等）
- ・補償調査（物件調査、補償説明、移転工法等）
- ・GIS（システム設計・開発・保守・運用支援等）



RTK・GPSによる受信

②環境

- ・環境調査・計画（環境保全・管理、立地法等）
- ・環境アセスメント（調査・予測・評価等）
- ・廃棄物処理計画（計画・設計、施工管理等）
- ・再生可能エネルギー（計画・設計・許認可等）



生態系モニタリング

③まちづくり

- ・都市計画（土地利用・交通・防災計画等）
- ・ランドスケープ（公園緑地・修景等）
- ・区画整理（区画整理設計、換地、事業運営等）
- ・民間開発（造成設計、許認可・施工管理等）



湘南国際村（神奈川県）

④設計

- ・道路・構造物設計（道路・橋梁設計、点検・診断等）
- ・河川・防災設計（砂防調査・設計等）
- ・上下水道設計（設計、調査・診断・対策等）
- ・土質・地質関連（調査・試験、解析・対策等）



浄水駅前広場
歩行者連絡通路
(豊田市)

⑤新分野

- ・事業ソリューション（土地有効活用等）
- ・土地アセットメント（不動産資産管理等）



マンションプロジェクト
(東京都渋谷区)

震災復興への貢献と業務の取組み

平成23年（2011年）3月11日、東日本大震災の発生後、当社は直ちに東北支店を中心に顧客先の被災状況の調査や復旧に向けて必要な支援活動を開始しました。

また、業務に対応するため、復興業務推進本部（後に震災復興事業本部に改組）を設置し、測量、計画、設計、関係機関調整、地元説明等の業務を行ってきました。

このうち、宮城県石巻市、女川町、山元町においては、プロジェクトマネジメント業務（PM）やコンストラクションマネジメント業務（CM）に取り組み、発注者、設計者と一体となって、プロジェクト全般を運営管理しております。

名古屋支店の紹介

名古屋支店は、平成23年（2011年）8月より、伏見駅より徒歩数分の名古屋第一ビル（みずほ銀行の上層階）に入居しています。

支店とともに、三重、岐阜、静岡、浜松に営業所を配し、愛知県をはじめとした東海4県を中心に業務を展開しています。



〒460-0003
名古屋市中区錦一丁目
19番24号
名古屋第一ビル7階
電話：052-219-0083
FAX：052-219-0093

書籍の刊行

平成27年（2015年）5月、当社は東洋経済新報社より「まちづくり学への招待」を刊行しました。

まちづくりの歴史や知識、当社が携わった具体的なまちづくりの事例を取り上げつつ、建設コンサルタントがどのような仕事を行っているかについて紹介したものです。

本書を通じてまちづくりの多様性やまちづくりにかかわる仕事の魅力を知っていただければ誠に幸いです。



会員紹介【会員のPRコーナー】

『新日は震災復興に協力します』

株式会社 新日

所在地	名古屋市中川区山王 1-8-28
設立	1969年11月6日
代表者	秋山 学
T E L	052-331-5356
U R L	http://www.shinnichi.co.jp

社名の由来

中国古典である儒教の経書の一つである「大学」に「苟日新。日々新又日新」という有名な一節があります。これは、「マコトニヒニアラタナリ。ヒビニアラタニシテマタヒニアラタナリ。」と読めます。即ち、同じ日は二度と来ない、従って「今日この日は今までになかった新しい日である」という言葉です。当社ではこれを「日に日に向上進歩する」と解釈しています。

当社は総合建設コンサルティング企業として、継続的な努力こそ進歩向上のために不可欠なものであるという信念に基づき、社名を「株式会社新日」と定め、その経営理念を「奉仕に徹し、一步、一步、また一步」としております。

おかげさまで45年

当社は1969年11月に設立し、測量業を発端に不動産鑑定業、補償コンサルタント業、一級建築士事務所、建設コンサルタント業、土壤汚染指定調査機関と業務の幅を広げ、現在では社会資本整備事業などの公共事業において調査、計画、設計、監理等を主な業務対象とする総合建設コンサルタンツとして地域社会に貢献してきました。また、業務エリアは日本の中心的位置にある名古屋を本拠地に、全国を守備範囲としています。創業以来、国土交通省、財務省、愛知県、岐阜県、三重県、各市町村及び民間企業からの信用と実績を頂き2014年11月6日に創立45周年を迎えることができました。今後も50年、60年…100年を迎えることができるように、不断の研鑽を続けて参ります。

復興事業

東日本大震災で被害を受けた地域の要請を受け、名古屋本社から2人の社員を派遣したのが始まりでした。被災地の深刻な状況を目の当たりにした社員たちに芽生えたのが「復興に貢献したい」という使命感です。各地で復興事業に携わった後、2013年4月に岩手県釜石市に東北支店を開設しました。各部門より社員が選抜され、一丸となって「災害に強いまちづくり」を目指して現在も復興整備事業に携わっています。

当社が被災地の復興に必要とされた理由は、総合建設コンサルタンツとしてまちづくりの経験を活かした面的整備における実績の豊富さにあります。面的整備は、事業の進捗において各業務の課題をクリアする必要があります。そこで測量、設計、監理をはじめ、補償調査、公共用地の取得に関する業務などに当社の強みが多面的に活かされています。

被災地での事業は、測量、設計の技術力、ノウハウだけでは遂行できません。社員が地域に根ざし、「地域の皆さんが安心して暮らせるまちづくりに貢献し、被災された方の気持ちに応えたい。」という真摯な想いをもって復興の実現に取り組んでいます。

技術紹介

総合建設コンサルタンツとして、測量、土木設計、補償調査、建築設計、不動産鑑定等の各部門があり、さらに関連グループ会社として新日土地家屋調査士法人、新日行政書士法人があり、これらは測量士、技術士、補償業務管理士、建築士、土地家屋調査士、不動産鑑定士、行政書士等の多様な有資格専門家で組織しています。



ドローンを用いた現地調査



中間貯蔵施設整備事業に伴う土地建物調査業務

測量部門は、国土地理院を始め、国土交通省、地方公共団体等からの基準点測量、地形測量、応用測量、水準測量、GPS測量、地籍調査等の業務を行っています。

土木設計部門は、土木設計（道路・公園・上下水道・河川）、都市再生、区画整理、環境関連において技術士6人、RCCM延べ24人の体制で業務を行っています。

補償調査部門では、土地調査、土地評価、物件、機械工作物、営業補償・特殊補償、事業損失、補償関連、総合補償の全8部門に登録があり、全部門合計延べ106人の補償業務管理士が公共用地取得に関するあらゆる業務に対応できる体制を整えています。

建築設計部門では7人の一級建築士が在籍し、大小様々な公共施設の建築設計、監理及び耐震診断を中心に行い、また、土木設計部門との協調・連携によりまちづくり事業にも参画しています。

不動産鑑定部門では4人の不動産鑑定士が一般の不動産鑑定評価はもちろん、公的評価、特殊権利の評価も行います。また、新日土地家屋調査士法人においては、不動産登記業務を行うなど、社会基盤整備に関わる一連の業務をどのような切口からでも行うことができます。

今後の我社

我が国は世界屈指の自然災害大国であることは間違いありません。日本列島の国土面積は世界から見れば僅かですが数多くの大小様々な災害が発生しています。過去を振り返れば先の東日本大震災、阪神淡路大震災の大地震をはじめ平成26年8月の広島土砂災害、更には御嶽山の噴火などがありました。毎年、台風の影響により各地で水害や土砂災害が発生している状況です。今後もこのような突発的自然災害を避けることはできません。それ故、災害対策・国土の強靱化が必須であることはいうまでもありません。

しかし、現在も東日本大震災の被災地の多くの復興はまだ道半ばです。福島県の復興については原発の被害もあり多くの問題が山積しており、遅々として進んでおらず我々建設コンサルタントとしてやるべきことは多くあります。

当社は、名古屋本社を中心として各地の社会基盤整備に貢献し、また、東北支店を核として釜石市の復興を見届けるべく復興事業の完成に邁進していきます。加えて復興の立遅れている福島県の被災地においても貢献ができればと考えています。

その一方では、東京オリンピックの開催、リニア中央新幹線の事業化などの明るい話題もあり、政府による国土の総合的かつ体系的な利用などの社会資本の整備、交通政策の推進をもって魅力的な国づくりが目指されています。

事業主体である各機関の要請に応じて当社は、建設コンサルタントとして社会、国民の暮らしの向上に少しでも貢献するべく「奉仕に徹し、一步、一步、また一步」の経営理念を念頭に企業活動を行っていく覚悟です。

会員紹介【会員のPRコーナー】



サステナブルな社会を考える

太栄コンサルタンツ株式会社

所在地 :名古屋市中区千代田三丁目26番18号
TEL : (052)332-3355
FAX : (052)321-3275
URL : <http://www.daiei-con.com/>
E-mail : kikaku@daiei-con.co.jp
設立 :昭和43年
代表者 :川口英朗



自然・環境との
都市機能の

調和+再生

「人と自然が調和できる社会環境」を実現させるのが、建設コンサルタントの使命です。当社は、「迅速な対応・細やかな心づかい」をモットーに、公共事業のプランニングパートナーとして、サステナブル社会の実現のため様々な社会資本整備に取り組んでおります。

経営理念

新技術の創造と提案で、安全 安心な社会づくり

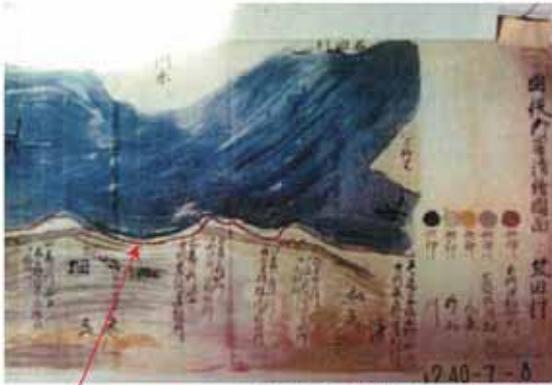
社会環境、自然条件が大きく変動する現代において、時代のニーズを積極的に取り込み、「技術提案型企業」として努力致しております。



【業務エリア】

災害の世紀への対応

過去・現在から未来へ



破壊ヶ所

江戸時代の河川災害復旧図等の技術分析



洪水ハザードマップ解析・作成



橋梁耐震調査

環境の時代

生態系の修復と保全の提案



特定外来魚駆除ボランティア活動



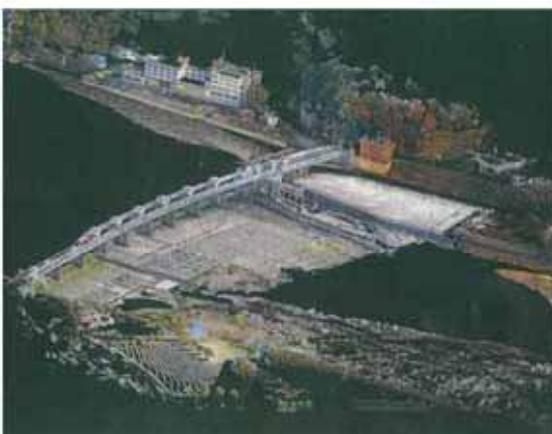
多自然河川設計



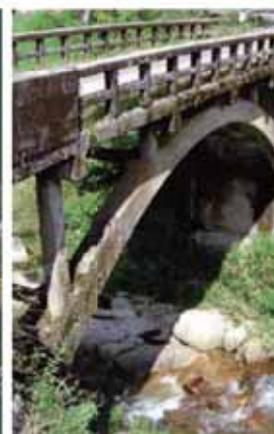
ビオトープの調査・設計

次世代技術と技術の伝承

土木技術を未来へ届ける



3Dレーザースキャナー計測データによる構造物全景作成の事例(大山頭首工)



大正期施工のアーチ橋保全提案



明治期岐阜市内のデレーケ指導による砂防ダムボランティア調査

会員紹介【会員のPRコーナー】



所在地 : 名古屋市中区錦一丁目8番6号
TEL : 052-232-6032
FAX : 052-221-7827
URL : <http://www.nakanihon.co.jp>
E-mail : webmaster@nakanihon.co.jp
設立 : 昭和39年11月
代表者 : 上田 直和



本社ビル（名古屋）

“経営理念”

わたくしたちは いきいきとした環境の創造を通して
自らの実りある生活を追求するとともに
社会の持続的発展に貢献し続けます

私たちは、昭和39年（1964）の創業以来半世紀にわたり、生活基盤を中心とした社会資本の整備に携わってきました。その間、わが国は高度成長期を経て世界有数の豊かな国となり、社会資本も飛躍的に充実しました。

しかし今、温暖化等の地球環境異変、不安定な国際・国内経済、少子高齢化に代表される社会構造の変化等により、新たな激動の時代を迎えています。社会、環境の変化に合わせて、社会資本にとっての最適な仕組みは刻々と変化していきます。

この最適な仕組みを考える私たちのビジョンは、「これから50年・100年先の人々の暮らしをイメージした国土デザイン」です。

そして、利便性に加え安全で快適な社会をつくること、自然や風土と調和しすべての人々に心地よい環境を創出すること、社会の持続的な発展に貢献できる仕組みづくりを確立すること。

これらが、私たち中日本建設コンサルタントのミッションなのです。



鳴海駅付近高架



尾張東部浄水場



中部国際空港連絡鉄道橋



大曽根駅前雨水調整池

業務案内

～生活者視点の5つのキーワードで、国土の“今”と“未来”を支えます～

社会、環境の変化に合わせて、社会資本の最適な仕組みをつくる。求められる生活の質を提供するために、技術を高める。地図の上に引いた一本の線が、道となり、生活、経済、文化をつなぐ。自然を生活に取り込み、持続的な共生を実現するために構想する。過去の災害に学び、安心して暮らせる強靱な国土をつくる。

私たちは、生活者目線に立った5つのキーワード、【先進】【生活】【交流】【調和】【安心】で技術を追求し、国土の未来をデザインしています。

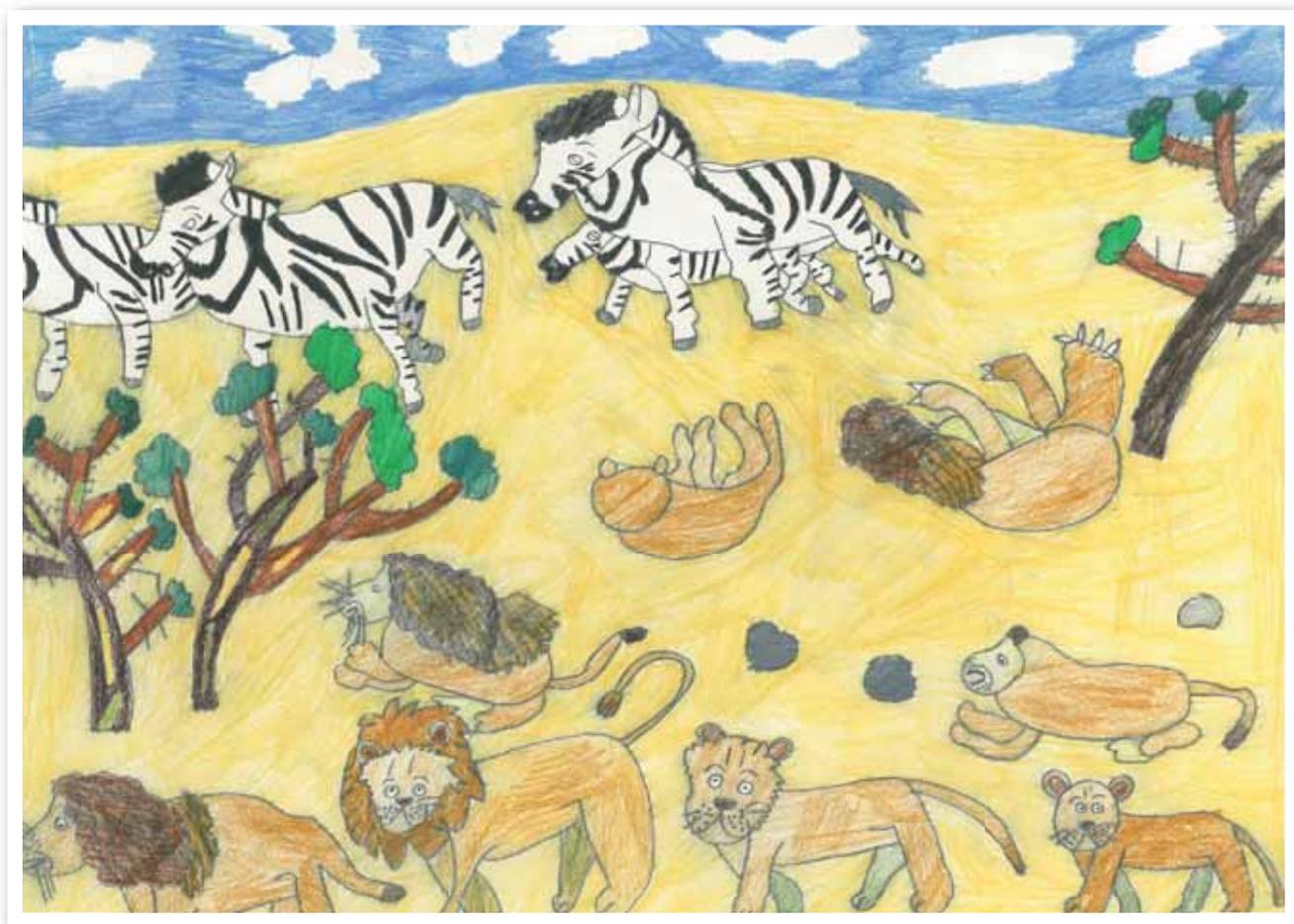
新たな50年に向かって

弊社は、従前より「人・街・自然・いきいき」を社のモットーとし、社の方針である「高品質、技術力、競争力、社員満足度」の向上を目指し、社を運営してきました。また、長年にわたり人を大事にし、協調の精神を尊重する社風を有しています。今後、新たな局面に向かい、これらのモットー、方針、社風を堅持し責務を果たすとともに、さらなる50年に向かって歩んでゆく所存であります。



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

活動報告



愛知県立半田特別支援学校／野澤将矢「サファリ」

活動報告

総務委員会

広報委員会

測量委員会

建設コンサルタンツ委員会

協会活動報告（平成 26 年度～平成 27 年度上半期）



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

活動報告

総務委員会

委員長 久松 顕
副委員長 寺島 新吾
副委員長 梶川 洋

総務委員会は、主に会員皆様の資質向上と受注の増大を目的とした活動を担当しています。主な事業について以下に報告します。

県建設部との定例勉強会

日 時：平成 26 年 8 月 29 日

場 所：桜華会館

出席者：県建設部建設企画課長 風岡嘉光様始め 17 名

協会側 二村会長始め 17 名

愛知県建設部本庁及び各建設事務所の代表をお迎えし、以下 A～F のテーマをもとに県行政の方針、測量設計業者への要望等をお聞きした。また、協会側からは協会員の活用の推進のほか、委託業務遂行上の疑問点や改善点などについて、幅広く意見交換を行いました。

- A 協会員の受注機会の拡大について
- B インフラ老朽化を踏まえた今後の見通しについて
- C 防災・減災への対応について
- D 成績評定の活用について
- E 入札・契約等について
- F 業務の設計変更・業務内容等に関する対応について

コンプライアンス講習会

日 時：平成 26 年 11 月 27 日

場 所：メルパルク名古屋

協会員のコンプライアンスを確実にすべく、例年通りコンプライアンス講習会を開催した。参加者は 44 社 83 名(全体 208 名)であった。昨年に引き続き、(一社)愛知県測量設計業協会、(一社)建設コンサルタント協会中部支部、(一社)全国上下水道コンサルタント協会中部支部、中部地質調査業協会、(一社)日本補償コンサルタント協会中部支部の 5 団体共催により行われた。

①「消費税法の転嫁拒否等の行為について」

講師 公正取引委員会事務総局 中部事務所
消費税転嫁対策調査室 主査 野田 聡 様

②「入札談合と独占禁止法」

講師 公正取引委員会事務総局 中部事務所
経済取引指導官 齋藤 誠誉 様

③「社内ハラスメントについて」

講師 社会保険労務士法人 人事パートナーズ
代表社員 池田 隆充 様

営業研修会

日 時：平成 27 年 2 月 20 日

場 所：長島温泉 ガーデンホテル オリーブ

営業スタッフの研修を目的に本年度も開催した。本年度は趣向を変え、外部講師による営業マンの表情に関する講演も開催した。実際にフェイスストレッチしながらの講義は和気あいあいとした時間となった。

①「仕事もプライベートも笑顔から ～1日5分で10歳若返る秘訣～」

講師 フェイスストレッチングインストラクター
山田 敏子 先生

②「コンプライアンス遵守に向けて」

講師 測量副委員長 榊原 雅彦

③「平成 26 年度 受注経営状況の報告」

講師 総務副委員長 梶川 洋

参加者 41 社 63 名



県建設部との定例勉強会

日 時：平成 27 年 9 月 2 日

場 所：桜華会館

出席者：県建設部建設企画課長 鎌田裕司様始め 20 名、協会側 二村会長始め 17 名

今回で 18 回を数える定例勉強会を開催した。愛知県建設部本庁及び各建設事務所の代表をお迎えし、以下 A～E のテーマをもとに例年通り県行政の方針、測量設計業者への要望等をお聞きした。また、協会側からは協会員の活用の推進のほか、業界の魅力発信や人材確保の問題、委託業務遂行上の疑問点や改善点などについて、幅広く意見交換を行った。

- A インフラ老朽化に伴う社会資本の戦略的な維持管理・更新について
- B 発注時期・年間発注量の平準化について
- C 切迫する巨大地震、激甚化する気象災害などのリスク低減について
- D 委託業務成績評定結果の活用について
- E 業務の設計変更・業務内容等に関する対応について



おわりに

協会も 40 周年を迎えました。総務委員は総勢 11 名で活動しています。活動は例年と変わりませんが、内容については時代につれてその時々に応じたものとなっています。

今後も会員の皆さまに有益な事業を計画、提供してまいりたいと思っておりますので、皆さまの温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

活動報告

広報委員会

委員長 石田 徹
副委員長 浅井 俊治
副委員長 須藤 一彦
副委員長 早川 正喜

広報委員会は、広く県民の皆様に測量・設計業に対する認識を深めていただくための広報活動や災害緊急時における技術協力への対応など、公益性の高い事業を担当しております。

各発注機関への要望活動

当協会の更なる活用と受注機会の拡大を図るため、毎年5～6月に全会員が参加して国、県、市町村の各発注機関に対して要望活動を実施しております。

今年も5月15日に班長会議を実施し、全会員が25班に分かれて6月1日～6月5日の期間で要望書や会員名簿、技術機関誌「テクノアイ」を配布して要望活動を行いました。

広報誌「方位」の発刊

当協会の存在と測量設計業の社会的意義が広く一般の皆様にも周知されるよう毎年秋に広報誌「方位」を発刊しています。

今年度は、「第32回全国都市緑化あいちフェア」の開催を記念しまして、フェアのご案内とともに愛知県内の主な公園を紹介する特集や、産官学の取り組みとして「大災害発生時における対応」について記事を掲載いたしました。

この広報誌「方位」は、各発注機関のみならず公立図書館や技術系学校にも配布し、業界のアピールに努めております。

災害等緊急時における協力体制整備と災害連絡模擬訓練の実施

当協会では、昭和51年8月に災害協力体制を確立して以来、長年にわたり災害発生時に地域社会へ貢献すべく歩を進めてまいりました。

平成14年度には名古屋市との災害協定を締結し、平成15年度には当協会の上部組織にあたる全測連中部地区協議会と国土交通省中部地方整備局が災害協定を締結、平成23年3月には全測連中部地区協議会を構成する愛知・岐阜・静岡の三県測協間で「災害時における中部地区県測協の応援に関する協定」を結び、被害が広範囲に及ぶ大規模災害を想定した業者間の連携強化にも努めてまいりました。

そして、三県測協間の災害応援協定を締結した直後の平成23年3月25日、愛知県とも災害協力に関する協定を締結し、愛知県建設部が管理する公共土木施設が被災した場合などにおいて、県当局から当協会の会員に対して、緊急的な応急対策の支援を目的とした出動要請を行い、当協会は必要に応じて会員各社に関する情報を県当局に提供することが定められました。

このような各関係機関との協定にもとづいて、災害発生時に迅速かつ的確な対応を実現するため、当協会では災害対策本部と愛知県内9地区から成る災害協力体制を構築しております。

また、災害連絡模擬訓練を毎年実施することで、会員各社の被災状況や出動可能な技術者数等の情報収集を迅速に行い、各発注機関からの情報提供の要請に備えるとともに災害発生時の会員相互支援体制の確立に努めております。

BCP（事業継続計画）への取り組み

災害発生時に各関係機関と連携して復旧・復興支援を行うためには、会員各社が常日頃から防災への意識を高めるとともに、「緊急時における事業継続」に備える必要があると考え、昨年7月にBCPワーキンググループを発足しました。

ワーキンググループの活動目的は「会員各社のBCP策定支援」と「協会BCPの策定」ですが、今年度は以下の取り組みを行っております。

地区別会員説明会

昨年度にワーキンググループで作成した「会員向けBCPガイドブック」を使って、会員各社のBCP策定を支援するための説明会を県内8地区で開催しました。（平成27年5月～6月）

協会BCPの策定（平成27年9月～3月）

2つ目の目的であります「協会BCPの策定」に9月から着手しました。協会BCPの策定を進める過程で、災害支援体制の見直しや会員相互の支援体制の確立を目指します。



建通新聞（9月3日掲載記事）

以上、広報委員会の活動についてご紹介をさせていただきました。

広報委員会は正副会長指導の下、15名の委員で活動していますが、BCPのワーキンググループでは委員以外の会員6社の方々にも参加いただいております。

また、要望活動や広報誌「方位」の配布、災害協力体制、災害連絡模擬訓練につきましても会員各社のご協力のおかげで実施することができます。

この誌面をお借りして、皆様に御礼申し上げますとともに、今後とも広報委員会の活動に対してご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

活動報告

測量委員会

委員長 中西喜久雄
副委員長 森 正樹
副委員長 古澤 邦彦

測量委員会は、測量技術の向上と改善のため関係機関と調整を図り、各種研修会への講師派遣や将来の測量技術者育成のための活動を行っております。

1. 測量技術研修会

県及び市町職員の測量知識の研鑽と実務体験を目的に、講師の若返りも図りつつ県内4ヶ所の建設事務所に講師を派遣し研修会を実施しました。

【カリキュラム】

「測量概論、最新の測量技術」の講義

「TS 測量」の講義及び実習

【開催概要】

平成 26 年 10 月 14 日 尾張建設事務所 参加者 28 名

平成 26 年 10 月 21 日 知立建設事務所 参加者 32 名

平成 26 年 10 月 28 日 東三河建設事務所 参加者 31 名

平成 26 年 11 月 12 日 知多建設事務所 参加者 17 名

4 事務所計 108 名

アンケート結果

「測量概論、最新の測量技術」の講義



「TS 測量」の講義及び実習



2. 用地測量研修会

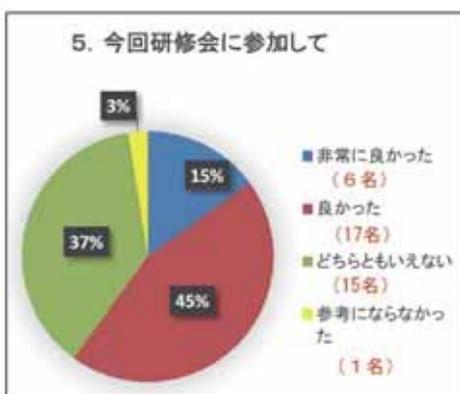
県及び市町職員の用地測量知識の研鑽を目的に、今年度より新たな講師を派遣し研修会を実施しました。

【カリキュラム】

「用地測量業務から登記業務に至るまでの諸課題」の講義

【開催概要】

平成 26 年 10 月 31 日 知立建設事務所 参加者 45 名



3. 特殊車両通行許可申請審査業務研修会

前年度に引き続き県、市町、道路公社職員を対象に研修会が実施され、愛知県建設部道路維持課より依頼を受け協会より講師を派遣しました。

【カリキュラム】

特殊車両通行許可制度の概要について（県職員担当）

特殊車両通行許可申請審査事務について（協会担当）

特殊車両通行許可申請審査演習（協会担当）

道路情報便覧の収録について（協会担当）



【開催概要】

尾張地区：平成 27 年 4 月 14 日 愛知県自治研修所 参加者 74 名

三河地区：平成 27 年 4 月 16 日 西三河総合庁舎 参加者 43 名

合計 117 名

4. 愛知県学校農業クラブ連盟測量競技会支援

連盟からの要請により協会会員企業から 11 名の参加を集い、小雨がぱらつく中、競技会の審査員や最新測量機器の実体験など、平成 27 年度測量競技会を支援しました。

【開催日、場所】

平成 27 年 6 月 16 日 愛知県立稲沢高校

*協議会の結果等活動の詳細については「公益事業の紹介」ページをご覧ください。

5. 小学校での地図教室

「測量の日」関連事業として、愛知県内3校の小学校を対象に、国土地理院中部地方測量部と合同で「地図教室と測量体験」をしました。

【開催日、場所】

平成27年6月30日 豊川市立御津北部小学校

平成27年7月10日 蒲郡市立蒲郡西部小学校

平成27年9月15日 田原市立清田小学校

*開催の様子など活動の詳細については「公益事業の紹介」ページをご覧ください。

上記活動以外にも、測量無料相談への対応、愛知県研修会への講師派遣、地理空間情報産学官中部地区連携協議会への参加などの活動を行っています。

各活動の実施にあたっては、多数の会員企業の皆様にご協力いただきましたこと感謝申し上げます。

活動報告

建設コンサルタンツ委員会

委員長 廣瀬 博
副委員長 溝口 清孝
副委員長 岩田 敏彦

「建設コンサルタンツ委員会」は、14名の全スタッフで委員会協議を重ねてきました。細分化された活動は小委員会でおお、一層詳細に協議をして、次の「三つのA・I 活動」を確実に実施してきました。

その活動名と内容実績を報告します。（A：愛知県の I：インフラ整備）

「アソシエーションA・I」… 愛知県の社会資本整備を考える集団の現場研修会

「各建設事務所」と「各土木研究会」と「愛測協」の三者で、会員の設計担当した現場を、現地で研修をして、その後屋内にて技術的な意見交換をする。

【実績その1】 一宮建設事務所：平成24年11月22日（木）13：30～16：00

研修工事：自転車歩行者道設置工事（建通新聞12/3掲載）

参加者：一宮建設事務所 調整監はじめ16名

一宮土木研究会 会長はじめ15名

愛測協会員 青木副会長はじめ32名 計63名

※当協会技術広報誌「テクノアイ」発刊2013VOL.11にて掲載

【実績その2】 海部建設事務所：平成26年11月20日（木）14：00～16：30

研修工事：（夜寒橋）歩道設置工事（建通新聞12/1掲載）

参加者：海部建設事務所 所長はじめ15名

津島土木研究会 会長はじめ50名

愛測協会員 青木副会長はじめ29名 計94名

※当協会技術広報誌「テクノアイ」発刊2015VOL.13にて掲載

【実績その3】 知多建設事務所：平成27年11月以降の開催予定

研修工事：協議検討中

参加者予定：知多建設事務所 担当者ほか多数

半田土木研究会 担当会員ほか多数

愛測協会員 担当会員ほか多数 参加予定

「シビルエンジニアA・I」… コミュニケーションによる向上を目指す意見交換会

発注者、受注者各々の立場の違いをふまえた日常業務での意見、感想、希望等を自由に話し合い、事業の円滑化とともに品質確保をも図る。

【実績その1】 知立建設事務所：平成 25 年 8 月 1 日（木） 会議室 13：30～16：00

参加者：知立建設事務所 所長はじめ 10 名

愛測協会員 青木副会長はじめ 22 名 計 32 名

※当協会技術広報誌「テクノアイ」 発刊 2014 V O L .12 にて掲載

【実績その2】 豊田加茂建設事務所：平成 26 年 10 月 7 日（火） 13：30～16：00

参加者：豊田加茂建設事務所 所長はじめ 8 名

愛測協会員 青木副会長はじめ 22 名 計 30 名

※当協会技術広報誌「テクノアイ」 発刊 2015 V O L . 13 にて掲載

【実績その3】 新城設楽建設事務所：平成 27 年 8 月 4 日（火） 13：30～16：00

参加者：新城設楽建設事務所 所長はじめ 11 名

愛測協会員 青木副会長はじめ 20 名 計 31 名

※当協会技術広報誌「テクノアイ」 発刊予定 2016 V O L .14 掲載予定



「産・官・学A・I」… 3.11 から南海トラフ巨大地震へ

～体験を学び、そして地域を守る～

現在、この地域での喫緊の課題である「南海トラフ巨大地震」に対する「防災・減災」をテーマとして産官学による勉強会を開催する。

「防災・減災技術の習得」・「災害査定の研究」・「災害協定の具現化」・「協会BCP・会員BCP」の取り組みを積極的に行う。

【実績その1】「大災害発生時における対応についての勉強会」開催

日時：平成25年7月12日（金） 13：30～17：00

場所：KKRホテル名古屋

第一部「東日本大震災の復興支援業務（岩手県）を振り返って」 50分

愛知県建設部建設企画課 主査 松浦 元彦 様

第二部「東日本大震災における業界の対応について」 110分

（一社）宮城県測量設計業協会

技術者育成委員会 委員長 佐藤 泰法 様

第三部「当協会及び建設コン委員会から提案したいこと」 20分

（一社）愛知県測量設計業協会 理事

建設コンサルタンツ委員会 副委員長 岩田 敏彦

参加者：愛知県建設部建設企画課はじめ55名、名古屋市土木事務所はじめ6名、

（一社）愛知県土木研究会事務局はじめ5名、愛測協78名 計144名

※愛測協広報誌「方位」にて特集、発刊2013-10第36号にて掲載

※建通新聞 平成25年8月30日発刊 6面掲載

【実績その2】「災害に強い町づくり -地盤の液状化から我が家を守る-」と題して
勉強会開催

日時：平成25年10月15日（火） 講演開始 15：00

場所：通信会館

講師：名工大 高度防災工学センター長 張 鋒 教授

内容：地盤と構造物に関する知見、液状化現象とその対策

参加者：県建設部及び各建設事務所32名、県土木研究会2名、

愛測協会員 二村会長はじめ59名 計93名

※当協会技術広報誌「テクノアイ」発刊2014VOL.12にて掲載

【実績その3】「大災害発生時における対応について」の第2回勉強会開催

日時：平成27年6月4日（木） 13：30～17：00

場所：KKRホテル名古屋

第一部「第3次あいち地震対策アクションプラン」取組みについて 50分

講師 県建設部建設企画課 課長補佐 柚谷 正樹 様

第二部「河川堤防はなぜ壊れて、どう守るのか～水害と地震～」 115分

講師：名工大 高度防災工学センター 教授 前田 健一 様

第三部「当協会における建設コンサルタンツ委員会の取組み」 10分

講師：(一社) 愛測協 建設コンサルタンツ副委員長 岩田 敏彦

「当協会におけるBCPへの取組み」 10分

講師：(一社) 愛測協 広報副委員長 早川 正喜

参加者：県建設部 建設企画課及び各建設事務所 35名

愛測協会員 78名 県土木研究会 1名 名工大学生 5名

計 119名

※愛測協広報誌「方位」にて特集 今号第38号にて掲載中

以上

協会活動報告（平成26年度～平成27年度上半期）

平成26年度（26年4月～27年3月）

I. 事業活動の概要

1. 公益事業の推進

①行政機関等への情報提供事業

i) 測量技術講習会の開催

愛知県の建設事務所等からの依頼に応じて、測量概論や最新測量技術について、県職員と事務所管内の市町などの技術職員や用地担当職員を対象とした理論講義と実習による測量技術講習会を実施した。

ii) 用地事務講習会への講師派遣

愛知県の建設事務所と、事務所管内市町の用地担当職員を主な対象として開催される測量と登記に関する用地事務講習会に講師を派遣した。

iii) 機関誌を活用した活字媒体による情報提供

4月、測量と設計業務についての技術機関誌「テクノアイ12号」を編纂し、関係機関等へ配布した。

12月には「愛測協創立40周年」を記念した機関誌「方位」37号を発刊し、発注機関や関係団体などに配布した。

②災害等緊急時における行政機関等との連携事業

i) 行政機関との連携活動

近年頻発する豪雨災害や今後予想される地震を始めとする大規模災害に備えて、県の各建設事務所毎に緊急協力体制を整備をした。

愛知県知事との「災害時における愛知県建設部が管理する公共土木施設の緊急的な応急対策等の支援に関する協定」や、名古屋市との災害協定、全測連中部地区協議会と中部地方整備局との緊急支援に関する協定などに対応するため26年度も災害等緊急時における模擬訓練を8月に実施した。

ii) 産学官における連携の強化

地理空間情報の効果的な活用推進のため、国土地理院主催の「地理空間情報産学官中部地区連携協議会」、測量法施行を記念する「測量の日・中部地区連絡協議会」に参画した。

③地域社会への情報提供事業

i) 測量設計無料相談事業

測量設計無料相談所を開設、県民からの相談に応じた。平成24年度からは相談窓口を事務局に一本化し、常時受付けている。

ii) 測量の日記念行事を通じた啓蒙・啓発活動

「測量の日」記念事業への積極的な取組みとして、平成26年度は、愛西市立八輪小学校、豊川市立天王小学校、豊田市立石畳小学校の3校で4年生から6年生を対象に地図教室や測量体験実習を実施し、記念品として各校周辺地の航空写真パネルを贈呈した。

また、6月には猿投農林高校で開催された愛知県学校農業クラブ連盟（県下農業高校測量科7校加盟）主催の測量競技会県大会を後援、協賛した。当協会は、審査員等8名を派遣し、7チームが参加した測量競技の審判・採点のほか、参加生徒へ最新測量機器の取扱い説明や実習指導を行うなど競技大会をバックアップ、今年度も優秀校に対し協会長表彰を行った。

2. 会員支援事業の推進

①会員向け研修会・見学会等の斡旋、開催

「営業」、「全員」、「技術」等の各種研修会を開催し、あるいは他団体主催の研修会、講習会の斡旋により、会員の資質の向上に努めた。

11月には独占禁止法等の法令遵守の徹底を促すため、（一社）建設コンサルタント協会中部支部ほか関係団体と共催し、コンプライアンス講習会を開催した。

また、県との定例勉強会など発注機関との意見交換の機会を通じて、相互理解に努めるとともに、公共事業に対する協会の考えや課題・要望を強く訴えた。

②測量設計業界の広報・啓蒙活動

当協会の存在と業務の社会的意義が広く一般にも周知されるよう、12月に発刊した機関誌「方位」37号を、発注機関のみならず県下公立図書館や技術系学校などへも広く配布し、業界のアピールに努めた。

また、ホームページは適宜更新し、当協会と測量設計業の広報・啓蒙に努めた。

③会員親睦事業

総会、全員研修会、営業研修会終了後の懇親会や、賀詞交歓会を開催することにより親睦の機会を設け、会員間における一体感の醸成に努めた。

④その他

会員の経営体質の強化を図るため受注状況の収集・分析を行い、各種研修会の場などで会員に提供した。

また、平素から国土交通省や愛知県の入札制度など会員に必要な情報の収集に努め、会員へ機会ある毎に情報の提供に努め、緊急度の高い情報については、直ちに会員に伝達した。

3. その他

①公益目的支出計画の実施及び報告

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第45条の規定に基づく愛知県知事の認可を受け、平成25年4月に一般社団法人へ移行したところであるが、平成25年度に係る同法第127条第3項の規定に基づく「公益目的支出計画実施報告書等」を6月30日付けで知事に提出した。

②協会創立40周年記念行事の実施

昭和49年の発足以来満40年を迎え、記念の式典、講演会、祝賀会を開催した。

日 時 平成26年11月11日

場 所 名古屋通信会館

式 典 自由民主党測量設計議員連盟所属の県選出国會議員始め、国土交通省中部地方整備局長、国土地理院中部地方測量部長、愛知県知事、全測連会長始め多数の方々を来賓にお迎えして、物故者追悼、会長挨拶の後、来賓代表と倉知顧問団長から祝辞を頂戴した。

続いて多年にわたる業界への貢献に対し、国土交通省土地・建設産業局長より愛測協へ感謝状が授与された。

同じく業界や協会活動への貢献に対し廣瀬博氏（株大建コンサルタント）に愛知県知事と全測連会長よりそれぞれ表彰状が授与された。

また、16年間にわたり顧問としてご尽力いただいた倉知俊彦愛知県議會議員に会長より感謝状が贈られた。

併せて、会長より長期会員8社と長期役員24名、永年勤続事務局員2名に表彰状が授与された。

講演会 式典終了後、一般社団法人国土技術研究センター・国土政策研究所長の石久和氏を講師にお迎えし、「国土と日本人」…活力ある地域を後世に残すために…をテーマに講演会を開催した。

③関連諸団体との提携の強化

(一社)全国測量設計業協会連合会、同中部地区協議会、(公社)日本測量協会中部支部、(一社)日本補償コンサルタント協会中部支部、(一社)愛知県土木研究会など測量設計業や建設業に関わる関連団体と平素の連絡を密にし、提携強化に努めた。

④その他

全測連と連携し、適正な歩掛と技術者日額人件費の積算についての調査・検討と提案会員へ各種実態調査を行い、作業歩掛、日額人件費の現状の把握に努め、問題点の改善に向けて関係機関に働きかけた。

また、官民境界確定の推進や、業界の健全な発展のための施策拡大について全測連とともに測量設計議員連盟(公共物境界確定推進議員連盟を改組)に参加の自民党国会議員に働きかけた。

II. 主な会議開催状況(総会、理事会、委員会)

1) 第41回定時総会

日 時	平成26年 5月21日
場 所	名古屋通信会館
議 題	第1号議案 平成25年度事業報告について 第2号議案 平成25年度収支決算の承認について (公益目的支出計画実施報告) 第3号議案 平成26年度事業計画について 第4号議案 平成26年度収支予算について
議 事	久松総務委員長の司会により、二村会長の挨拶、榊原理事を議長に選出し、第1号議案から第4号議案まで審議が行われ、各議案とも満場一致で原案通り承認された。

総会閉会后、記念講演会が開催された。

テーマ	昨今の建設行政について
講 師	愛知県建設部建設企画課長 風岡 嘉光 様



2) 理事会

第1回 平成26年4月23日

- ①25年度収支決算について
- ②26年度定時総会について
- ③測量の日記念講演会について
- ④会費の徴収について
- ⑤方位（40周年記念号）について
- ⑥災害緊急時の連絡体制について

第2回 平成26年5月21日（名古屋通信会館）

- ①26年度定時総会について
- ②イブニングサロンについて
- ③会費の徴収について

第3回 平成26年7月10日

- ①方位（40周年記念号）について
- ②会費の徴収について
- ③測量の日記念講演会実施結果について
- ④定例勉強会のテーマについて

第4回 平成26年8月29日

- ①県との定例勉強会について
- ②40周年記念行事について

第5回 平成26年10月1日

- ①全員研修会について
- ②40周年記念行事について

第6回 平成26年12月19日

- ①営業研修会について
- ②BCP策定について
- ③賀詞交歓会について
- ④40周年記念行事の費用について

第7回 平成27年2月17日

- ①全測連、同中部地区協議会の活動について
- ②第42回定時総会について
- ③BCP策定について

第8回 平成27年3月24日

- ①「測量の日」中部地区連絡協議会について
- ②全測連、同中部地区協議会の活動について
- ③27年度事業計画及び収支予算について
- ④事務局長の任免について

3) 委員会

i) 総務委員会

第1回 平成26年4月14日

- ①25年度の事業実施状況について
- ②総会について
- ③40周年記念行事について
- ④測量の日記念行事について
- ⑤受注実績状況について

第2回 平成26年6月27日

- ①県との定例勉強会について
- ②コンプライアンス講習会について

- ③40周年記念式典について
- ④会費の徴収について
- ⑤受注実績状況について

第3回 平成26年9月24日

- ①全員研修会について
- ②コンプライアンス講習会について
- ③40周年記念式典について
- ④受注実績状況について

第4回 平成27年3月19日

- ①次年度計画について
- ②収支予算について
- ③受注実績状況について

ii) 広報委員会

第1回 平成26年6月10日

- ①方位（40周年記念号）の編集、スケジュールについて

第2回 平成26年11月25日

- ①方位編集について

第3回 平成27年3月25日

- ①26年度委員会報告
- ②来年度の委員会体制について

iii) 測量委員会

第1回 平成26年6月6日

- ①25年度の事業実施結果について
- ②26年度の活動計画について
- ③25年度第2回地理空間情報産学官中部地区連携協議会について

第2回 平成27年3月12日

- ①26年度の事業実施結果について
- ②27年度の活動計画について

iv) 建設コンサルタンツ委員会

第1回 平成26年6月5日

- ①26年度の事業実施について
- ②アソシエーションA・I等3事業について
- ③設計成果品の品質確保等に関する説明会について

第2回 平成26年7月2日

- ①シビルエンジニアリングA・I等3事業について

第3回 平成26年9月9日

- ①シビルエンジニアリングA・I等3事業について
- ②イブニングサロンについて

第4回 平成26年11月19日

- ①アソシエーションA・I海部について

第5回 平成27年1月20日

- ①テクノアイ編集について
- ②産学官A・Iについて

第6回 平成27年3月19日

- ①テクノアイ編集について
- ②27年度の活動計画について

Ⅲ. 主な事業活動状況

1) 監事による会計監査

平成26年4月28日、平成25年度の会計及び業務並びに公益目的支出計画実施状況について、藤本、長谷川両監事により監査が実施された。

2) 発注機関等への挨拶

平成26年4月11日、正副会長が中部地方整備局、国土地理院中部地方測量部、愛知県建設部、協会顧問へ新年度の挨拶を行った。

3) 公益目的支出の報告

平成26年6月30日、愛知県知事へ平成25年度「公益目的支出計画実施報告書等」を提出し受理された。

4) 要望活動の実施

i) 平成26年5月16日、正副会長が愛知県平井建設部長はじめ幹部へ『協会の更なる活用と受注機会の拡大』を要望した。

5月中旬から下旬にかけて、全会員が25班に分かれ県内の全発注機関に対し、同旨の要望活動を実施した。併せて、テクノアイ12号を配布した。

ii) 平成26年6月24日、正副会長と総務委員長が、愛知県建設部長、次長、両技監、建設企画課長、用地課長へ、倉知顧問団長はじめ全顧問の同席を得て、『協会の更なる活用と受注機会の拡大』を要望した。

iii) 平成26年7月16日、17日に正副会長と総務委員長が県内全建設事務所長を訪問し、同旨の要望活動を実施した。

iv) 平成26年9月5日、自由民主党愛知県支部連合会主催の「政策懇談会」に会長、今村副会長（政治連盟会長）が出席し、国に対しては①他の業種に比べて低く抑えられている測量設計業に携わる技術者単価を引き上げること、②同24年8月31日に閣議決定された社会資本整備重点計画を着実に推進するため政策資源を重点的に投入すること、県に対しては①官公需法に基づく「平成26年度中小企業者に関する国等の契約の方針」における契約目標比率56.7%の確実な実施と、「調査測量設計単独の目標額比率」を設けること、②国交省の「設計成果の品質確保の取組の方向性」の確実な定着とこれに関わる歩掛を見込むこと、③愛知県が国土強靱化地域モデル自治体に選定されたことも踏まえて、有事に備える意味でも地元業者の育成を図ることなどを強く要望した。

5) 測量競技会の後援

平成26年6月11日、猿投農林高校で開催された愛知県学校農業クラブ連盟（県下農業高校測量科7校加盟）主催の測量競技会県大会を協賛した。

当協会は、審査員等8名を派遣し、7チームが参加した測量競技の審判採点の他、

参加生徒へ最新測量機器の取扱い説明や実習指導を行い、競技大会をバックアップした。又、今年度も、優秀校に対し、当協会の会長表彰を行った。



6) 「測量の日」記念講演会の開催

愛測協が「測量の日」記念行事の当番となり講演会を開催した。

名称「測量の日」記念講演会（平成26年度「測量の日」中部地区記念行事）

開催日 平成26年6月3日

場 所 名古屋通信会館

講演者

「迫り来る大規模自然災害に測量で備える」

名古屋大学 減災連携研究センター教授 鷺谷 威氏

「災害から身を守るための気象情報」

元 NHK 名古屋放送局気象キャスター

気象予報士・防災士 堀江 万喜氏

参加者 国及び自治体・地方公社職員、測量設計業者等 150名



7) 災害緊急時協力体制のPR活動の実施

平成26年6月中・下旬に、全建設事務所を各地区の正副幹事会社が訪問し、愛知県知事との災害協力に関する協定に基づく当協会の体制についてPRを行った。

8) 県の施策に関する説明会の開催

月 日 平成26年 6月24日

場 所 桜華会館・竹の間

第1部 「設計成果品の品質確保について」

講 師 愛知県建設部建設企画課 主査 安藤 晃一様

第2部 「公共事業における景観の啓発シートについて」

講 師 愛知県建設部公園緑地課 課長補佐 志賀 雅樹様

同 主任 片野 裕介様

参加者 63名

9) 地図教室（測量の日記念行事）の実施

国土地理院中部地方測量部と合同により、小学校児童に地図教室として測量の体験学習を行った。中部地方測量部は、出前授業で「地図が出来るまで」を講演、その後、協会会員による「測量体験学習」を実施した。

今年度も、開催希望小学校が37校と多く、その中で平成26年6月24日に八輪小学校（愛西市）、7月11日に天王小学校（豊川市）、9月16日に石畳小学校（豊田市）の3校で併せて123名を対象に開催した。



10) 災害等緊急時における連絡模擬訓練

①平成26年8月21日、名古屋市との災害協定に基づき、一般社団法人名古屋市測量設計業協会と合同で、天白公園で実施された名古屋市緑政土木局主催の現地訓練に参加した。

②平成26年8月29日、愛知県との災害協定に基づき、災害等緊急時における連絡訓練を実施した。

未明に県内広域で大規模地震が発生したとの想定の下、会長を本部長とする災害対策本部を設置し、情報伝達、出動可能な技術者数の把握などの訓練を実施した。

11) シビルエンジニア A・I の開催

月 日 平成26年10月7日
場 所 愛知県豊田加茂建設事務所
参加者 31名

昨年度初めての試みとして、知立建設事務所職員の方々と会員各社のリーダー的技術者との意見交換会を開催した。第2回目として今年度は豊田加茂建設事務所において、道路2、河川1の3グループに分かれて、発注者、受注者でそれぞれの立場で、日頃感じていることや疑問点の議論を通じて、今後の公共事業の円滑な進行と品質の向上を目指して率直な意見交換を行った。

12) 愛知県建設部との定例勉強会

月 日 平成26年8月29日
場 所 名古屋市 桜華会館
出席者 愛知県建設部 建設企画課長 風岡嘉光 様始め 17名
協会 二村会長始め 17名

愛知県建設部本庁及び各建設事務所の代表をお迎えし、以下 A～F のテーマをもとに県行政の方針、測量設計業者への要望等をお聞きした。また、協会側からは協会員の受注機会の拡大要望はじめ、委託業務遂行上の疑問点や改善点などについて幅広く意見交換を行った。

- A 協会員の受注機会の拡大について
- B インフラ老朽化を踏まえた今後の見通しについて
- C 防災・減災への対応について
- D 成績評定の活用について
- E 入札・契約等について
- F 業務の設計変更・業務内容等に関する対応について



13) 測量研修会等に講師を派遣

愛知県建設部等からの依頼に応じて、測量や用地実務等についての研修会に講師を派遣した。受講者は、県職員及び事務所管内の市町などの担当職員が中心であった。

【特殊車両通行許可申請審査業務研修会】

道路維持課の依頼により、特車審査事務を担当する県、市町村職員、道路公社職員に対して許可制度の概要や審査実務について講義を行った。

①第1回講師派遣（尾張地区）

月 日 平成26年4月15日
場 所 愛知県三の丸庁舎大会議室
参加者 82名

②第2回講師派遣（三河地区）

月 日 平成26年4月17日
場 所 愛知県西三河総合庁舎大会議室
参加者 58名

【建設技術研修会】

建設企画課の依頼により、建設部幹部職員を対象とした「測量設計業務委託監督基礎講座」に測量概論と最新の測量技術について講義を行った。

月 日 平成26年6月26日
場 所 愛知県東大手庁舎409会議室
参加者 82名

【地籍整備推進講習会】

国土交通省と愛知県（地域振興部土地水資源課）が、行政機関や測量業務関係者を対象として主催した用地測量の成果を地籍整備につなげるための講習会を後援するとともに、「地図作製における基準点の取扱い」について講義を行った。

①第1回講師派遣（名古屋会場）

月 日 平成26年9月17日
場 所 愛知県産業労働センター・ウイंकあいち
参加者 230名

②第2回講師派遣（岡崎会場）

月 日 平成26年9月30日
場 所 岡崎市シビックセンター
参加者 130名

【測量技術講習会】

①第1回講師派遣

月 日 平成26年10月14日
場 所 尾張建設事務所
参加者 28名

②第2回講師派遣

月 日 平成26年10月21日
場 所 知立建設事務所
参加者 32名

③第3回講師派遣

月 日 平成26年10月28日
場 所 東三河建設事務所
参加者 31名

④第4回講師派遣

月 日 平成26年11月12日
場 所 知多建設事務所
参加者 17名

【用地事務講習会】

①第1回講師派遣

月 日 平成26年10月31日
場 所 知立建設事務所
参加者 45名

14) イブニングサロンへの参加

異業種や異世代間がフランクな話し合いにより相互理解を深め、建設分野の魅力発信と若手人材の育成を目的として、昨年度に愛知県が中心となって設立した「イブニングサロン」に参画した。

今年度は、5月27日に愛知工業大学、7月17日に名古屋市立工芸高等学校、11月17日には名古屋工業大学の建設系専攻の学生・生徒を対象として開催され、コンサルタント業務の具体的な内容などについて学生・生徒と行政機関、産業界の若手技術者が活発な意見交換を行った。当協会からは会員企業の若手社員が毎回参加し、学生や行政・他団体の技術者などとの交流を深めた。

15) 全員研修会の開催

月 日 平成26年10月8日
場 所 名古屋通信会館
テーマ 平成26年度上半期の協会活動と昨今の情勢について
講演会 「最近のリニア中央新幹線に関する話題について」
講 師
愛知県地域振興部 リニア・交通対策監 河野 修平 様
参加者 54社65名

16) アソシエーションA・Iの開催

月 日 平成26年11月20日
場 所 愛知県海部建設事務所
参加者 95名（内、協会30名）

公共事業の円滑な進行と品質の向上を目指して、発注者である愛知県海部建設事務所、施工者である海部土木研究会との合同で、会員が設計業務を担当した蟹江町地内県道の歩道設置工事について現場研修と意見交換を行った。平成24年度に一回目として一宮建設事務所において開催し、今回は2回目の開催となったが、測量設計段階と実際の施工時における相違点などについて、三者が率直な意見交換を行った。

17) コンプライアンス講習会（独占禁止法順守講習会）の開催

月 日 平成26年11月27日
場 所 メルパルク名古屋
テーマ 「消費税法の転嫁拒否等の行為について」
講 師 公正取引委員会事務総局 中部事務所
消費税転嫁対策調査室 主査 野田 聡 様
「入札談合と独占禁止法」

講 師 公正取引委員会事務総局 中部事務所
経済取引指導官 齋藤 誠誉 様

「社内ハラスメントについて」

講 師 社会保険労務士法人 人事パートナーズ
代表社員 池田 隆充 様

参加者 44社83名（全体208名）

独占禁止法等の法令順守の徹底を促す為、（一社）建設コンサルタント協会中部支部、（一社）全国上下水道コンサルタント協会中部支部、中部地質調査業協会、（一社）日本補償コンサルタント協会中部支部及び当協会の5協会共同により、独占禁止法順守に関する講習会を開催した。

18) 「テクノアイ」、「方位」の発刊、配布

4月、平成25年度に行ったシビルエンジニア A・I（意見交換会）の概要と、用地事務講習会、測量技術講習会を取りまとめた「テクノアイ」（12号）を発刊（1,200部）し、発注機関等を中心に配布した。

12月には、愛測協創立40周年を記念した機関誌「方位」37号を発刊（2,500部）し、同月上旬に全会員が26班に分かれて、国、県、市町村など発注機関への配布活動を行った。なお、「方位」は、広く一般の縦覧に供するため公立図書館や技術系学校にも配布し、測量設計業と当協会のPRに努めた。

19) 賀詞交換会

月 日 平成27年1月15日

場 所 名古屋通信会館

県建設部長始め幹部の方々や顧問の先生方をお迎えして、会員150余名が参加し盛大に新年を祝い、交流を深めた。

20) 営業研修会

月 日 平成27年2月20日

場 所 長島温泉 ホテル花水木、ガーデンホテルオリーブ

テーマ 第一部

「仕事もプライベートも笑顔から」

講 師

フェイスストレッチングインストラクター 山田 敏子様

第二部

①「コンプライアンス遵守に向けて」

講 師 測量委副委員長 榊原 雅彦

②「平成26年度受注経営状況の報告」

講 師 総務委副委員長 梶川 洋

参加者 41社63名

21) 関係団体との連携

①平成26年5月13日 静岡県測量設計業協会創立40周年記念式典に出席

②平成26年5月28日 愛知県土地家屋調査士会総会に出席

③平成26年6月6日 愛知県土木施工管理技士会総会に出席

④平成26年8月6日 愛知県名古屋市道路利用者会議総会に出席

平成27年度（27年4月～27年9月）

I. 主な会議開催状況（総会、理事会、委員会）

1) 第42回定時総会

日 時 平成27年5月21日

場 所 名古屋通信会館

議 題 第1号議案 平成26年度事業報告について

第2号議案 平成26年度収支決算の承認について

(公益目的支出計画実施報告)

第3号議案 平成27年度事業計画について

第4号議案 平成27年度収支予算について

第5号議案 役員改選について

議 事 久松総務委員長の司会により、二村会長の挨拶、早川理事を議長に選出し、第1号議案から第5号議案まで審議が行われ、各議案とも満場一致で原案通り承認された。

総会閉会后、記念講演会が開催された。

テーマ 昨今の建設行政について

講 師 愛知県建設部建設企画課長 鎌田 裕司 様



2) 理事会

第1回 平成27年4月22日

- ①26年度収支決算について
- ②27年度定時総会について
- ③BCP説明会について
- ④特殊車両通行許可申請審査業務研修について
- ⑤災害緊急時の連絡体制について

第2回 平成27年5月21日（名古屋通信会館）

- ①27年度定時総会について
- ②全員研修会及び経営者研修会について
- ③アソシエーションAI及びシビルエンジニアAIについて

第3回 平成27年7月22日

- ①定例勉強会のテーマについて
- ②機関誌「方位」の編集について
- ③測量競技会及び地図教室について
- ④産官学AI勉強会について

第4回 平成27年9月2日（桜華会館）

- ①県との定例勉強会について等

3) 委員会

i) 総務委員会

第1回 平成27年6月25日

- ①定例勉強会について
- ②コンプライアンス講習会について

ii) 広報委員会

第1回 平成27年6月19日

- ①方位の編集、スケジュールについて

第2回 平成27年7月2日

- ①要望活動実施報告について
- ②BCPワーキンググループについて
- ③災害協力体制及びPR活動について

iii) 測量委員会

第1回 平成27年6月1日

- ①測量競技会について

iv) 建設コンサルタンツ委員会

第1回 平成27年6月16日

- ①産官学AI勉強会の結果について
- ②アソシエーションAI及びシビルエンジニアAIについて

第2回 平成27年7月10日

- ①シビルエンジニアAI及び産官学AIについて

第3回 平成27年8月20日

- ①シビルエンジニアAI等3事業について

Ⅱ. 主な事業活動状況

1) 監事による会計監査

平成27年4月28日、平成26年度の会計及び業務並びに公益目的支出計画実施状況について、藤本、長谷川両監事により監査が実施された。

2) 発注機関等への挨拶

平成27年4月14日、正副会長が中部地方整備局、国土地理院中部地方測量部、愛知県建設部、名古屋市緑政土木局へ新年度の挨拶を行った。

3) 公益目的支出の報告

平成27年6月29日、愛知県知事へ平成26年度「公益目的支出計画実施報告書等」を提出し受理された。

4) 要望活動の実施

①平成27年5月28日、正副会長が愛知縣市川建設部長はじめ幹部へ『協会の更なる活用と受注機会の拡大』を要望した。

引き続き6月初旬に、全会員が25班に分かれ県内の全発注機関に対し、同旨の要望活動を実施した。併せて、テクノアイ13号を配布した。

②平成27年6月29日、正副会長と総務委員長が、愛知県建設部長、次長、両技監、建設企画課長、用地課長へ、久保田顧問団長はじめ全顧問の同席を得て、『協会の更なる活用と受注機会の拡大』を要望した。

③平成27年7月7日、15日に正副会長と総務委員長が県内全建設事務所長を訪問し、同旨の要望活動を実施した。

5) 大災害発生時における対応についての勉強会の開催

月 日 平成27年6月4日

場 所 KKRホテル名古屋

テーマ 「第3次あいち地震対策アクションプランの取組について」

講師 愛知県建設部建設企画課 課長補佐 杉谷 正樹 様

「河川堤防はなぜ壊れて、どう守るのか ～水害と地震～」

講師 名古屋工業大学 教授 前田 健一 様

「当協会における建設コンサルタント委員会の取組み」

講師 (一社)愛測協 建コン委 岩田 敏彦

「当協会におけるBCPへの取組み」

講師 (一社) 愛測協

広報委 早川 正喜

参加者 120名

産官学A・I事業として、平成25年7月12日の第1回勉強会に引き続き、“3・11 東日本大震災”を教訓とした勉強会を開催した。



6) 測量競技会の後援

平成27年6月16日、稲沢高等学校で開催された愛知県学校農業クラブ連盟（県内農業高校測量科7校加盟）主催の測量競技会県大会を協賛した。

当協会は、審査員等12名を派遣し、7チームが参加した測量競技の審判採点の他、参加生徒へ最新測量機器の取扱い説明や実習指導を行い、競技大会をバックアップした。また、今年度も、優秀校に対し当協会の会長表彰を行った。

7) 災害緊急時協力体制のPR活動の実施

平成27年7月中旬に、全建設事務所を各地区の正副幹事会社が訪問し、愛知県知事との災害協力に関する協定に基づく当協会の体制についてPRを行った。

8) 地図教室（測量の日記念行事）の実施

国土地理院中部地方測量部と合同により、小学校児童に地図教室として測量の体験学習を行った。中部地方測量部は、出前授業で「地図が出来るまで」を講演、その後、協会会員による「測量体験学習」を実施した。

今年度も開催希望小学校が多く、その中で平成27年6月30日に御津北部小学校（豊川市）、7月10日に蒲郡西部小学校（蒲郡市）、9月15日に清田小学校（田原市）の3校で併せて89名を対象に開催した。



9) シビルエンジニア A・I の開催

月 日 平成27年 8月 4日
場 所 愛知県新城建設事務所
参加者 32名

平成25年度からの取り組みとして、建設事務所職員の方々と会員各社のリーダー的技術者との意見交換会を開催した。第3回目として今年度は新城建設事務所において、道路2、河川1の3グループに分かれて、発注者、受注者でそれぞれの立場で、日頃感じていることや疑問点の議論を通じて、今後の公共事業の円滑な進行と品質の向上を目指して率直な意見交換を行った。

10) 災害等緊急時における連絡模擬訓練

①平成27年8月28日、名古屋市との災害協定に基づき、一般社団法人名古屋市測量設計業協会と合同で実施された、名古屋市緑政土木局主催の現地訓練に参加した。

②平成27年9月2日、愛知県との災害協定に基づき、災害等緊急時における連絡訓練を実施した。

未明に県内広域で大規模地震が発生したとの想定の下、会長を本部長とする災害対策本部を設置し、情報伝達、出動可能な技術者数の把握などの訓練を実施した。



11) 愛知県建設部との定例勉強会

月 日 平成27年 9月 2日
場 所 名古屋市 桜華会館
出席者 愛知県建設部 建設企画課長 鎌田裕司 様始め 20名
協会 二村会長始め 17名

愛知県建設部本庁及び各建設事務所の代表をお迎えし、以下 A～E のテーマをもとに県行政の方針、測量設計業者への要望等をお聞きした。また、協会側か

らは協会の受注機会の拡大要望はじめ、委託業務遂行上の疑問点や改善点などについて幅広く意見交換を行った。

- A インフラ老朽化に伴う社会資本の戦略的な維持管理・更新について
- B 発注時期・年間発注量の平準化について
- C 切迫する巨大地震、激甚化する気象災害などのリスク低減について
- D 委託業務成績評定結果の活用について
- E 業務の設計変更・業務内容等に関する対応について



12) 測量研修会等に講師を派遣

愛知県建設部等からの依頼に応じて、測量や用地実務等についての研修会に講師を派遣した。受講者は、県職員及び事務所管内の市町などの担当職員が中心であった。

【特殊車両通行許可申請審査業務研修会】

県道路維持課の依頼により、特車審査事務を担当する県、市町村職員、道路公社職員に対して許可制度の概要や審査実務について講義を行った。

①第1回講師派遣（尾張地区）

月 日 平成27年4月14日
場 所 愛知県自治研修所 大教室
参加者 74名

②第2回講師派遣（三河地区）

月 日 平成27年4月16日
場 所 愛知県西三河総合庁舎 大会議室
参加者 43名

【建設技術研修会】

県建設企画課の依頼により、建設部幹部職員を対象とした「測量設計業務委託監督基礎講座」に測量概論と最新の測量技術について講義を行った。

月 日 平成27年 6月24日
場 所 愛知県東大手庁舎 大会議室
参加者 58名

13) 関係団体との連携

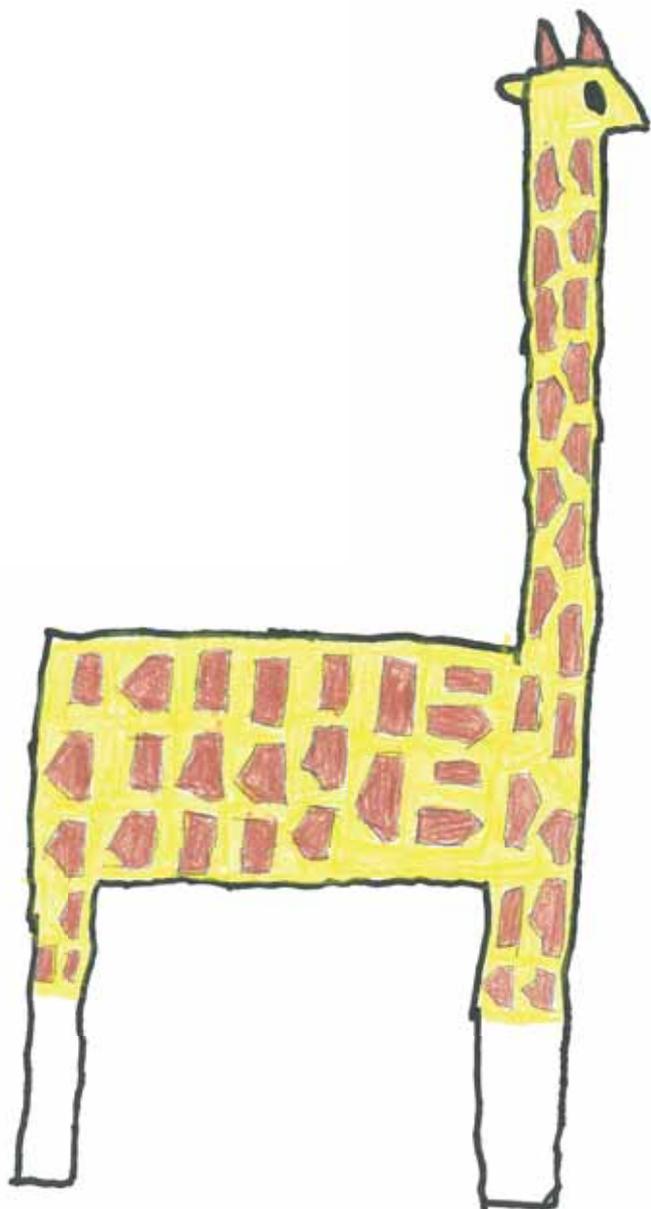
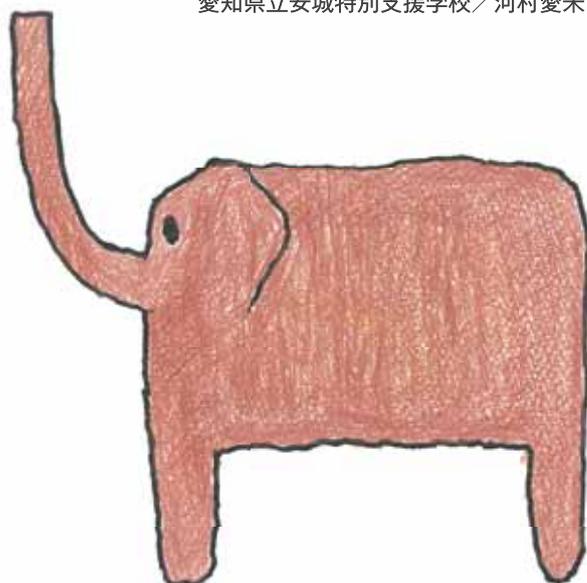
- ①平成27年 5月29日 愛知県土地家屋調査士会総会に出席
- ②平成27年 6月 4日 愛知県土木施工管理技士会総会に出席
- ③平成27年 8月 4日 愛知県名古屋市道路利用者会議総会に出席



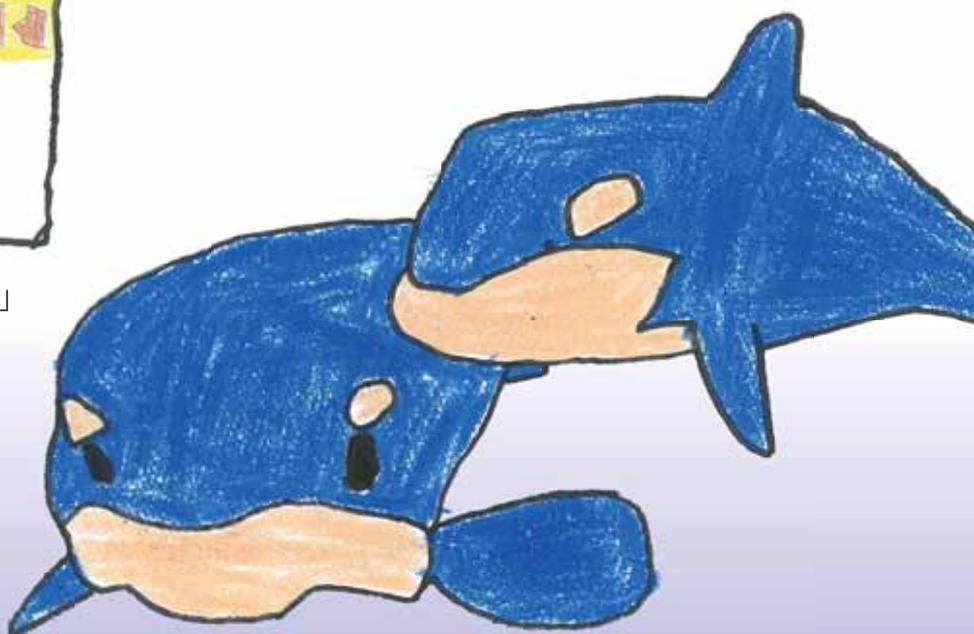
愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

紹介

愛知県立安城特別支援学校 / 河村愛未「ぞう」



愛知県立安城特別支援学校 / 河村愛未「キリン」



愛知県立安城特別支援学校 / 吉田基浩「シャチ兄弟」

紹介

協会顧問のご紹介

役員名簿

委員会名簿

会員名簿



愛測協は障がいがありながらも自立を目指す
才能あるアーティストを応援します。

紹介

◎ 協会顧問のご紹介 ◎ (敬称省略)

名誉顧問



倉知 俊彦・(くらち としひこ)

前愛知県議会議員 平成10年11月 顧問就任

- 略歴 昭和6年生
- 昭和25年3月 愛知県立豊田西高等学校卒業
 - 昭和46年4月 愛知県議会議員当選
 - 昭和57年4月 自由民主党 愛知県議団幹事長
 - 昭和62年5月 愛知県議会議長
 - 平成2年7月 自由民主党 愛知県支部連合会幹事長
 - 平成9年5月 愛知県議会 首都機能移転・地方分権調査特別委員会委員長
 - 平成13年5月 愛知県議会 国際博覧会特別委員会委員長
 - 平成15年12月 自由民主党 愛知県支部連合会会長
 - 平成18年5月 愛知県議会 地方分権・道州制調査特別委員会委員長
 - 平成25年1月 自由民主党 愛知県支部連合会会長代理
 - 平成25年5月 愛知県議会 議員定数等調査特別委員会委員長
 - 平成27年4月 愛知県議会議員を勇退

顧問団長



久保田 浩文・(くぼた ひろふみ)

愛知県議会議員 (稲沢市選出、当選6回) 平成23年5月 顧問就任

- 略歴 昭和28年生
- 昭和50年3月 日本大学経済学部卒業
 - 平成7年4月 愛知県議会議員当選
 - 平成13年5月 愛知県議会 企画環境委員会委員長
 - 平成19年5月 愛知県議会 議会運営委員会委員長
 - 平成20年5月 愛知県 監査委員
 - 平成21年10月 自由民主党 愛知県支部連合会組織委員長
 - 平成22年5月 自由民主党 愛知県支部連合会副会長
 - 平成25年5月 愛知県議会 議長
 - 平成26年6月 自由民主党 愛知県支部連合会幹事長
 - 平成27年5月 愛知県議会 中京大都市圏形成調査委員会委員長

顧問



鈴木 孝昌・(すずき たかまさ)

愛知県議会議員 (豊橋市選出、当選5回) 平成23年5月 顧問就任

- 略歴 昭和19年生
- 昭和45年3月 日本大学工学部卒業
 - 平成11年4月 愛知県議会議員当選
 - 平成16年5月 愛知県議会 健康福祉委員会委員長
 - 平成19年5月 自由民主党 愛知県支部連合会政調会副会長
 - 平成21年5月 愛知県議会 副議長
 - 平成23年5月 自由民主党 愛知県議会議員団長
 - 平成24年5月 愛知県 監査委員
 - 平成26年5月 愛知県議会 議会運営委員会委員長
 - 平成27年5月 愛知県議会 文化スポーツ観光振興対策委員会委員長

紹介

顧問



杉浦 孝成・(すぎうら たかしげ)

愛知県議会議員（高浜市選出、当選4回）平成27年5月 顧問就任

- 略歴
- 昭和23年生
 - 昭和41年3月 県立刈谷商業家庭高等学校卒業
 - 平成15年4月 愛知県議会議員当選
 - 平成19年5月 愛知県議会 警察委員会委員長
 - 平成20年5月 愛知県議会 少子高齢化・人づくり対策特別委員会副委員長
 - 平成21年5月 愛知県議会 地域振興環境委員会副委員長
 - 平成23年5月 愛知県議会 地域振興環境委員会委員長
 - 平成27年5月 愛知県議会 副議長

顧問



佐藤 一志・(さとう かずし)

愛知県議会議員（知多市選出、当選2回）平成27年5月 顧問就任

- 略歴
- 昭和28年生
 - 昭和45年3月 流通経済大学卒業
 - 平成23年4月 愛知県議会議員当選
 - 平成27年5月 愛知県議会 健康福祉委員会委員長

紹介

役員名簿

(一社) 愛知県測量設計業協会

名誉顧問	倉 知 俊 彦	前愛知県議会議員
顧問団長	久保田 浩 文	愛知県議会議員
顧 問	鈴 木 孝 昌	愛知県議会議員
〃	杉 浦 孝 成	愛知県議会議員
〃	佐 藤 一 志	愛知県議会議員
会 長	二 村 貴 和	(株) 名邦テクノ
副 会 長	今 村 鐘 年	中部復建 (株)
〃	青 木 拓 生	(株) 拓工
理 事	久 松 顕	久松測量設計(株)
〃	梶 川 洋	(株)梶川土木コンサルタント
〃	寺 島 新 吾	(株)中部テック
〃	石 田 徹	(株)石田技術コンサルタント
〃	浅 井 俊 治	(株)大增コンサルタント
〃	須 藤 一 彦	(株)須藤事務所
〃	早 川 正 喜	早川都市計画(株)
〃	中 西 喜久雄	(株)葵設計事務所
〃	森 正 樹	(株)カナエジオマチックス
〃	古 澤 邦 彦	玉野総合コンサルタント(株)
〃	廣 瀬 博	(株)大建コンサルタント
〃	溝 口 清 孝	協和調査設計(株)
〃	岩 田 敏 彦	中日本建設コンサルタント(株)
監 事	藤 本 博 史	中央コンサルタント (株)
〃	長谷川 英 輝	公認会計士・税理士 (北斗中央税理士法人)
事務局長	中 村 孝 雄	(一社) 愛知県測量設計業協会

紹介

委員会名簿

<p>総務委員会</p> <p>①法人の管理運営 ②入退会及び表彰 ③独禁法の遵守及び相談 ④測量設計業務の実態調査及び解析 ⑤会員の資質向上に関する研修会の開催 ⑥その他、他の委員会に属さない事項</p>	<p>委員長 久松 顕 委員 高木 喜 一 副委員長 寺島 新 吾 川口 英 朗 " 梶川 洋 高橋 晃 淳 委員 中西 慎 仁 坂野 晃 嗣 " 酒井 誠 之 岩木 利 志 " 嶋田 隆 之 今村 鐘 年 " 永田 行 活 " 浜田 哲 也</p>
<p>広報委員会</p> <p>①発注機関への要望活動 ②災害等緊急時における技術援助 ③機関紙「方位」の発刊 ④協会・測量設計業の啓蒙啓発 ⑤その他広報に関する事項</p>	<p>委員長 石田 徹 委員 酒井 泰 明 副委員長 浅井 俊 治 碓井 井 稔 " 須藤 一 彦 加納 弘 " 早川 正 喜 山本 章 好 委員 山本 成 竜 川澄 藤 功 " 青井 大 輔 加藤 健 司 " 相原 大 生 田村 鐘 年 " 伊藤 信 悟 男</p>
<p>測量委員会</p> <p>①測量技術（地理空間情報等）の研鑽 ②研修会及び講師派遣 （国・県・市町村等） ③測量設計無料相談（一般県民等） ④「測量の日」（国土地理院）記念事業の実施 ⑤その他測量（用地業務含む）に関する事項</p>	<p>委員長 中西 喜久雄 委員 富田 昌 也 副委員長 森 正 樹 太田 和 哉 " 古澤 邦 彦 早川 友 幸 委員 柴田 修 身 山田 田 雅 登 " 伊藤 宏 司 アドバイザー 大西 俊 次 " 安藤 敦 司 担当副会長 青木 拓 生 " 青山 紘 一 " 鈴木 善 晴</p>
<p>建設コンサルタント委員会</p> <p>①建設コンサルタント業務の技術の向上・改善 ②事業領域の拡大・研究 ③会員の技術向上に関する研修会 ④その他建設コンサルタントに関する事項</p>	<p>委員長 廣瀬 博 委員 濱田 常 雄 副委員長 溝口 清 孝 村雲 由 喜 " 岩田 敏 彦 鈴木 章 夫 委員 森 富 雄 安井 睦 一 " 舟橋 博文 馬場 慎 一 " 多賀 真 澄 アドバイザー 白木 敏 和 " 伊勢野 真 彦 担当副会長 青木 拓 生</p>

愛知県測量設計業協会会員

正会員

平成27年10月1日現在

社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
(株) アイエスシイ	代表取締役 森 富 雄	466-0059 名古屋市昭和区福江2-9-33	TEL 052-882-1201 fax 052-882-1303 general@isc-ngo.co.jp
(株) 愛河調査設計	代表取締役 山本四十三	457-0074 名古屋市南区本地通六丁目8番地1	TEL 052-819-6508 fax 052-819-6509 somu@aiga-cc.co.jp
愛徳コンサルタント(株)	代表取締役 田 中 康 則	470-0342 豊田市大清水町大清水38番地10	TEL 0565-45-5557 fax 0565-47-7817 aitoku-c@woody.ocn.ne.jp
(株) 愛龍設計事務所	代表取締役 小 栗 金 夫	470-0373 豊田市四郷町森前2番地2	TEL 0565-45-2935 fax 0565-45-9519 airyu@hm6.aitai.ne.jp
(株) 葵エンジニアリング	代表取締役 吉 永 次 男	453-0018 名古屋市中村区佐古前町22番6号	TEL 052-486-2200 fax 052-483-5005 iso@aoi-eng.co.jp
あおい建設コンサルタント(株)	代表取締役 濱 崎 将 志	461-0005 名古屋市東区東桜2丁目3-7	TEL 052-933-2091 fax 052-933-2093 aoi@japan-net.ne.jp
葵コンサルタント(株)	代表取締役 中 川 恵 子	444-2118 岡崎市河原町13番地2	TEL 0564-22-7058 fax 0564-25-2975 soumu2@aoi-con.co.jp
(株) 葵設計事務所	代表取締役 中西喜久雄	440-0085 豊橋市下地町二丁目51番地	TEL 0532-55-5263 fax 0532-55-5218 soumu@aoi-sekkei.jp
(株) アクセス	代表取締役 赤 松 光 昭	448-0013 刈谷市恩田町一丁目159番地1	TEL 0566-23-8667 fax 0566-21-0801 access_survey@katch.ne.jp
(株) 朝日設計事務所	代表取締役 朝 日 烈	465-0024 名古屋市名東区本郷三丁目118番地	TEL 052-774-7181 fax 052-774-0090 soumu@asahisekkeijimusho.co.jp
(有) 旭測量事務所	代表取締役 金 子 昭 義	440-0851 豊橋市前田南町一丁目4番地の12	TEL 0532-54-5934 fax 0532-54-3645 surveyor@cello.ocn.ne.jp
(株) 旭 調 査	代表取締役 村 瀬 伸 吾	468-0052 名古屋市天白区井口一丁目2017番地	TEL 052-838-7721 fax 052-838-7722 asahi@asahi-c.co.jp
(株) あ づ ま	代表取締役 柴 田 修 身	440-0026 豊橋市多米西町一丁目20番地9	TEL 0532-63-1255 fax 0532-63-8075 aduma@631255.jp
アmanoコンサルタント(株)	代表取締役 天 野 隆 俊	444-2131 岡崎市青木町22番地5	TEL 0564-45-2445 fax 0564-45-7776 info@amano-c.com

社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
アローコンサルタント(株)	代表取締役 伊藤 寿浩	462-0007 名古屋市北区如意三丁目62番地	TEL 052-901-7050 fax 052-901-7218 soumu@arrow-c.co.jp
(株)安藤調査設計事務所	代表取締役 安藤 礼志	444-0034 岡崎市十王町2丁目31番地1	TEL 0564-23-1457 fax 0564-23-3877 acsm@titan.ocn.ne.jp
(株)石田技術コンサルタンツ	代表取締役 石田 徹	485-0028 小牧市東新町50番地	TEL 0568-73-1085 fax 0568-73-1099 itcsom@itcnet.co.jp
井上測量設計(株)	代表取締役 佐々木康次	461-0017 名古屋市東区東外堀町3番地	TEL 052-951-1441 fax 052-951-1039 inoue-s@uranus.dti.ne.jp
(株)宇井測量設計	代表取締役 宇井源 悟	444-2528 豊田市東渡合町根畑15番地	TEL 0565-64-2427 fax 0565-64-2439 uiss@lilac.ocn.ne.jp
NTCコンサルタンツ(株)	代表取締役 大村 仁	460-0012 名古屋市中区千代田二丁目16番10号	TEL 052-261-1321 fax 052-261-1655 eigyuu.hn@ntc-c.co.jp
(株) M S S	代表取締役 酒井 誠	454-0054 名古屋市中川区八剣町三丁目24番地	TEL 052-602-7715 fax 052-602-7716 jimuso@kkms.co.jp
(株)オオバ名古屋支店	支店長 納村和 秀	460-0003 名古屋市中区錦一丁目19番24号 名古屋第一ビル7階	TEL 052-219-0083 fax 052-219-0093 info_na@k-ohba.co.jp
(有)大場測量設計事務所	代表取締役 大場孝 男	444-0835 岡崎市城南町3丁目4-3	TEL 0564-52-8505 fax 0564-52-7919 ohba@mikaworld.com
(株)大增コンサルタンツ	代表取締役 増井 壽子	454-0828 名古屋市中川区小本2丁目14番5号	TEL 052-363-1131 fax 052-363-6045 soumu@ohmasu.co.jp
(株)大屋測量設計	代表取締役 大屋 恵雄	451-0077 名古屋市西区笹塚町2丁目70番地 鳥見パークマンション306号	TEL 052-908-0672 fax 052-908-0673 ohyasv@sepia.ocn.ne.jp
(株)梶川土木コンサルタント	代表取締役 梶川 洋	448-0037 刈谷市高倉町4丁目508番地	TEL 0566-24-6606 fax 0566-24-6413 info@k-cc.co.jp
(株)カナエジオマテックス	代表取締役 森 正 樹	460-0012 名古屋市中区千代田一丁目12番5号	TEL 052-249-9611 fax 052-249-9601 kanal@kanal.co.jp
(株)神田設計	代表取締役 伊藤 悟	451-0062 名古屋市西区花の木一丁目3番5号	TEL 052-522-3121 fax 052-522-3000 info@kanda-s.co.jp
(株)協同コンサルタント	代表取締役 近藤 優	458-0801 名古屋市緑区鳴海町字中汐田84番地1	TEL 052-624-3311 fax 052-624-1740 eigyuu@kyodoconsul.com
協和調査設計(株)	代表取締役 安藤敦 司	454-0839 名古屋市中川区篠原橋通二丁目44番地	TEL 052-365-3711 fax 052-365-3712 soumu@ky-cs.co.jp
(株)小嶋コンサルタント	代表取締役 町田 穂積	445-0073 西尾市寄住町上田34番地1	TEL 0563-53-5331 fax 0563-53-5341 kojima-j@kojima-ss.com

社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
コムワークス エンジニアリング(株)	代表取締役 今 枝 晃	466-0058 名古屋市昭和区白金三丁目19番15号	TEL 052-884-8411 fax 052-884-8488 sales@com-worx.co.jp
(株)酒井設計事務所	代表取締役 酒 井 利 之	471-0827 豊田市平山町5丁目1番地	TEL 0565-27-1762 fax 0565-29-8747 sakai@hm6.aitai.ne.jp
栄土地測量設計(株)	代表取締役 青 山 貴 洋	440-0806 豊橋市八町通四丁目49番地	TEL 0532-55-1230 fax 0532-55-3107 info@sakaetochi.co.jp
(株)三愛設計	代表取締役 渡 辺 武 雄	492-8144 稲沢市小池一丁目5番8号	TEL 0587-32-8313 fax 0587-23-2007 office@sanai-sekkei.co.jp
(株)サンキ	代表取締役 鈴 木 勝 彦	456-0032 名古屋市熱田区三本松町6番5号	TEL 052-884-2555 fax 052-882-8001 sanki@3ki.co.jp
三協調査設計(株)	代表取締役 浜 田 哲 也	460-0015 名古屋市中区大井町4番17号	TEL 052-331-5371 fax 052-331-8619 sohmu@sankyocon.co.jp
敷島測量設計(株)	代表取締役 中 島 正 義	462-0014 名古屋市北区楠味鋤三丁目302番地	TEL 052-901-5005 fax 052-901-6780 BCH10311@nifty.com
設楽測量設計(株)	代表取締役 加 藤 博 俊	441-2302 北設楽郡設楽町清崎字岩井25番地2	TEL 0536-62-1456 fax 0536-62-2080 sitasoku@guitar.ocn.ne.jp
柴山コンサルタント(株)	代表取締役 加 藤 銑 彦	461-0011 名古屋市東区白壁一丁目69番地	TEL 052-961-0111 fax 052-961-8560 eigyo@shibayama-consul.co.jp
信栄測量設計(株)	代表取締役 高 木 喜 一	471-0024 豊田市元城町4丁目28番地	TEL 0565-31-1113 fax 0565-31-1149 scc@ruby.ocn.ne.jp
新栄測量設計(株)	代表取締役 赤 石 和 彦	485-0044 小牧市常普請3-124	TEL 0568-76-1755 fax 0568-76-1749 akakiko@r3.dion.ne.jp
新晃コンサルタント(株)	代表取締役 鈴 木 善 晴	462-0853 名古屋市北区志賀本通二丁目46番地	TEL 052-911-1286 fax 052-914-5553 info@shinko-c.com
(株)新城測量設計	代表取締役 加 納 弘	441-1325 新城市字二本松10番地の7	TEL 0536-22-2730 fax 0536-22-2733 sv@shinsoku.jp
(株)新 日	代表取締役 秋 山 学	454-0011 名古屋市中川区山王一丁目8-28	TEL 052-331-5356 fax 052-331-4010 business@shinnichi.co.jp
(株)伸 和	代表取締役 林 清 一	457-0863 名古屋市南区豊一丁目45番12号	TEL 052-692-0146 fax 052-692-0423 hayashi@kk-shinwa.com
杉浦測量(有)	代表取締役 高 木 清	444-0802 岡崎市美合町字西屋敷24番地1	TEL 0564-51-0037 fax 0564-55-6544 sugiuras@smile.ocn.ne.jp
(有)杉田測量設計事務所	代表取締役 杉 田 正 春	444-3502 岡崎市大幡町字東方便野22	TEL 0564-48-7511 fax 0564-48-5061 sugisoku@m3.catvmics.ne.jp

社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
(株) 須 藤 事 務 所	代表取締役 須 藤 一 彦	471-0842 豊田市土橋町四丁目67番地	TEL 0565-29-0281 fax 0565-29-0641 bond@sudou.net
双 和 測 量 設 計 (株)	代表取締役 日 置 俊 夫	452-0839 名古屋市西区見寄町173番地	TEL 052-503-2109 fax 052-503-3083 SOWA2109@guitar.ocn.ne.jp
太 栄 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	代表取締役 川 口 英 朗	460-0012 名古屋市中区千代田三丁目26番18号	TEL 052-332-3355 fax 052-321-3275 soumu@daiei-con.co.jp
(株) 大 建 コ ン サ ル タ ン ト	代表取締役 廣 瀬 博	460-0011 名古屋市中区大須四丁目11番17号	TEL 052-252-5171 fax 052-252-8044 gyoumu@daikenc.jp
(株) 大 地 コ ン サ ル タ ン ト	代表取締役 山 本 章 好	440-0026 豊橋市多米西町一丁目21番地3	TEL 0532-21-6649 fax 0532-21-6604 ddm@daichi-c.jp
(株) 拓 工	代表取締役 青 木 拓 生	456-0004 名古屋市熱田区桜田町15番22号	TEL 052-883-2711 fax 052-883-2716 kanri-honbu@c-takko.co.jp
玉 野 総 合 コ ン サ ル タ ン ト (株)	代表取締役会長 田 部 井 伸 夫	461-0005 名古屋市東区東桜二丁目17番14号	TEL 052-979-9111 fax 052-979-9112 ts-society@tamano.co.jp
中 央 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	代表取締役 藤 本 博 史	451-0042 名古屋市西区那古野二丁目11番23号	TEL 052-551-2541 fax 052-551-2540 honsha-info@chuoh-c.co.jp
(株) 中 建	代表取締役 岩 木 利 志	464-0823 名古屋市千種区松竹町一丁目40番地	TEL 052-762-1341 fax 052-762-1633 chuken@k7.dion.ne.jp
中 部 地 域 整 備 (株)	代表取締役 青 山 茂 喜	460-0002 名古屋市中区丸の内二丁目2番15号	TEL 052-201-2831 fax 052-204-4858 CRD@chance.ne.jp
(株) 中 部 テ ク ノ ス	代表取締役 筒 俊 充	465-0051 名古屋市名東区社が丘一丁目501番地	TEL 052-703-0890 fax 052-704-3390 eb.ngy@c-aas.co.jp
(株) 中 部 テ ッ ク	代表取締役 寺 島 新 吾	465-0092 名古屋市名東区社台三丁目48番地	TEL 052-771-1251 fax 052-775-1310 info@chubu-tech.co.jp
中 部 土 地 調 査 (株)	代表取締役 小 田 文 昭	451-0042 名古屋市西区那古野二丁目26番8号	TEL 052-565-1881 fax 052-565-1895 c-tochi@chubutochicityousa.co.jp
中 部 復 建 (株)	代表取締役 今 村 鐘 年	466-0059 名古屋市昭和区福江一丁目1805番地	TEL 052-882-6611 fax 052-882-9844 eigyuu@chubu-fk.co.jp
司 開 発 (株)	代表取締役 川 澄 功	448-0028 刈谷市桜町一丁目10番地	TEL 0566-23-1056 fax 0566-23-1196 info@tsukasa-kaihatsu.com
(株) つ か も と	代表取締役 塚 本 兼 之	486-0927 春日井市柏井町2丁目59番地	TEL 0568-31-7268 fax 0568-31-4509 soumu@tukamoto.co.jp
東 亜 測 量 設 計 (株)	代表取締役 亀 井 幸 隆	468-0064 名古屋市天白区道明町195番地	TEL 052-832-7322 fax 052-834-8526 toua@toua-kk.com

社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
東 栄 測 量 設 計 (株)	代表取締役 松本幸三	454-0961 名古屋市中区戸田明正二丁目 2210番地	TEL 052-618-8760 fax 052-618-8761 t-soumu@touei.ecnet.jp
(株)東海コンサルタンツ	代表取締役 中沢真三	440-0862 豊橋市向山大池町17番地11	TEL 0532-53-3400 fax 0532-53-3401 main@tokai-con.jp
東 洋 測 量 設 計 (株)	代表取締役 松井宗廣	462-0011 名古屋市北区五反田町81番地	TEL 052-902-1811 fax 052-902-3503 somu@tc-toyo.co.jp
中 日 本 建 設 コ ン サ ル タ ン ト (株)	代表取締役 上田直和	460-0003 名古屋市中区錦一丁目8番6号 ストークビル名古屋	TEL 052-232-6032 fax 052-221-7827 t.iwata@nakanihon.co.jp
中 日 本 航 空 測 量 (株)	代表取締役 住吉胤祐	456-0033 名古屋市熱田区花表町20番35号	TEL 052-881-6178 fax 052-871-7188 nks50@k9.dion.ne.jp
(有) 西 尾 測 量	代表取締役 西尾榮司	471-0842 豊田市土橋町5丁目9番地3	TEL 0565-29-7124 fax 0565-26-1891 nishio-s@hm3.aitai.ne.jp
(株)西三河都市計画	代表取締役 林孝善	444-0807 岡崎市美合西町7番地3	TEL 0564-63-0233 fax 0564-63-1829 nt-co@sk2.aitai.ne.jp
(株)日進サーベ	代表取締役 浅井立	462-0037 名古屋市北区志賀町三丁目22番地の3	TEL 052-914-2678 fax 052-913-3746 nissin-s@gamma.ocn.ne.jp
ニチイコンサルタント(株)	代表取締役 杉谷芳征	491-0837 一宮市多加木二丁目9番3号	TEL 0586-71-8781 fax 0586-71-8786 NICHII@nichii.co.jp
(有) 額 田 測 量	代表取締役 高橋有	444-2223 豊田市松平志賀町マゴイチ10-14	TEL 0565-86-1321 fax 0565-86-1322 nukataso@hm9.aitai.ne.jp
早 川 都 市 計 画 (株)	代表取締役 早川正喜	471-0805 豊田市美里二丁目17番地の5	TEL 0565-89-8068 fax 0565-89-8067 toyota@hayakawa-t.co.jp
久 松 測 量 設 計 (株)	代表取締役 久松 顕	492-8143 稲沢市駅前四丁目7番11号	TEL 0587-21-4077 fax 0587-24-1245 info@hisasoku.com
富士エンジニアリング(株)	代表取締役 寺本博亘	464-0067 名古屋市千種区池下一丁目11番21号 サンコート池下5階	TEL 052-763-1616 fax 052-763-1675 a.takeuti@fuji-eng.co.jp
不 地 弘 測 量 設 計 (株)	代表取締役 太田昭彦	470-0374 豊田市伊保町上北野49番地2	TEL 0565-45-8336 fax 0565-45-3292 fujikoh-ota@nifty.com
藤 コ ン サ ル (株)	代表取締役 藤本桂介	451-0025 名古屋市西区上名古屋三丁目12番5号	TEL 052-522-7701 fax 052-531-2545 eigyo@fuji-con.co.jp
フジコンサルタント(株)	代表取締役 加藤健司	497-0044 海部郡蟹江町大字蟹江新田字前波 226番地	TEL 0567-96-1063 fax 0567-96-1647 info@fujicon-c.co.jp
(株)丸太測量設計事務所	代表取締役 梅村正明	471-0024 豊田市元城町2丁目8番地2	TEL 0565-32-5121 fax 0565-31-9167 marutas@estate.ocn.ne.jp

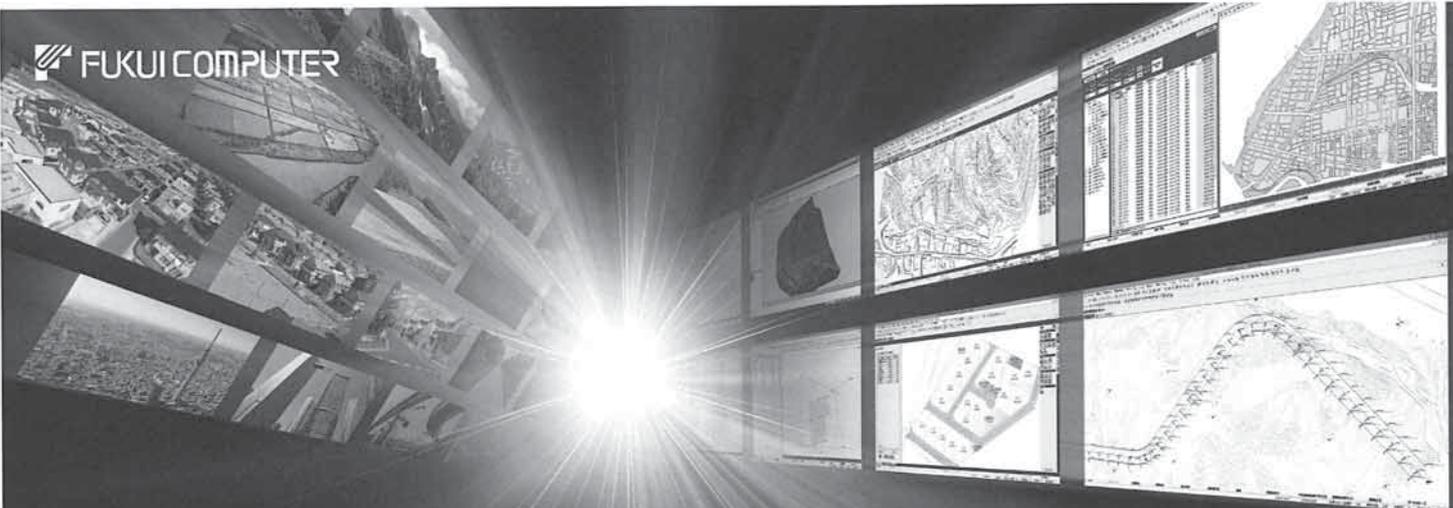
社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
(株) メ イ ト ー テ ッ ク	代表取締役 上 山 義 之	455-0003 名古屋市港区辰巳町1番44号	TEL 052-654-0363 fax 052-654-5416 k.yoshiyuki@meito-tech.co.jp
(株) 名 邦 テ ク ノ	代表取締役 山 崎 武 男	457-0048 名古屋市南区大磯通六丁目9番地2	TEL 052-823-7111 fax 052-823-7110 soumu@meiho-techno.co.jp
(株) 名 北 総 合 技 研	代表取締役 山 田 雅 登	462-0801 名古屋市北区新堀町49	TEL 052-981-4916 fax 052-981-4878 eigyo@meihoku-sg.co.jp
(株) 横 測	代表取締役 宮 川 栄 一	477-0037 東海市高横須賀町西岨14番地	TEL 0562-33-1294 fax 0562-33-0468 info@aichi-yokosoku.co.jp
リ ー ド 測 量 設 計 (株)	代表取締役 音 部 祥 一 郎	444-0116 額田郡幸田町大字芦谷字要善1番地7	TEL 0564-62-6367 fax 0564-62-6567 lead@viola.ocn.ne.jp
若 鈴 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	代表取締役 前 田 元 弘	452-0807 名古屋市西区歌里町349番地	TEL 052-501-1361 fax 052-502-1628 soumu@wakasuzuc.co.jp

準会員

社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
(株)フジヤマ名古屋支店	支店長 山本貴嗣	460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目11番15号	TEL 052-218-4300 fax 052-218-4301 nagoya@con-fujiyama.com
(株)ランド・コンサルタント 中 部 支 社	取締役支社長 洞ノ口一伸	467-0862 名古屋市瑞穂区堀田通八丁目18番地 ウイステリア堀田201号室	TEL 052-693-6218 fax 052-884-7221 chubu-b.o@land-c.co.jp

賛助会員

社 名	代 表 者 名	所 在 地	TEL/FAX/mail
(株)日刊建設工業新聞社 名 古 屋 支 社	取締役支社長 西田 匠	461-0001 名古屋市東区泉一丁目22番22号 TODAビル	TEL 052-961-2631 fax 052-961-2635 nagoya@decn.co.jp
中 京 コ ピ ー (株)	代表取締役 嶋津誠司	461-0001 名古屋市東区泉三丁目30番3号	TEL 052-931-2611 fax 052-931-2366 c-net@chukyocopy.co.jp
(株) 東 海 八 嶋	代表取締役 嶋津誠司	456-0004 名古屋市熱田区桜田町16番3号	TEL 052-883-3015 fax 052-883-3010 tohachi@chukyocopy.co.jp



フィールドデザインで日本の未来を創る

測量計算CADシステム「BLUETREND XA」

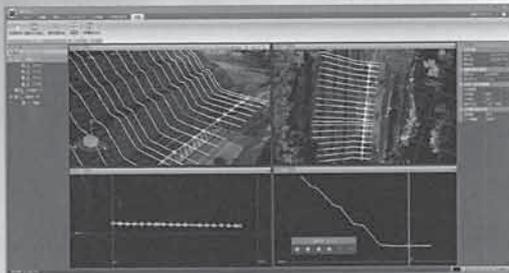
豊富な測量計算機能と、それに連動した専用CADで、「都市部」「平野部」「山間部」などあらゆるフィールドの測量業務に迅速に対応。

BLUETREND XA

測量計算CADシステム【ブルートレンド エグザ】

数億点の高速処理を実現する3D点群処理システム

急速に普及が進む点群データを効果的に活用!



▲点群データから断面を抽出



TREND-POINT

3D点群処理システム【トレンドポイント】

軽快なフィールドワークを担う!

現場仕様の抜群の操作性! 情報収集・集約もこの1台!
現況観測はもちろん、縦断観測・横断観測も!



X-FIELD

現場端末システム【クロスフィールド】

福井コンピュータ株式会社

本社 / 〒910-0297 福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6

札幌・青森・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・埼玉・千葉・東京・横浜・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・山口・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

●製品に関するお問い合わせは  **0570-550-291**

カスタマサポートセンター【受付時間】9:00~12:00 / 13:00~18:00

※土曜、日曜、祝祭日、弊社指定の休業日は除きます。

上記ナビダイヤルは福井県坂井市に着信し、着信地までの通話料はお客様のご負担となります。また、通話料金につきましてはマイラインの登録に関わらず、NTTコミュニケーションズからの請求となります。携帯電話からのご利用の場合は20秒ごとに10円の通話料がお客様のご負担となります。

●製品の詳しい情報、カタログのご請求は

福井コンピュータ

検索

<http://const.fukuicompu.co.jp>

グループ保険制度

(こども特約付災害保障特約付こども災害保障特約付災害割増特約付こども災害割増特約付新・団体定期保険)



● 制度内容(企業負担型・個人負担型共通)

区分	口数	月額保険料	一般の死亡または高度障害 (死亡・高度障害保険金)	不慮の事故による死亡または特定感染症による死亡 (死亡保険金+災害保険金)	不慮の事故による高度障害(※①) (高度障害保険金+災害高度障害保険金+障害給付金【給付割合表「第1級」】)	不慮の事故による身体障害(程度により)【障害給付金【給付割合表「第2級~第6級」】】	不慮の事故による5日以上の入院 (120日を上限として)【入院給付金】
本人	60	円 5,820	万円 1,200	万円 2,400	万円 2,400	万円 60~420	円 1日につき 9,000
	50	円 4,850	万円 1,000	万円 2,000	万円 2,000	万円 50~350	円 1日につき 7,500
	40	円 3,880	万円 800	万円 1,600	万円 1,600	万円 40~280	円 1日につき 6,000
	30	円 2,910	万円 600	万円 1,200	万円 1,200	万円 30~210	円 1日につき 4,500
	20	円 1,940	万円 400	万円 800	万円 800	万円 20~140	円 1日につき 3,000
	10	円 970	万円 200	万円 400	万円 400	万円 10~70	円 1日につき 1,500

加入企業(加入者)が保険料を拠出し、全測連中部で共有の基金を作り、その基金から加入者が万が一の場合(死亡・高度障害)の保険金や不慮の事故による給付金をお支払いします。また、1年ごとに収支計算を行って剰余金が生じた場合には配当金として、加入企業(加入者)に還付する仕組みとなっています。

- (注)配当率は、お支払い時期の前年度決算により決定しますので、将来お支払いする配当金額は現時点では確定していません。
- ◎本人コースの他に、配偶者コース・こどもコースもあります。(配偶者コース・こどもコースは個人負担型のみ取扱い可能です。)
 - ◎記載の保険料は正規保険料です。
 - ◎保険料は、年齢に関係なく一律です。
 - ◎制度内容等詳細についてはパンフレットをご一読ください。

(※①) 不慮の事故による高度障害の場合、高度障害保険金+災害割増特約から災害高度障害保険金+災害保障特約から障害給付金(給付割合表第1級)をお支払いします。
特定感染症による高度障害の場合、高度障害保険金+災害割増特約から災害高度障害保険金をお支払いします。

お問合せ先 (一社)全国測量設計業協会連合会中部地区協議会
引受会社 明治安田生命保険(相) 中部公法人部 法人営業第一部 TEL 052-951-9100

MY-A-15-他-006562

厚生年金基金 国の年金の上積み給付

特色

- **年金・一時金の給付**
国の厚生年金を代行し、さらに基金独自の上積み(約25%程度)した年金給付や退職時・死亡時の一時金の給付を行います。
- **幅広い福祉事業**
結婚・出産・就学・死亡等の様々な慶弔金及び災害に対する見舞金、全国の宿泊保養施設の宿泊補助金等の支給を行います。

厚生年金保険法の改正に伴い、当基金は「確定給付年金(DB)」移行を検討しています。

確定拠出年金 (そくりようDC)

特色

- **制度導入・運営等の事務費負担軽減**
- **高品質・低コストな運用商品**

従来の年金制度と異なり、将来の給付額は個人(従業員)の運用結果で変動します。事業主様が負担する掛金は定額で、運用結果等で変動することはありません。



測量基金

検索



全国測量業厚生年金基金

〒162-8626 東京都新宿区山吹町11番地1
TEL: 03-3235-7211



保証事業を通じて
安全で活力のある社会を創るための
お手伝いをしています

 **東日本建設業保証株式会社**

- 業務委託時の資金調達には
- 契約時に保証金を積む代わりに

- **前払金保証**
- **契約保証**

KKS **株式会社建設経営サービス**

- 出来高に応じた資金調達手段として
- 最適工程・粗利拡大を実現するには

- **出来高融資**
- **土木施工管理者のためのCPDS認定WEBセミナー**

 **日本電子認証株式会社**

- 電子入札の応札時に
- 様々な電子申請に対応

- **AOSignサービス**
- **法人認証カード**

各種お申込・お問合せは

東日本建設業保証株式会社 愛知支店

〒461-0008 愛知県名古屋市東区武平町5-1 名古屋栄ビルディング3F

TEL 052-962-3461 FAX 0120-027-516

URL <http://www.ejcs.co.jp>

大切な催しにレセプションハウスの “おもてなし”をお役立てください。



レセプションハウス 名古屋通信会館

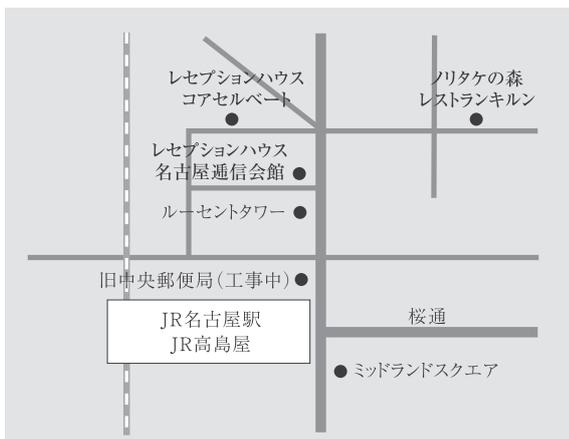


レセプションハウス コアセルベート



ノリタケの森 レストランキリン

進化を続ける名古屋駅前から北へ徒歩6分。
 充実した設備と真心こもった
 おもてなしのレセプションハウス。
 パーティーや会議・セミナーなど多彩な催しが
 可能な3つの館をご用意し、
 みなさまのご利用をお待ち申し上げます。



レセプションハウス 名古屋通信会館

〒451-0046 名古屋市西区牛島町5番6号
 tel.052-551-5111 fax.052-551-5151
www.teishin.co.jp



レセプションハウス コアセルベート

〒451-0046 名古屋市西区牛島町4番8号
 tel.052-551-5110 fax.052-551-5255
www.coacervate.jp



ノリタケの森 レストランキリン

〒451-8501 名古屋市西区則武新町3丁目1番36号
 tel.052-561-7304 fax.052-561-7308
www.noritake.co.jp



感謝を複写して半世紀

お客様へ、6つの約束

1 24時間 365日対応

中京コピーは「24時間365日作業体制」を敷いております。
週末や深夜時間帯も計画に入れて工程を組みますので、突発的な大量物件へも「驚きの短期対応」を実現します。
また当社のオンラインデータ入稿サービス「OC_Web」をご利用いただけますと、例えば深夜入稿→翌朝納品といったフローでお客様をサポートすることも可能です。

2 品質管理の 徹底

最新鋭のオンデマンド印刷機をはじめ、大型・高速スキャナや高品質製本機器などを駆使してお客様をバックアップします。
用紙選択から加工・梱包に至るまで、作業段階ごとに整備されたマニュアルに基づき、ご満足いただける商品づくりに努めております。

3 全国各地へ 営業・出張対応

中部地区はもちろん、全国どこへもお伺いいたします。
「現地事務所内で機密資料を電子化」、「原稿確認とお見積り」など、なんでもお気軽にご相談ください。
最良のプランをご提案させていただきます。



4 入力から出力まで 一貫して対応

1つの物件で、編集作業はA社へ、印刷・製本はB社へと、バラバラに発注しなければならず、仕上りをまとめるタイミングが合わない...というような、煩わしい思いをされていませんか？
中京コピーなら、データ編集、出力から最終加工まですべて「社内一貫作業」です。

5 万全なセキュリティ体制で 安全を確保

お客様からお預かりした原稿データや機密情報は、納品完了後、マニュアルに基づき速やかに削除しております。
プライバシーマーク認証をはじめ、セキュリティに関する有資格者の在籍、個人情報漏洩保険への加入、日常の入退室管理などについても徹底し、情報漏洩防止に努めております。

6 お客様の書類管理を 有資格者がサポート

「JIIIMA: 文書情報管理士」
「JACIC: CALS/ECインストラクター」
「OCF: SXF技術者」
「NOMA: ファイリング・デザイナー」
「知的財産管理技能士」
などの有資格者が多数在籍しております。
外部講習への参加や、社内勉強会の定期開催など、日々最新情報の収集にも努めております。



プリントオンデマンド

少部数&低コスト印刷の決定版

必要な時に必要な数だけ安く印刷したい...そんな時代の声にお応えする印刷方式「プリントオンデマンド」。カラーコピーやインクジェットプリンターより高品質で、製本などの仕上げもパーフェクト。ビジネスにもプライベートにもお気軽にご利用いただけます。

■ 個人出版

一冊からでも心を込めて印刷・製本。
装丁のデザインもご提案!

■ 会議資料・マニュアル

「明日の会議に間に合わせたい」...
そんなご要望にもスピーディーに対応!

■ カタログ・パンフレット

必要な部数だけ印刷し、
販促コストを大幅に削減!

■ メニュー

写真差し替えもすぐに対応。
オリジナルメニューでイメージアップ!



プロットアウト

小物から垂れ幕サイズまで出力

図面データや大型カラーポスターなど、一般のプリンターでは出力不可能なサイズに対応します。

電子納品

専門インストラクターが完全サポート

CALS/ECインストラクターが多数在籍し、お客様の電子納品を完全サポート。業界トップの設備と実績でご要望にお応えします。



スキャニング・電子ファイリング

膨大な資料を超コンパクト化

- お客様の紙原稿をデジタルデータ化。
- MO、CD-R、DVD-R他、お好みのメディアに保存。
- 書類の保存、保管に最適。
- 倉庫、書庫の省スペース化を図り、コストを削減。
- 必要な書類の検索や出力が簡単。
- PDF、しおり、サムネールなどもOK。
- 当社オリジナルのNeoviewもご用意。
- お客様のニーズに合わせたカスタマイズも可能。



中京コピー株式会社

ISO 14001認証取得 エコ事業所認定

TEL 052-931-2611

www.chukyocopy.co.jp



編集後記

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の死者行方不明の方は、18,465人（警察庁発表 H27. 9.10）を数えます。被災された皆様方に、改めて衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。又、復旧・復興に寝食の間も惜しんで御努力されている多くの皆様方に最大級の敬意を表します。

また、南海トラフ巨大地震予想では、死者32万人など壊滅的な被害が想定されています。産・官・学が一同に会して中部圏地震防災戦略会議が幾多となく開催され、「基本戦略」が発表されました。我々、（一社）愛知県測量設計業協会の会員全員は、職責として国民の安全・安心を確保しなければなりません。具体的には、災害協定の締結など、最前線で道路啓開・航路啓開などで技術的判断を行う働きが求められています。しかし、技術者自身やその家族が被災した場合、企業が被災した場合、又現場への移動は？、連携するパートナーは？等課題は多数あると考えます。早急に、産・官・学が一体となった初動体制の確立をまとめ上げなければと考えています。なお、私共は更なる技術力の向上にも取り組んでいきます。

ご多忙の中、ご寄稿いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

この機関誌は、皆様方の仕事等を通じての研究、事例の紹介、幅広い活動の中でのご意見を発表し、公私にわたるご活躍の一助になればと願っています。

今後とも多くの方からのご寄稿をお待ちしております。

～第32回全国都市緑化あいちフェアは、11月8日まで開催しています。県民の皆様のご来場を心よりお待ちしております。～

広報グループ



『方位』 第38号

発行／ 平成27年10月7日発行

発行者／ 一般社団法人 愛知県測量設計業協会
〒460-0002
名古屋市中区丸の内3丁目19番30号
愛知県住宅供給公社ビル3階
TEL(052) 953-5021
FAX(052) 953-5020
E-mail:jimukyoku@aisokkyo.or.jp

編集／ 担当副会長 今村 鐘年
広報委員長 石田 徹
広報グループ
事務局

印刷／ 中京コピー株式会社